



D-Link DBS-2000 シリーズ

D-Link Nuclias – Cloud networking solution

.....ユーザマニュアル.....



安全にお使いいただくために

ご自身の安全を確保し、システムを破損から守るために、以下に記述する安全のための指針をよくお読みください。

安全上のご注意

必ずお守りください

本製品を安全にお使いいただくために、以下の項目をよくお読みになり必ずお守りください。

	この表示を無視し、間違った使い方をすると、死亡または重傷を負うおそれがあります。
	この表示を無視し、間違った使い方をすると、火災や感電などにより人身事故になるおそれがあります。
	この表示を無視し、間違った使い方をすると、傷害または物的損害が発生するおそれがあります。

記号の意味

してはいけない「禁止」内容です。 必ず実行していただく「指示」の内容です。

危険



分解・改造をしない
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



ぬれた手でさわらない
感電の原因となります。



水をかけたり、ぬらしたりしない
内部に水が入ると、火災、感電、故障の原因となります。



水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）でぬれた状態で触ったり、電源を入れたりしない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。



各種端子やスロットに水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）をいれない。万が一、入ってしまった場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜く
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。



油煙、湯気、湿気、埃の多い場所、高温になる場所や熱のこもりやすい場所（火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内、風呂場など）、振動の激しい場所では、使用、保管、放置しない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。



内部に金属物や燃えやすいものを入れない
火災、感電、故障の原因となります。



砂や土、泥をかけたり、直に置いたりしない。
また、砂などが付着した手で触れない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。



電子レンジ、IH 調理器などの加熱調理機、圧力釜など高压容器に入れたり、近くに置いたりしない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。

警告



落としたり、重いものを乗せたり、強いショックを与えたり、圧力をかけたりしない
故障の原因となります。



発煙、焦げ臭い匂いの発生などの異常状態のまま使用しない
感電、火災の原因となります。
使用を止めて、ケーブル/コード類を抜いて、煙が出なくなつてから販売店に修理をご依頼ください。



表示以外の電圧で使用しない
火災、感電、または故障の原因となります。



たこ足配線禁止
たこ足配線などで定格を超えると火災、感電、または故障の原因となります。



設置、移動のときは電源プラグを抜く
火災、感電、または故障の原因となります。



雷鳴が聞こえたら、ケーブル/コード類にはさわらない
感電の原因となります。



ケーブル/コード類や端子を破損させない
無理なねじり、引っ張り、加工、重いもの下敷きなどは、ケーブル/コードや端子の破損の原因となり、火災、感電、または故障の原因となります。



本製品付属の AC アダプタもしくは電源ケーブルを指定のコンセントに正しく接続して使用する
火災、感電、または故障の原因となります。



各光源をのぞかない
光ファイバケーブルの断面、コネクタおよび本製品のコネクタや LED をのぞきますと強力な光源により目を損傷するおそれがあります。



各種端子やスロットに導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）を接触させたり、ほごりが内部に入ったりしないようにする
火災、やけど、けが、感電または故障の原因となります。



使用中に布団で覆ったり、包んだりしない
火災、やけどまたは故障の原因となります。



ガスリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉じんが発生する場所に立ち入る場合は、必ず事前に本製品の電源を切る
引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。



カメラのレンズに直射日光などを長時間あてない
素子の退色、焼付きや、レンズの集光作用により、火災、やけど、けがまたは故障の原因となります。



無線製品は病院内で使用する場合は、各医療機関の指示に従って使用する
電子機器や医療電気機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。



本製品の周辺に放熱を妨げるようなもの（フィルムやシールでの装飾を含む）を置かない
火災、または故障の原因となります。



耳を本体から離してご使用ください
大きな音を長時間連続して聞くと、聴覚などの耳の障害の原因となります。



無線製品をご使用の場合、医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは、販売業者に、電波による影響について確認の上使用する
医療電気機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。



高精度な制御や微弱な信号を取り扱う
電子機器の近くでは使用しない
電子機器が誤作動するなど、悪影響を及ぼすおそれがあります。



ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際は、割れたガラスや露出した端末内部に注意する
破損部や露出部に触れると、やけど、けが、感電の原因となります。



ペットなどが本機に噛みつかないように注意する
火災、やけど、けがなどの原因となります。



コンセントに AC アダプタや電源ケーブルを抜き差しするときは、金属類を接触させない
火災、やけど、感電または故障の原因となります。



AC アダプタや電源ケーブルに
海外旅行用の変圧器等を使用しない
発火、発熱、感電または故障の原因となります。

警告

- 

AC アダプタもしくは電源プラグについたほこりは、拭き取るほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
- 

AC アダプタや電源ケーブルをコンセントにさしこむときは、確実に差し込む。確実に差し込まないと、火災、やけど、感電もしくは故障の原因となります。
- 

接続端子が曲がるなど変形した場合は、直ちに使用を中止する。また、変形をもとに戻しての使用も行わない。端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電または故障の原因となります。
- 

各種接続端子を機器本体に接続する場合、斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしない。火災、やけど、感電または故障の原因となります。
- 

使用しない場合は、AC アダプタもしくは電源ケーブルをコンセントから抜く。電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
- 

お手入れの際は、AC アダプタもしくは電源ケーブルをコンセントから抜く。抜かずに行くと、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
- 

SD や MicroSD カード、USB メモリの使用中は、カードやメモリを取り外したり、本製品の電源を切ったりしない。データの消失、機器本体の故障の原因となります。
- 

磁気カードや磁気を帯びたものを本製品に近づけない。磁気カードのデータが消えてしまうおそれもしくは機器本体の誤作動の原因となります。
- 

ディーリンクジャパンが販売している無線機器は国内専用のため、海外で使えない。海外では国によって電波使用制限があるため、本製品を使用した場合、罰せられる場合があります。海外から持ち込んだディーリンク製品や並行輸入品を日本国内で使用する場合も同様に、罰せられる場合があります。

注意

- 

乳幼児の手の届く場所では使わない。やけど、ケガまたは感電の原因となります。
- 

静電気注意
コネクタや電源プラグの金属端子に触れたり、帯電したものを近づけると故障の原因となります。
- 

コードを持って抜かない。コードを無理に曲げたり、引っ張ると、コードや機器本体の破損の原因となります。
- 

振動が発生する場所では使用しない。故障の原因となります。
- 

付属品の使用は取扱説明書に従う。本製品の付属品は、取扱説明書に従い、他の製品に使用しないでください。機器の破損の原因となります。
- 

破損したまま使用しない。火災、やけどまたはけがの原因となります。
- 

ぐらついた台の上や傾いた場所などの不安定な場所や高所には置かない。落下して、けがなどの原因となります。
- 

子供が使用する場合は、保護者が取扱いの方法を教え、誤った使い方をさせない。けがや故障などの原因となります。
- 

本製品を長時間連続使用する場合は、温度が高くなることもあるため、注意する。また、使用中に眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにする。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌の赤みやかゆみ、かぶれ、低温やけどの原因となります。
- 

コンセントにつないだ状態で、AC アダプタや電源コンセントに長時間触れない。やけど、感電の原因となります。
- 

一般の電話機やコードレス電話、テレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで使用しない。近くで使用すると、本製品が悪影響を及ぼす原因となる場合があるため、なるべく離れた場所で使用してください。
- 

D-Link が指定したオプション品がある場合は、指定オプション品を使用する。不正なオプション品を使用した場合、故障、破損の原因となります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI - A

ご使用上の注意

けがや感電、火災および装置の破損のリスクを減らすために、以下の注意事項を遵守してください。

- マニュアルなどに記載されている以外の方法でのご使用はやめてください。
- 食べ物や飲み物が本製品にかからないようにしてください。また、水気のある場所での運用は避けてください。
- 本製品の開口部に物をさしこまないでください。火事や感電を引き起こすことがあります。
- 付属の AC アダプタもしくは電源ケーブルのみを使用してください。
- 感電を防止するために、本製品と周辺機器の電源ケーブルは、正しく接地された電気コンセントに接続してください。
- やむなく延長コードや電源分岐回路を使用する場合においても、延長コードと電源分岐回路の定格を守ってください。延長コードまたは電源分岐回路に差し込まれているすべての製品の合計定格アンペア数が、その延長コードまたは、電源分岐回路の定格アンペア限界の 8 割を超えないことを確認してください。
- 一時的に急激に起こる電力の変動から本製品を保護するためには、サージサプレッサ、回線調整装置、または無停電電源装置（UPS）を使用してください。
- ケーブルと電源コードは慎重に取り付けてください。踏みつけられたり踏いたりしない位置に、ケーブルと電源コードを配線し、コンセントに差し込んでください。また、ケーブル上に物を置いたりしないようにしてください。
- 電源ケーブルや電源プラグを改造しないでください。
- システムに対応しているホットプラグ可能な電源装置に電源を接続したり、切り離したりする際には、以下の注意を守ってください。
 - 電源装置を取り付ける場合は、電源装置を取り付けてから、電源ケーブルを電源装置に接続してください。
 - 電源装置を取り外す場合は、事前に電源ケーブルを抜いておいてください。
 - システムに複数の電源がある場合、システムから電源を切り離すには、すべての電源ケーブルを電源装置から抜いておいてください。
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取り扱い説明書に従ってください。
- 本製品は動作中に高温になる場合があります。本製品の移動や取り外しの際には、ご注意ください。
- 本製品は動作中に高温になる場合がありますが、手で触れることができる温度であれば故障ではありません。ただし長時間触れたまま使用しないでください。低温やけどの原因になります。
- 市販のオプション品や他社製品を使用する場合、当社では動作保証は致しませんので、予めご了承ください。
- 製品に貼られているラベルや「Warranty Void Sticker」（シール）をはがさないでください。はがしてしまうとサポートを受けられなくなります。
※当社出荷時に「Warranty Void Sticker」（シール）が貼られていない製品もあります。

静電気障害を防止するために

静電気は、本製品内部の精密なコンポーネントを損傷する恐れがあります。静電気による損傷を防ぐため、本製品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。

さらに、静電気放出（ESD）による損傷を防ぐため、以下の手順を実行することをお勧めします。

1. 機器を箱から取り出すときは、機器をシステム等に取り付ける準備が完了するまで、本製品を静電気防止包装から取り出さないでください。静電気防止包装から取り出す直前に、必ず身体の静電気を逃がしてください。
2. 静電気に敏感な部品を運ぶ場合、最初に必ず静電気対策を行ってください。
3. 静電気に敏感な機器の取り扱いは、静電気のない場所で行います。可能であれば、静電気防止床パッド、作業台パッド、および帯電防止接地ストラップを使用してください。

電源の異常

万一停電などの電源異常が発生した場合は、必ず本スイッチの電源プラグを抜いてください。電源が再度供給できる状態になってから電源プラグを再度接続します。

ラック搭載型製品に関する一般的な注意事項

ラックの安定性および安全性に関する以下の注意事項を遵守してください。また、システムおよびラックに付随する、ラック設置マニュアル中の注意事項や手順についてもよくお読みください。

- システムとは、ラックに搭載されるコンポーネントを指しています。コンポーネントはシステムや各種周辺デバイスや付属するハードウェアも含みます。

警告 前面および側面のスタビライザを装着せずに、システムをラックに搭載すると、ラックが倒れ、人身事故を引き起こす場合があります。ラックにシステムを搭載する前には、必ずスタビライザを装着してください。

警告 接地用伝導体を壊したり、接地用伝導体を適切に取り付けずに装置を操作しないでください。適切な接地ができるかわからない場合、電気保安協会または電気工事士にお問い合わせください。

警告 システムのシャーシは、ラックキャビネットのフレームにしっかり接地される必要があります。接地ケーブルを接続してから、システムに電源を接続してください。電源および安全用接地配線が完了したら、資格を持つ電気検査技師が検査する必要があります。安全用接地ケーブルを配線しなかったり、接続されていない場合、エネルギーハザードが起こります。

- ラックにシステム / コンポーネントを搭載した後は、一度にスライド・アセンブリに乗せて引き出すコンポーネントは1つのみとしてください。2つ以上のコンポーネントが引き出されると、ラックがバランスを失い、倒れて重大な事故につながる恐れがあります。
- ラックに装置を搭載する前に、スタビライザがしっかりとラックに固定されているか、床面まで到達しているか、ラック全体の重量がすべて床にかかるようになっているかをよく確認してください。ラックに搭載する前に、シングルラックには前面および側面のスタビライザを、複数結合型のラックには前面用スタビライザを装着してください。
- ラックへの装置の搭載は、常に下から上へ、また最も重いものから行ってください。
- ラックからコンポーネントを引き出す際には、ラックが水平で、安定しているかどうか確認してから行ってください。
- コンポーネントレール解除ラッチを押して、ラックから、またはラックへコンポーネントをスライドさせる際は、指をスライドレールに挟まないよう、気をつけて行ってください。
- ラックに電源を供給する AC 電源分岐回路に過剰な負荷をかけないでください。ラックの合計負荷が、分岐回路の定格の 80 パーセントを超えないようにしてください。
- ラック内部のコンポーネントに適切な空気流があることを確認してください。
- ラック内の他のシステムを保守する際には、システムやコンポーネントを踏みつけたり、その上に立ったりしないでください。

注意 資格を持つ電気工事士が、DC 電源への接続と接地を行う必要があります。すべての電気配線が、お住まいの地域、および国の電気基準と規制に準拠していることを確認してください。

バッテリーの取り扱いについて

警告 不適切なバッテリーの使用により、爆発などの危険性が生じることがあります。バッテリーの交換は、必ず同じものか、製造者が推奨する同等の仕様のものでご使用ください。バッテリーの廃棄については、製造者の指示に従って行ってください。

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

本書は、製品を正しくお使いいただくための取扱説明書です。

必要な場合には、いつでもご覧いただけますよう大切に保管してください。

また、必ず本書、設置マニュアル、および弊社 WEB に掲載された製品保証規程をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上で、記載事項に従ってご使用ください。

製品保証規定は以下を参照ください。

<https://www.dlink-jp.com/support/info/product-assurance-provision.html>

注意

製品に貼られているラベルや「Warranty Void Sticker」(シール)をはがさないでください。はがしてしまうとサポートを受けられなくなります。

※当社出荷時に「Warranty Void Sticker」(シール)が貼られていない製品もあります。

- 本書の記載内容に逸脱した使用の結果発生した、いかなる障害や損害において、弊社は一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- 弊社製品の日本国外でご使用の際のトラブルはサポート対象外になります。
- 弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。
- 弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

なお、本製品の最新情報やファームウェアなどを弊社ホームページにてご提供させていただく場合がありますので、ご使用の前にご確認ください。
製品保証、保守サービス、テクニカルサポートご利用について、詳しくは弊社ホームページのサポート情報をご確認ください。

<https://www.dlink-jp.com/support>

警告

本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断りします。

目次

安全にお使いいただくために.....	2
ご使用上の注意.....	4
静電気障害を防止するために.....	4
電源の異常.....	4
ラック搭載型製品に関する一般的な注意事項.....	5
バッテリーの取り扱いについて.....	5
はじめに	9
本マニュアルの対象者.....	9
本マニュアルの対象製品.....	9
第 1 章 Nuclias の概要	10
Nuclias の概要.....	10
Nuclias の用語とコンセプト.....	11
Nuclias 対応機器.....	12
Nuclias 基本仕様.....	13
第 2 章 Nuclias 用スイッチのご利用にあたって	14
DBS-2000 シリーズの各部名称.....	14
前面パネルについて.....	16
各部名称の説明.....	16
LED 表示.....	16
SFP モジュール.....	18
第 3 章 Nuclias 用スイッチの設置	19
パッケージの内容.....	19
ネットワーク接続前の準備.....	19
ゴム足の取り付け (19 インチラックに設置しない場合).....	20
19 インチラックへの取り付け.....	20
スイッチの接地.....	21
電源抜け防止クリップの装着.....	22
電源の投入.....	23
Nuclias 用スイッチの設定・設置.....	24
Nuclias 用スイッチの接続方法.....	24
第 4 章 Nuclias の基本設定	25
初期設定手順について.....	25
アカウントと組織の作成.....	26
ログイン.....	28
Nuclias ユーザインタフェースについて.....	28
プロファイルの作成.....	29
サイトの作成.....	31
Nuclias 対応機器の登録.....	32
Nuclias 対応機器をオンラインにする.....	33
第 5 章 ユーザプロファイル	34
ユーザプロファイル.....	34
マイプロフィール.....	34
ログイン履歴.....	35
API アクセス.....	35
第 6 章 ダッシュボード	37
ダッシュボード.....	37
ダッシュボード > 概要エリア.....	37
ダッシュボード > マップ + アラート + レポート エリア.....	38
ダッシュボード > 最近 24 時間サマリ エリア.....	38
第 7 章 モニタ	39
スイッチ - デバイス.....	39
スイッチ - クライアント.....	40
スイッチ - イベントログ.....	41
地図.....	42
フロアプラン.....	43
ネットワーク.....	44

第 8 章 デバイス設定	46
スイッチ - プロファイル.....	46
プロファイル - ポート	48
プロファイル - 設定.....	54
スイッチ - デバイス	67
デバイス - 基本.....	68
デバイス - サマリ	69
デバイス - ポート	70
デバイス - 認証セッション	74
デバイス - 消費電力.....	75
デバイス - ツール.....	76
デバイス - ライセンス.....	77
スイッチ - スイッチポート	78
認証 - 認証サーバ.....	79
スケジュールポリシー	85
第 9 章 レポート	87
変更ログ.....	87
サマリレポート.....	88
アラート.....	89
ライセンス (レポート)	90
第 10 章 管理	91
アカウント管理.....	91
組織管理.....	93
ライセンス管理.....	97
インベントリ	107
ファームウェア	108
アラート設定	111
証明書の管理	112
アドバンスド設定 > SAML 設定	114
アドバンスド設定 > SMS 設定	116
アドバンスド設定 > シスログサーバ 設定	117
デバイスの追加.....	118
デバイス一括インポート	119
第 11 章 ヘルプ	120
お知らせ	120
連絡をする	120
リソース.....	121
トラブルシューティング.....	121
チュートリアル.....	121
第 12 章 Web GUI、CLI の設定	122
Web GUI (Web ベース設定ユーティリティ) について.....	122
DBS-2000 シリーズの Web GUI 設定.....	122
Web GUI 設定画面へのログイン	122
Status (ステータス)	123
Basic Settings (基本設定)	124
System > Firmware Upgrade (システム > ファームウェアアップグレード)	125
System > Ping (システム > Ping)	125
Network > Port Settings (ネットワーク > ポート設定)	126
Network > Port Status (ネットワーク > ポートステータス)	126
Network > 802.1Q VLAN (ネットワーク > 802.1Q VLAN)	127
Logout (ログアウト)	127
コマンドラインインタフェース (CLI) の設定	128
端末をコンソールポートに接続する.....	128
CLI コマンド一覧	129
付録	130
付録 A ライセンスの適用や開始等に関する詳細	130
付録 B E メール認証時の画面	131
付録 C 機器故障の際は.....	132

はじめに

- 「本マニュアルの対象者」
- 「本マニュアルの対象製品」

本マニュアルの対象者

本マニュアルは、本サービスの管理についての情報を記載しています。また、ネットワーク管理の概念や用語に十分な知識を持っているネットワーク管理者を対象としています。

本マニュアルの対象製品

本マニュアルは、「Nuclias」および「Nuclias」に登録して使用する以下の製品について記載しています。

- ・ DBS-2000-10MP/A1
- ・ DBS-2000-28/A1
- ・ DBS-2000-28/A2
- ・ DBS-2000-28P/A1
- ・ DBS-2000-28MP/A1
- ・ DBS-2000-28MP/A2
- ・ DBS-2000-52/A1
- ・ DBS-2000-52/A2
- ・ DBS-2000-52MP/A1

第 1 章 Nuclias の概要

- 「Nuclias の概要」
- 「Nuclias の用語とコンセプト」
- 「Nuclias 対応機器」
- 「Nuclias 基本仕様」

Nuclias の概要

Nuclias は、ネットワーク機器を管理・監視することができるクラウド型のサービスです。

Nuclias 対応ネットワーク機器は、Nuclias サーバとの間で管理用トンネルセッションを維持し、Nuclias 経由でのポリシー設定、モニタリング、ファームウェアのアップデートなどを実施することができます。そのためネットワーク管理者は、Nuclias サーバ経由でネットワーク機器のオペレーションをすることができます。

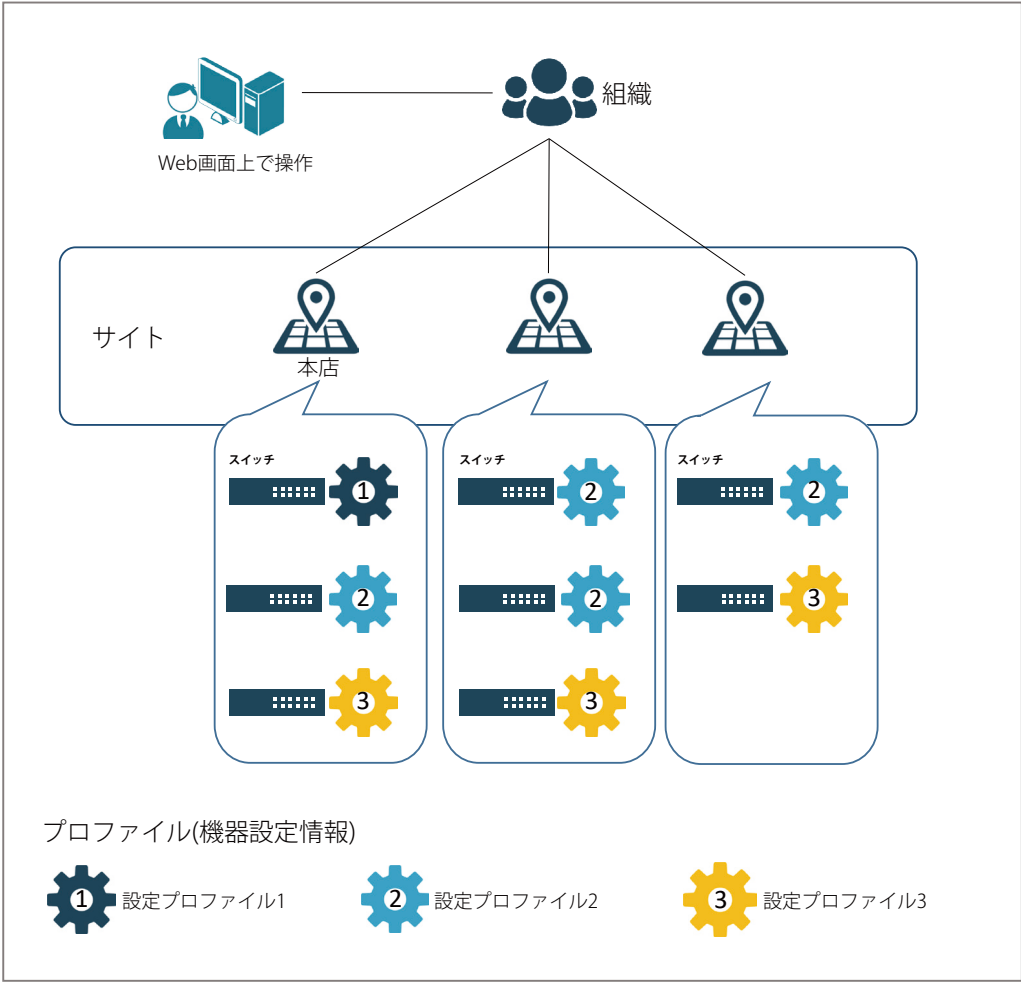


図 1-1 Nuclias 構成概要

Nuclias の用語とコンセプト

Nuclias に関しては下記の用語があります。

項目	説明
組織	Nuclias の利用を開始する際に、お客様は 1 つの組織を作成する必要があります。 この組織の中で、設定やデバイス、ライセンスを管理します。
サイトタグ	「サイトタグ」は、複数のサイトを一つにまとめて管理や閲覧が行えます。 また、組織内の特定のユーザに対して、組織全体ではなく一部のサイトタグにのみアクセスできるように設定することもできます。
サイト	「サイト」はデバイスの物理的な位置を示し、複数のデバイスをグループにし、取り扱いしやすいようにしたものです。 また、組織内の特定のユーザに対して、組織全体ではなく一部のサイトにのみアクセスできるように設定することもできます。
プロフィール	「プロフィール」は設定ポリシーをまとめたものです。組織内に複数作成することができます。 各 Nuclias 管理下デバイスには必ず 1 つのプロフィールが紐づけられている必要があります。

各ユーザアカウントが Nuclias にて行える操作に関して、下記の通り 4 種類の権限があります。

項目	説明
管理者	全ての設定並びに情報の閲覧が可能です。
編集者	既に作成されている設定の変更を行うことができます。 ただし、ユーザやデバイス、設定情報などの追加 / 削除の操作はできません。
閲覧者	デバイスの利用状況やクライアントの情報を閲覧することができます。設定の追加、変更、削除はできません。 設定については、追加、変更、削除だけでなく閲覧することもできません。 アラート、ライセンス、インベントリの情報の閲覧は可能です。
モニタ閲覧者	デバイス使用状況や無線クライアントの情報の閲覧のみが可能です。

Nuclias 対応機器

Nuclias では以下の機器をサポートしています。(2025 年 5 月現在)

■ DBA シリーズ



DBA-1210P ※ 1



DBA-2520P ※ 1



DBA-2620P ※ 1



DBA-2720P ※ 1



DBA-2820P ※ 1



DBA-3621P ※ 2



DBA-X2830P



DBA-X1230P

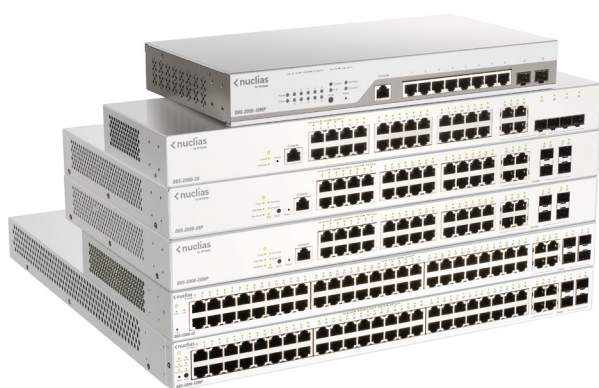


DBA-X5480P

※ 1 販売終了

※ 2 販売終了予定

■ DBS シリーズ



DBS-2000 シリーズ

■ DBG シリーズ



DBG-2000



DBG-X1000

Nuclias 基本仕様

Nuclias 対応ネットワーク機器は、リンクアップをし、IP アドレスを取得すると Nuclias との間で SSL セッションを確立します。この時点でネットワーク機器とクラウドとの間で、「TCP：443 ポート」と名前解決のための DNS が許可されている必要があります。ネットワーク機器がクラウドとの接続を完了すると、Nuclias に設定済みのファームウェア、コンフィギュレーションの同期が自動的に開始されます。この処理が終了すると、ネットワーク機器は Nuclias 用機器として動作を開始します。Nuclias 管理用 SSL セッションは維持され、Nuclias からのモニタリング、設定変更、ファームウェアのバージョンアップなど、Nuclias から各デバイスを管理する用途で利用されます。

プロトコル	用途・備考
TCP 443 (SSL)	Nuclias サーバとの通信用
UDP123 (NTP)	スケジュール機能及びモニタ機能用

以下の3つのプロトコルもまた許可されている必要があります。

プロトコル	用途・備考
UDP 67 (DHCP)	Static IP を使った場合は不要
UDP 53 (DNS)	名前解決用
TCP 53 (DNS)	名前解決用

また、以下の機能が許可されていない場合、一部の機能がご利用になれません。予めご了承ください。

- Ping (ICMP)
- Traceroute (UDP 33435 から昇順で使用)
- RADIUS

■ 推奨ブラウザ

Nuclias の推奨ブラウザは以下です。

- Google Chrome

注意 ライセンス切れとなった機器の動作については、動作保証外になります。

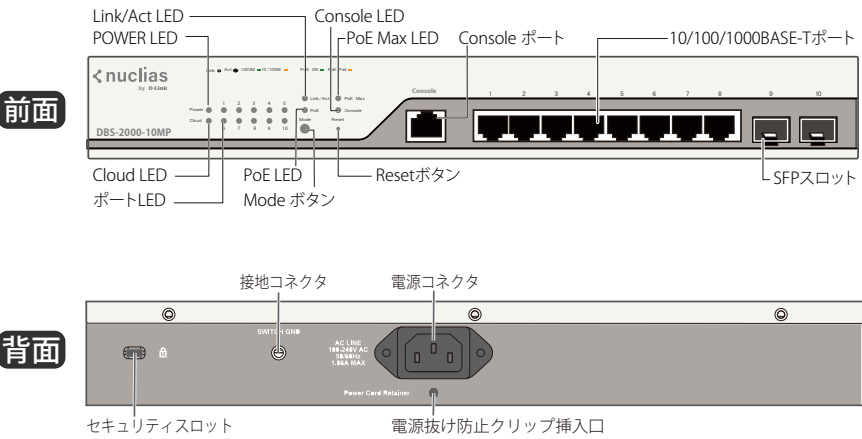
第 2 章 Nuclias 用スイッチのご利用にあたって

- 「DBS-2000 シリーズの各部名称」
- 「前面パネルについて」
- 「SFP モジュール」

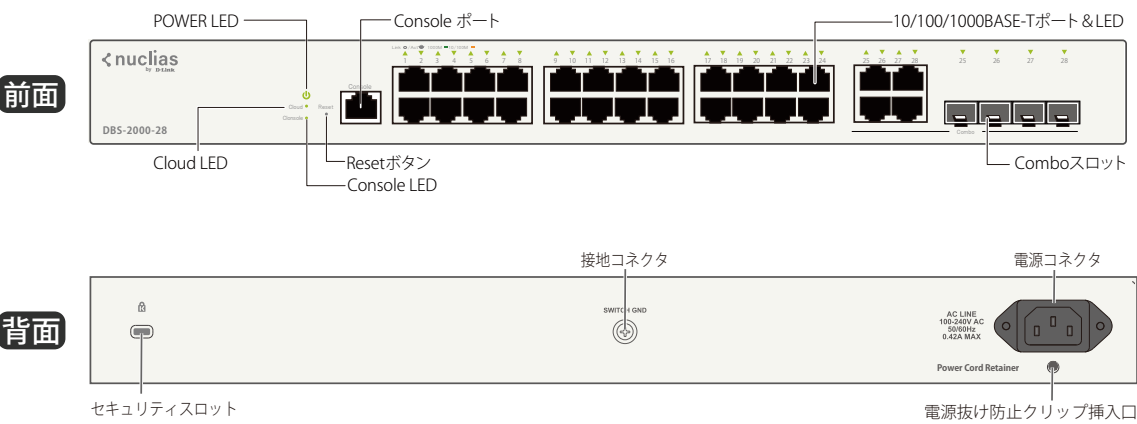
DBS-2000 シリーズの各部名称

前面パネルの LED 表示の詳細については「LED 表示」を参照してください。
Reset ボタンの詳細については「Reset ボタン」を参照してください

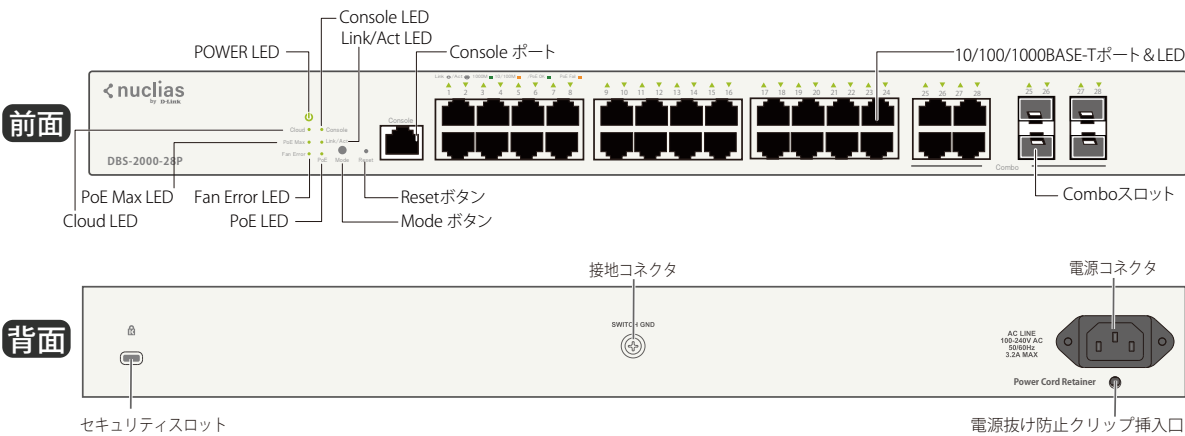
DBS-2000-10MP



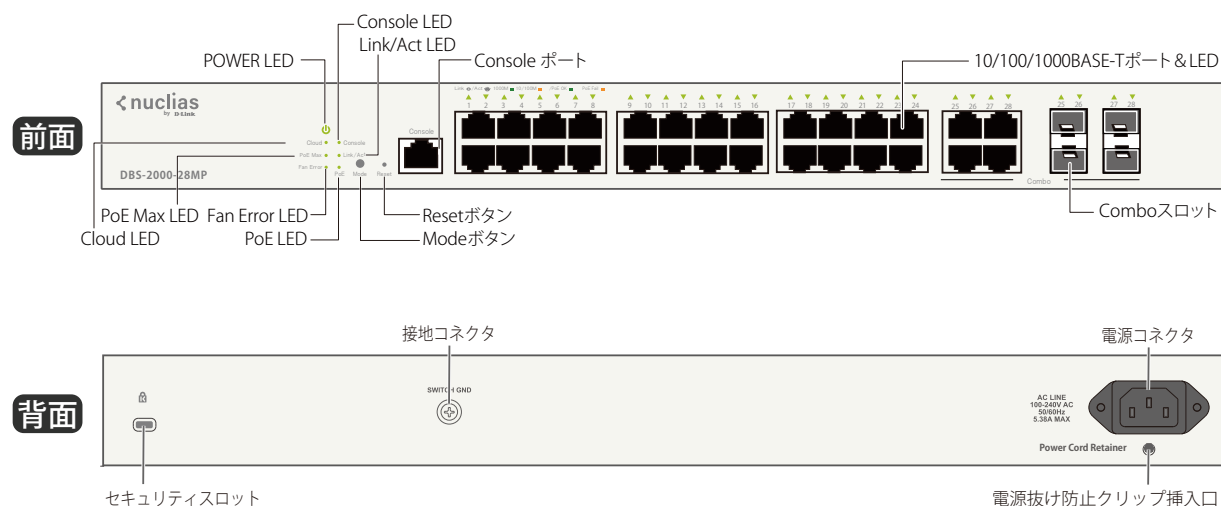
DBS-2000-28



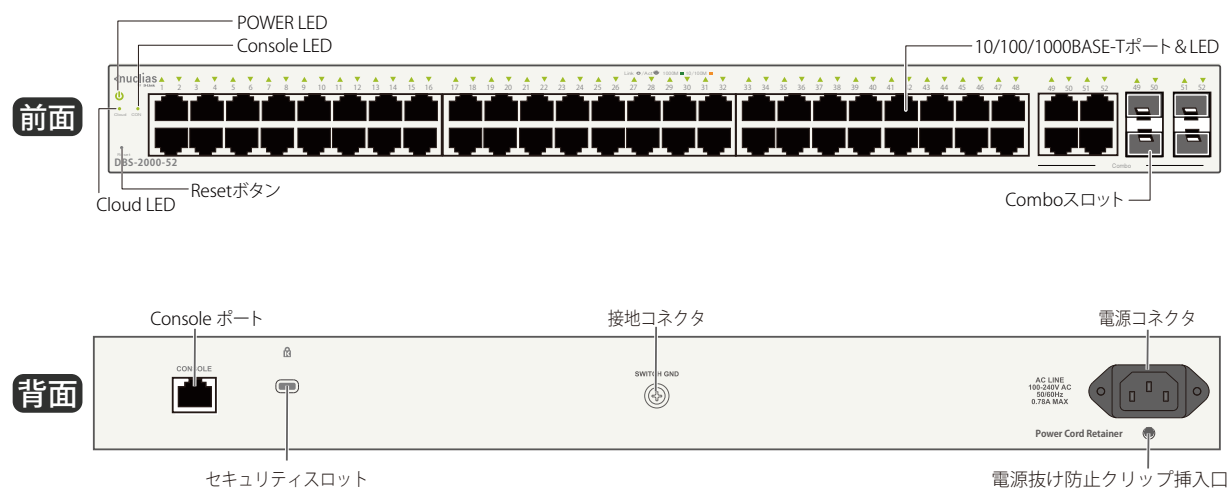
DBS-2000-28P ※



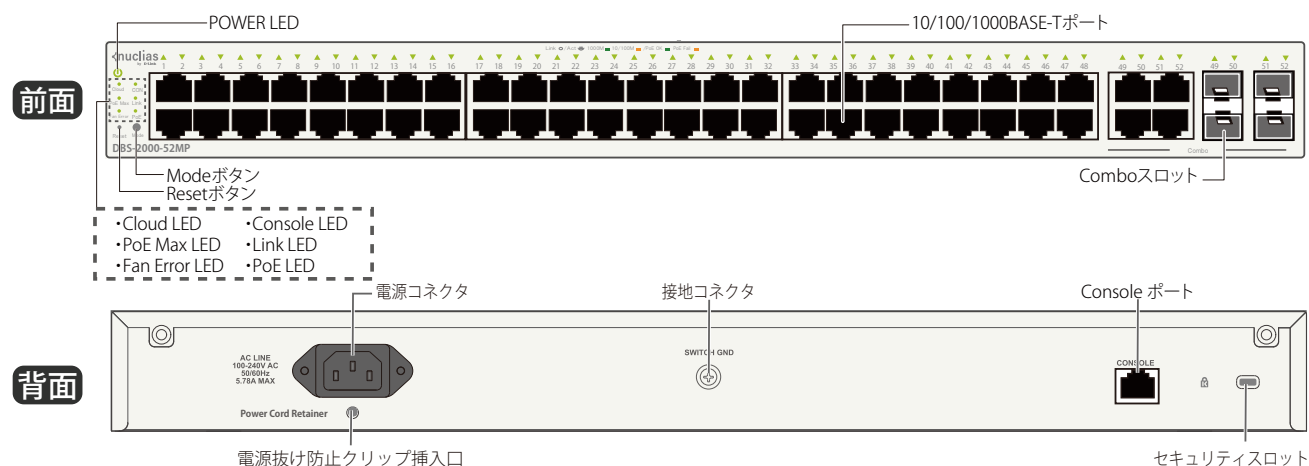
DBS-2000-28MP



DBS-2000-52 ※



DBS-2000-52MP



※ 販売終了製品

前面パネルについて

各部名称の説明

■ LED

システム LED は、電源や Nuclias への接続状態など、スイッチのシステムの状態を表します。詳細は「システム LED」参照してください。
ポート LED は、ポートのデータ送受信やリンクの状態を表します。詳細は「ポート LED」参照してください。

■ Mode ボタン (PoE モデルのみ)

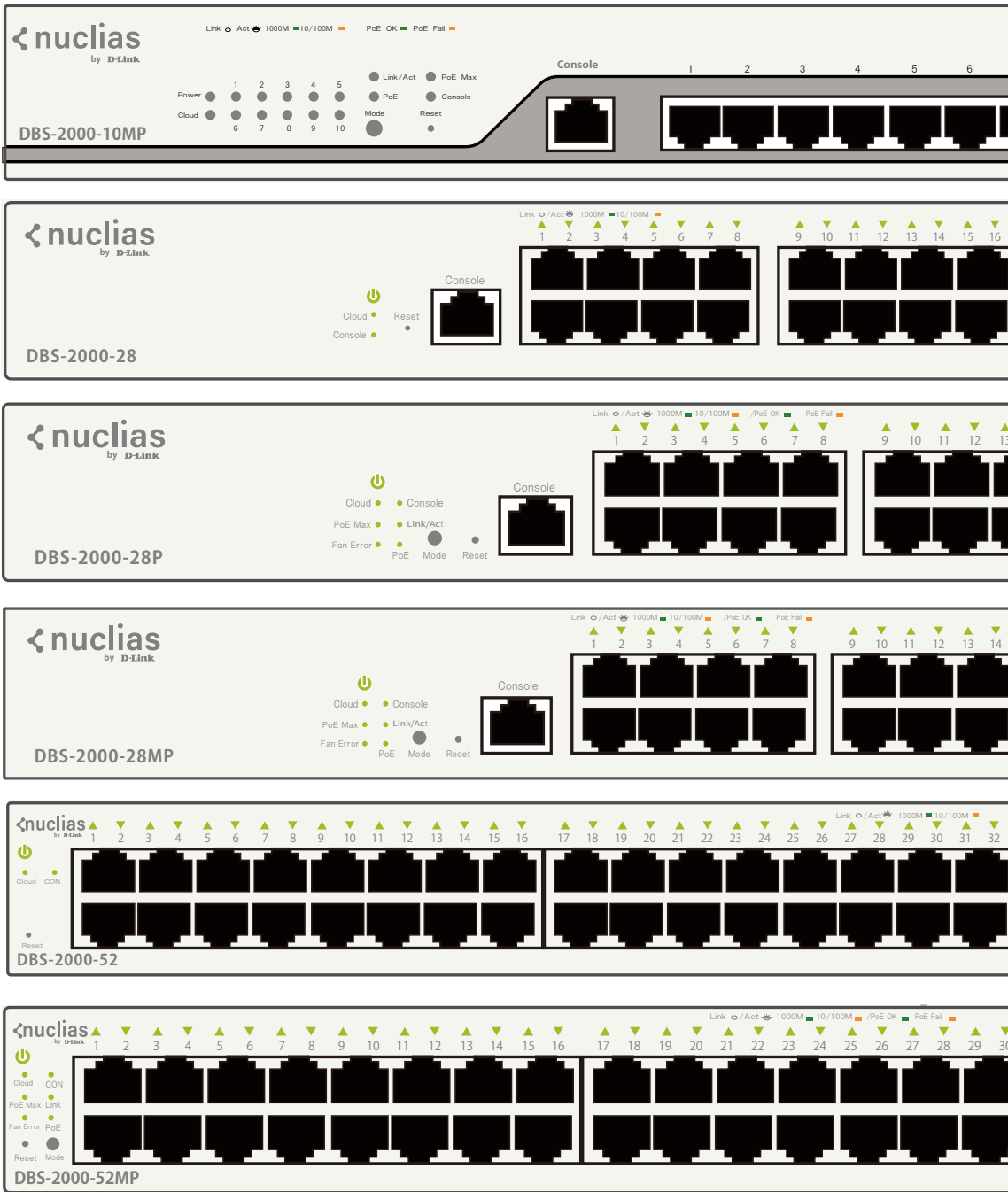
PoE モードに切り替えます。

■ Reset ボタン

前面パネルのリセットボタンから設定のリセットを実行できます。

- リセットボタンを 1-5 秒押下する場合：
デバイスが再起動します。
- リセットボタンを 6-10 秒押下する場合：
すべての設定が工場出荷時の状態にリセットされます。

LED 表示



以下の表に LED の状態が意味するスイッチの状態を示します。

■ システム LED

LED	色	状態	状態説明
POWER	緑	点灯	スイッチに電源が供給され正常に動作しています。
	—	消灯	スイッチに電源が供給されていません。
Cloud	緑	点灯	Nuclias と正常に接続されており、管理モードで動作している状態です。
	緑	点滅	Nuclias へ接続を試みている状態です。
	—	消灯	Nuclias に接続していません。
Console	緑	点灯	コンソール経由で本製品にログインしています。
	—	消灯	コンソール経由で本製品にログインしていません。
Fan Error	赤	点灯	ファンに不具合が発生しています。
	—	消灯	ファンは通常通り動作しています。
PoE Max (10MP/28P/28MP/52MP のみ)	橙	点灯	供給可能電力の最大値を超過しています。
		点滅	PoE デバイスが接続されましたが、Power Guard Band（電力保護帯域）、または最大 PoE 供給電力に達しています。Power Guard Band（電力保護帯域）は、最大供給電力の内 7W 確保されています。
	—	消灯	電力消費が総量以内で正常に動作しています。
PoE (10MP/28P/28MP/52MP のみ)	緑	点灯	PoE モードで動作しています。
	—	消灯	Link/Act モードで動作しています。
Link/Act (10MP/28P/28MP/52MP のみ)	緑	点灯	Link/Act モードで動作しています。
	—	消灯	PoE モードで動作しています。

■ ポート LED

LED	色	状態	状態説明
10/100/1000 ポート LED			
Link/Act	緑	点灯	1000Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbps でデータを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mbps でデータを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
PoE (10MP/28P/28MP/52MP のみ)	緑	点灯	接続中の PoE 受電機器に給電中です。
	橙	点灯	PoE ポートにエラーが発生しました。
	—	消灯	給電をしていません。
SFP ポート LED			
Link/Act	緑	点灯	1000Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbps でデータを送受信しています。
	橙	点灯	100Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	100Mbps でデータを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。

第2章 Nuclias用スイッチのご利用にあたって

SFP モジュール

本製品では以下の SFP モジュールを使用できます。

種別	製品名	品番	仕様
WDM 対応 1 芯 SFP (1Giga)	DEM-330T ^{※1}	DEM-330T	●標準規格：IEEE802.3ah 1000BASE-BX-D ●コネクタ：LC ●光波長：1550nm (TX) /1310nm (RX) ●光ファイバケーブルタイプ：1 芯シングルモード (9/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：10km
	DEM-330R ^{※1}	DEM-330R	●標準規格：IEEE802.3ah 1000BASE-BX-U ●コネクタ：LC ●光波長：1310nm (TX) /1550nm (RX) ●光ファイバケーブルタイプ：1 芯シングルモード (9/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：10km
	DEM-331T ^{※1}	DEM-331T	●標準規格：IEEE802.3ah 1000BASE-BX-D ●コネクタ：LC ●光波長：1550nm (TX) /1310nm (RX) ●光ファイバケーブルタイプ：1 芯シングルモード (9/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：40km
	DEM-331R ^{※1}	DEM-331R	●標準規格：IEEE802.3ah 1000BASE-BX-U ●コネクタ：LC ●光波長：1310nm (TX) /1550nm (RX) ●光ファイバケーブルタイプ：1 芯シングルモード (9/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：40km
2 芯 SFP (1Giga)	DEM-310GT	DEM-310GT	●標準規格：IEEE 802.3z 1000BASE-LX ●コネクタ：LC ●光波長：1310nm ●光ファイバケーブルタイプ：2 芯シングルモード (9/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：10km
	DEM-311GT	DEM-311GT	●標準規格：IEEE 802.3z 1000BASE-SX ●コネクタ：LC ●光波長：850nm ●光ファイバケーブルタイプ：2 芯マルチモード (50/125μm、62.5/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：550m (50/125μm)、300m (62.5/125μm)
	DEM-314GT	DEM-314GT	●標準規格：IEEE 802.3z 1000BASE-LH ●コネクタ：LC ●光波長：1550nm ●光ファイバケーブルタイプ：2 芯シングルモード (9/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：50km
Copper SFP (1Giga)	DGS-712 ^{※3}	DGS-712 ^{※4}	●標準規格：IEEE 802.3ab 1000BASE-T ●コネクタ：RJ-45 ●伝送距離：100m
		DGS-712/G1 ^{※5}	●標準規格：IEEE 802.3ab 1000BASE-T ●コネクタ：RJ-45 ●伝送距離：100m
2 芯 SFP (100M)	DEM-211	DEM-211	●標準規格：IEEE 802.3u 100BASE-FX ●コネクタ：LC ●光波長：1310nm ●光ファイバケーブル：2 芯マルチモード (50/125μm、62.5/125μm) ●伝送距離 ^{※2} ：2km

※1：DEM-330T と DEM-330R は対向でご使用下さい。DEM-331T と DEM-331R は対向でご使用下さい。

※2：光ファイバケーブルの最長伝送距離は、光ファイバ損失分散、光コネクタ、スプライス損失箇所によって異なります。

※3：SFP スロットでのみ使用可能です。Combo スロットでは使用できません。

※4：DGS-712 の H/W バージョン：E1 の品番は「DGS-712」となります。

※5：DBS-2000-10MP のみサポートされます。

※スイッチ/SFP モジュールのハードウェアバージョンの組み合わせによっては、接続できない場合があります。サポートされる SFP モジュールのハードウェアバージョンについては、弊社 Web ページで公開されている「光トランシーバ対応製品一覧」をご確認ください。

第3章 Nuclias 用スイッチの設置

- 「パッケージの内容」
- 「ネットワーク接続前の準備」
- 「ゴム足の取り付け（19 インチラックに設置しない場合）」
- 「19 インチラックへの取り付け」
- 「スイッチの接地」
- 「電源抜け防止クリップの装着」
- 「電源の投入」
- 「Nuclias 用スイッチの設定・設置」

パッケージの内容

ご購入いただいたスイッチの梱包箱を開け、同梱物を注意して取り出してください。
以下のものが同梱されています。

- ・ 本体 x 1
- ・ 電源ケーブル x 1
- ・ 19 インチラックマウントキット 1 式
- ・ ゴム足（貼り付けタイプ） x 4
- ・ RJ-45/RS-232C コンソールケーブル x 1
- ・ 電源抜け防止クリップ x 1
- ・ クイックスタートガイド x 1
- ・ GPL Code Statement x 1
- ・ PL シート x 1

ネットワーク接続前の準備

スイッチの設置場所が性能に大きな影響を与えます。以下のガイドラインに従って本製品を設置してください。

- ・ スイッチは、しっかりとした水平面で、耐荷重性のある場所に設置してください。
- ・ スイッチの上に重いものを置かないでください。
- ・ 本スイッチから 1.82m 以内の電源コンセントを使用してください。
- ・ 電源ケーブル / 電源アダプタが電源ポートにしっかり差し込まれているか確認してください。
- ・ 本スイッチの周辺で熱の放出と十分な換気ができることを確認してください。換気のためには少なくとも製品の前後 16cm 以上の空間を保つようにしてください。
- ・ スイッチは動作環境範囲内の温度と湿度を保つことができる、なるべく涼しくて乾燥した場所に設置してください。
- ・ スイッチは強い電磁場が発生するような場所（モータの周囲など）や、振動、ほこり、および直射日光を避けて設置してください。
- ・ スイッチを水平面に設置する際は、スイッチ底面に同梱のゴム足を取り付けてください。ゴム製の足はスイッチのクッションの役割を果たし、筐体自体や他の機器に傷がつくのを防止します。

ゴム足の取り付け（19 インチラックに設置しない場合）

机や棚の上に設置する場合は、スイッチに同梱されていたゴム足をスイッチの裏面の四隅に取り付けます。スイッチの周囲に十分な通気を確保するようにしてください。

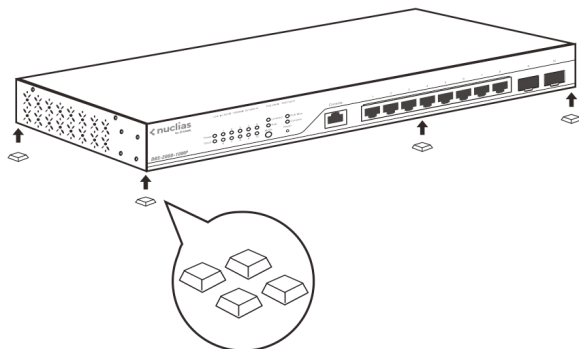


図 3-1 机や棚の上に設置する場合の準備

19 インチラックへの取り付け

警告 前面、側面にスタビライザを取り付けずに製品を設置すると、ラックが転倒し、場合によっては人身事故を引き起こすことがあります。そのため、ラック内に製品を取り付ける前に必ずスタビライザを取り付けてください。ラックにシステム / コンポーネントを取り付けた後は、一度にスライド・アセンブリに乗せて引き出すコンポーネントは 1 つだけとしてください。2 つ以上のコンポーネントが引き出されると、ラックがバランスを失い、倒れて重大な事故につながる恐れがあります。

注意 スイッチをラックに固定するネジは付属品には含まれません。別途で用意ください。

以下の手順に従って本スイッチを標準の 19 インチラックに設置します。

1. 電源ケーブルおよびケーブル類がシャーシ、拡張モジュールに接続していないことを確認します。
2. 付属のネジで、スイッチ両側面にブラケットを取り付けます。

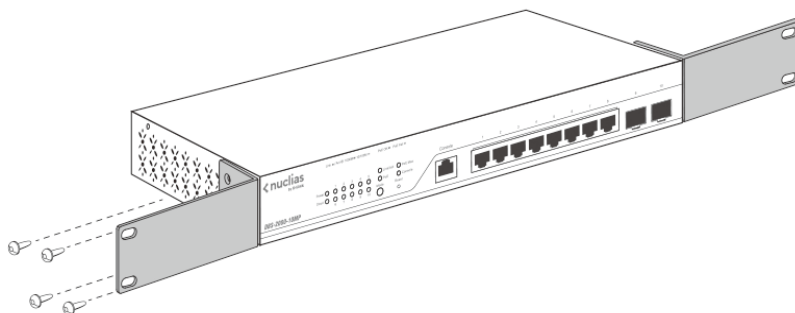


図 3-2 ブラケットの取り付け

3. 完全にブラケットが固定されていることを確認し、本スイッチを以下の通り標準の 19 インチラックに固定します。

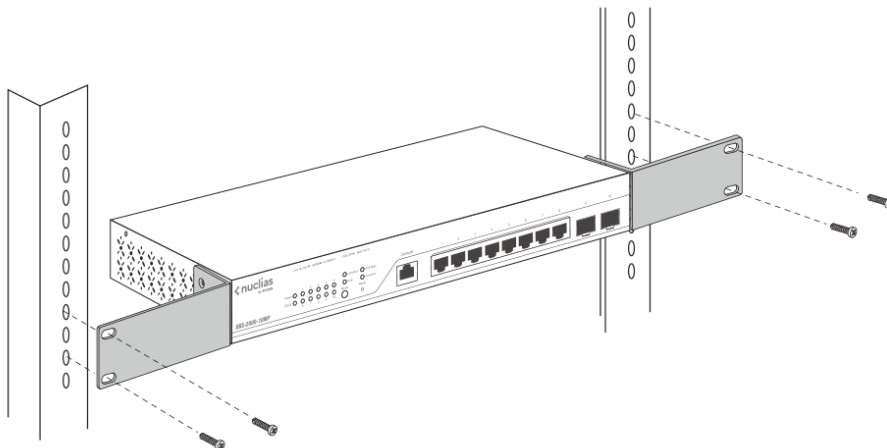


図 3-3 19 インチラックへの設置

スイッチの接地

本スイッチを接地する方法について説明します。

注意 スwitchの電源をオンにする前に、本手順を完了する必要があります。

■ 接地に必要なツールと機器

- ・ 接地ネジ 1 個
- ・ リング型ラグ端子付接地線（同梱されていません）
- ・ スクリュードライバ（同梱されていません）

注意 接地線は国の設置必要条件に従ったサイズにする必要があります。商用に利用可能な 6 ～ 12AWG の範囲から適した接地線の使用をお勧めします。また、ケーブル長は適切な接地設備にスイッチの距離に従います。

1. 電源がオフであることを確認します。
2. 接地線のリング型端子をネジ穴に合わせて置き、接地ネジを挿入します。

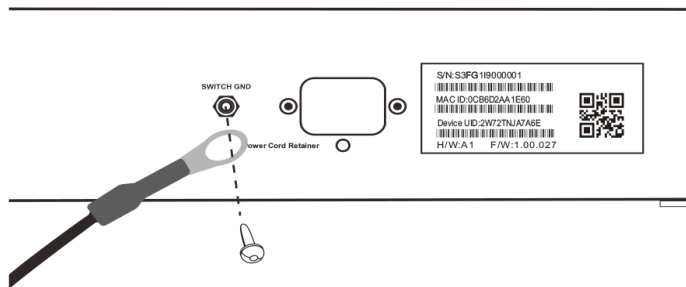


図 3-4 接地ネジの挿入

3. ドライバを使用し、接地ネジをしめます。
4. スwitchが設置されるラック上の適切な設置スタッドまたはボルトに、接地線の一端にあるリング型端子を取り付けます。

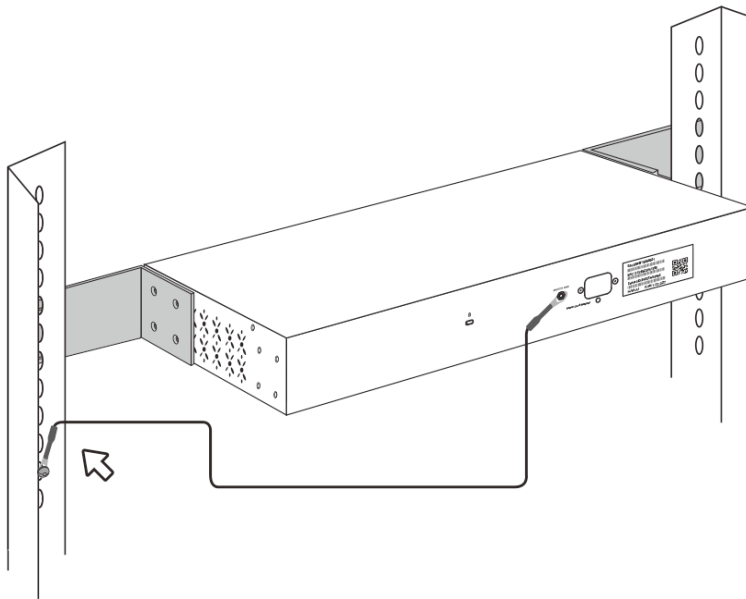


図 3-5 ラック上への端子の接続

電源抜け防止クリップの装着

アクシデントにより AC 電源コードが抜けてしまうことを防止するために、スイッチに電源抜け防止クリップを装着します。以下の手順に従って電源抜け防止クリップを装着します。

1. スwitchの背面の電源プラグの下にある穴に、付属の電源抜け防止クリップのタイラップ（挿し込み先のあるバンド）を下記の図のように差し込みます。

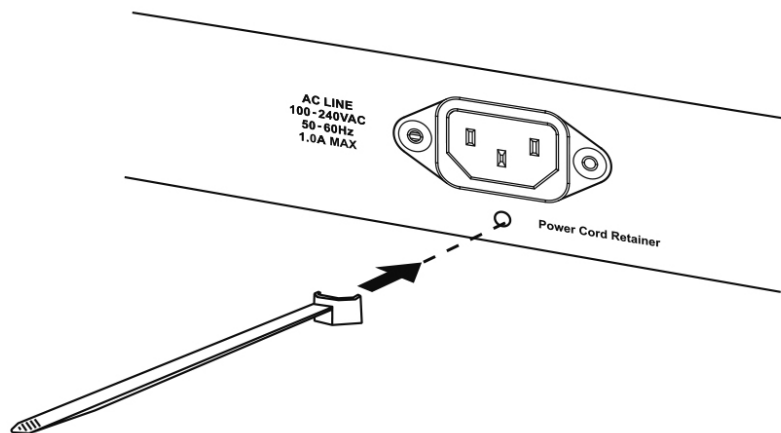


図 3-6 タイラップの挿し込み

2. 電源ケーブルをスイッチの電源プラグに挿し込みます。
3. 以下の図のように挿し込んだタイラップにリテイナー（固定具）をスライドさせ装着します。

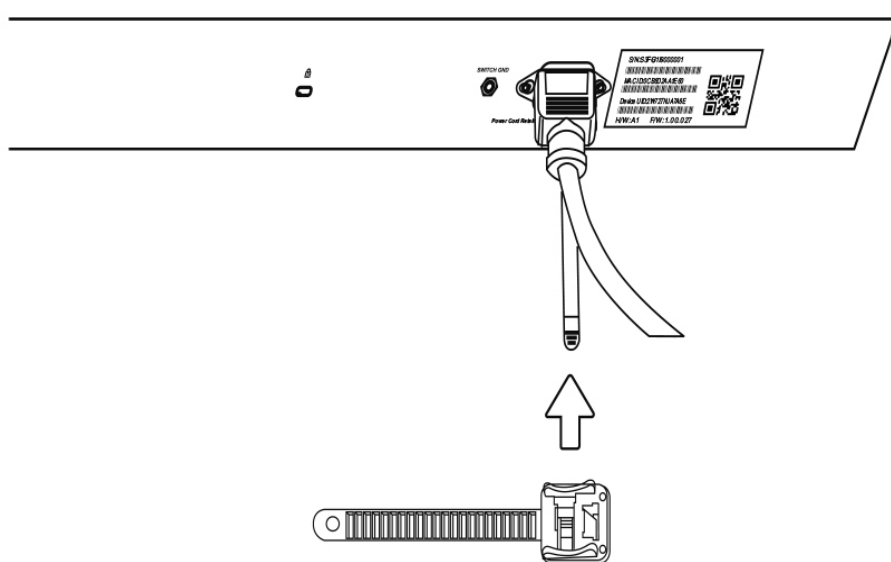


図 3-7 リテイナー（固定具）のスライド

- 以下の図のようにリテイナーを電源コードに巻き付け、リテイナーのロック部分に挿し込みます。

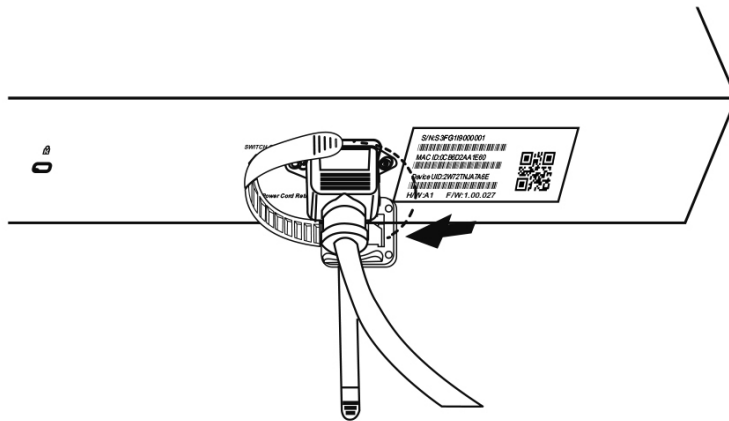


図 3-8 リテイナーの巻き付け、固定

- リテイナーを電源コードにしっかりと巻き付けた後、電源コードが抜けにくい確かめます。

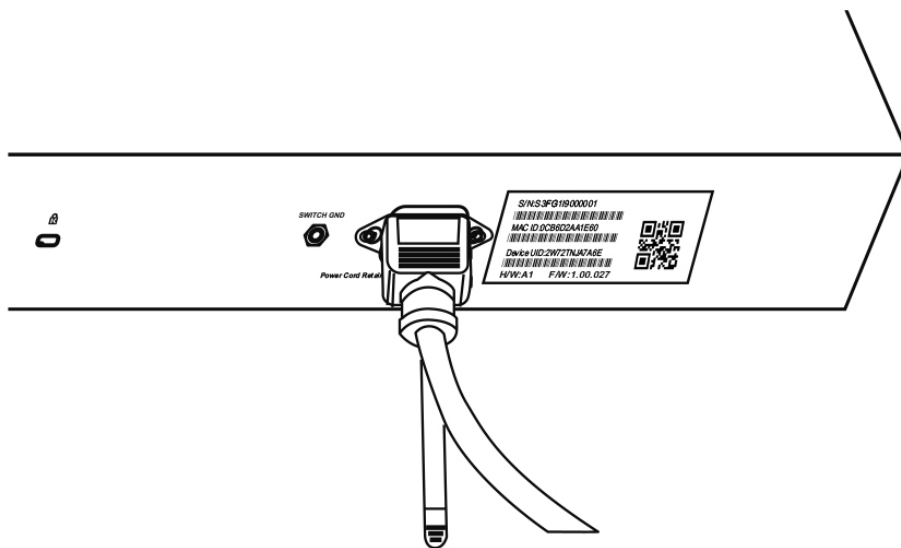


図 3-9 電源抜け防止クリップの固定確認

電源の投入

- 電源ケーブルを本スイッチの電源コネクタに接続します。電源ケーブルのプラグを電源コンセントに接続します。
- 本スイッチに電源が供給されると、POWER LED が緑色に点灯します。

Nuclias 用スイッチの設定・設置

Nuclias 用スイッチの接続方法

Nuclias 用スイッチの設定や管理は、インターネットに接続することで Nuclias を経由して行われます。

管理用 PC をインターネットに接続し、クラウドで設定を行うことで、Nuclias に登録した複数のスイッチを一度に設定・管理できます。インターネット環境にある Nuclias 用スイッチ は、Nuclias に自動的に接続し、設定をダウンロードして適合するネットワークに参加します。

注意 Nuclias 用スイッチ は通常、自動的に LAN 内の DHCP サーバから IP アドレスを取得しクラウドへ接続します。

ただし、以下のような場合はローカル Web GUI からの設定が必要となります。

- ・ LAN 内で固定 IP アドレスを割り振らなければならない場合
- ・ インターネットを介してクラウドに接続することができない場合

注意 ローカル Web GUI からは IP アドレスなど、一部の項目のみ設定することができます。
ローカル Web GUI についての詳細は「第 12 章 Web GUI、CLI の設定」を参照してください。

Nuclias を経由した接続例

以下は Nuclias を経由し接続例の図です。

Nuclias 経由で Nuclias 用スイッチ とコンピュータを接続します。複数の Nuclias 用スイッチ を一度に設定、管理することができます。

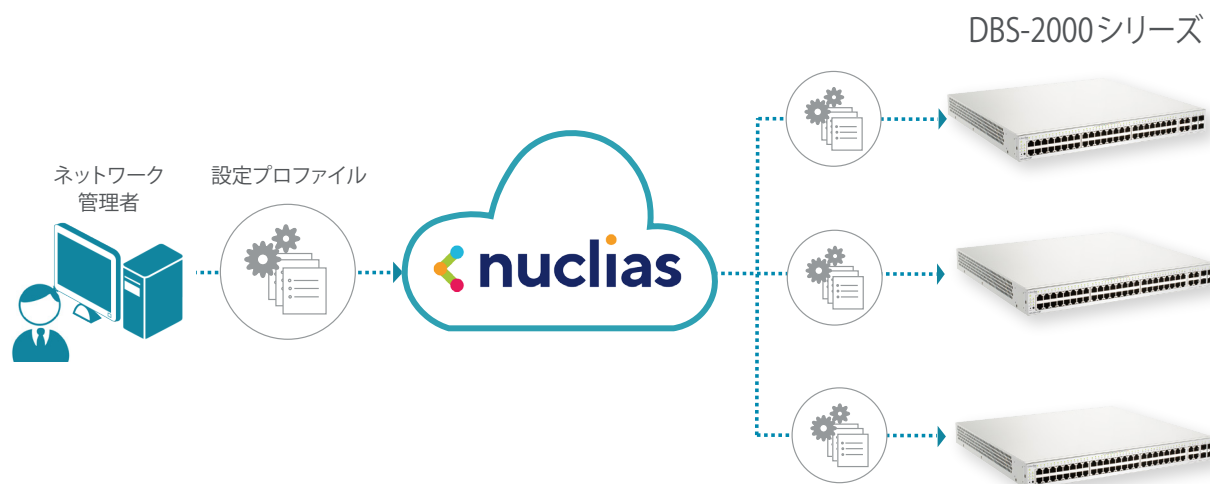


図 3-1 Nuclias を経由した接続例

具体的な接続設定方法については、第 4 章以降の章を参照してください。

■ Nuclias に接続する前の準備（必要に応じて）

DHCP 環境ではないなど、事前に IP アドレスを設定しないとインターネットに接続できない場合は、以下の方法によりローカル Web GUI へ接続し、Nuclias へ接続する前の事前設定を行うことができます。

（ローカル Web GUI からは IP アドレスなど、一部の項目のみ設定することができます）



図 3-2 直接接続

● ローカル Web GUI へのログイン方法

ブラウザのアドレス欄に Nuclias 用スイッチ のホスト名を入力し、Enter を押下します。

- ・ ホスト名の初期値: 「DBS-2000-YYYY」
 - 「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。

Web GUI の詳細は「第 12 章 Web GUI、CLI の設定」を参照してください。

第4章 Nuclias の基本設定

- 「初期設定手順について」
- 「アカウントと組織の作成」
- 「ログイン」
- 「Nuclias ユーザーインターフェースについて」
- 「プロフィールの作成」
- 「プロフィールリストの表示」
- 「サイトの作成」
- 「Nuclias 対応機器の登録」
- 「Nuclias 対応機器をオンラインにする」

ネットワーク機器や Nuclias をはじめて使用する際の基本的な設置、設定方法について説明します。

まず「Nuclias」へアクセスし、アカウントと組織を作成します。

次に、Nuclias でプロフィールやサイトの設定、Wi-Fi ポリシーの設定等を行い、管理する Nuclias 対応機器を登録します。

最後に Nuclias 対応機器をインターネット並びに Nuclias へと接続し、オンライン状態にします。

初期設定手順について

以下が基本的な初期設定作業のながれです。

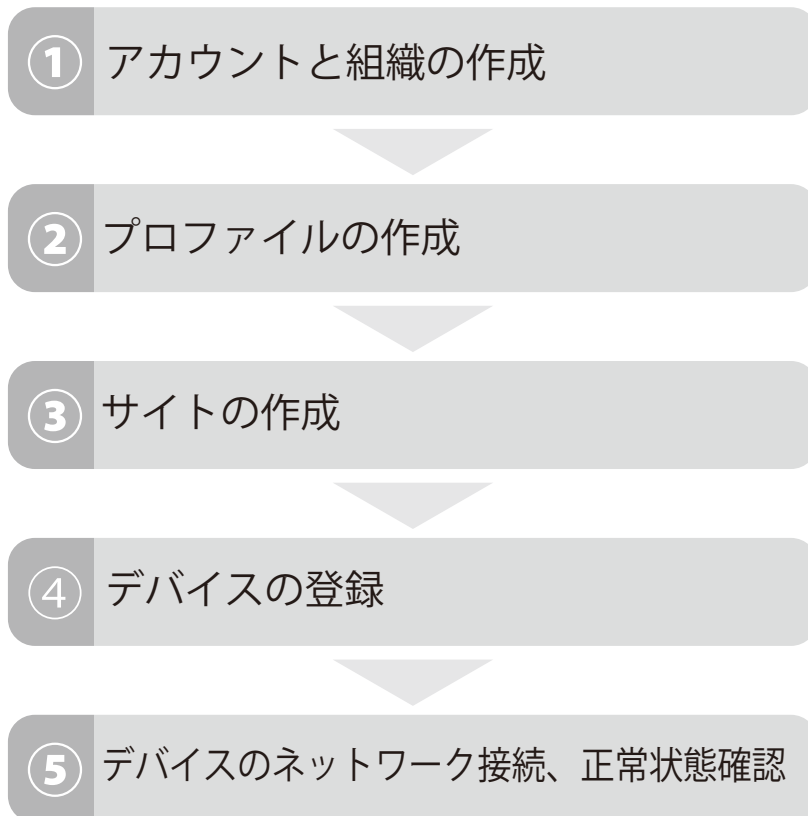


図 4-1 初期設定手順

アカウントと組織の作成

Nuclias アカウントの作成を行います。

「Nuclias」の URL : <https://jp.nuclias.com>



図 4-2 Nuclias サイト

1. Nuclias の URL をブラウザで開き、表示されるページから「アカウントの作成」をクリックします。



図 4-3 ログイン（「アカウントの作成」をクリック）

2. 地域を「Asia」、国を「Japan」に設定します。



図 4-4 国・地域設定

注意 異なる国を設定した場合、デバイスが正常に登録できなくなる可能性があります。

3. アカウントで使用する以下の情報を入力します。
- メールアドレス（ログイン時や、各通知を受け取る際に使用）
 - ユーザ名
 - ログイン用パスワード
 - 作成する組織の名称
 - 住所

注意 1つのアカウントで管理可能な組織は最大1つです。複数の組織の設定を後から統合することはできません。

注意 1つのメールアドレスにつきアカウントは1つとなります。

注意 登録したメールアドレスは変更することができません。

ステップ2
ユーザ、組織、サイトを作成してください。

nuclias

メールアドレス

フルネーム

パスワード

パスワード

組織名

Japan

Asia/Tokyo(UTC+09:00)

住所

☐ [利用規約](#)と[プライバシーポリシー](#)を読み、同意します。

☐ D-Link製品のアップデートやオファーをメールでお知らせします。

☐ 私は人間です

hCaptcha
プライバシー - 条項

アカウントの作成

図 4-5 アカウント情報設定

4. 入力後、「アカウントの作成」をクリックします。

アカウント作成後、登録したメールアドレスへ Nuclias から認証メールが送信されます。
メール内に記載されたアクティベーション用の URL をクリックし、アクティベーションを行ってください。

ログイン

Nuclias のログインについて説明します。

1. ログイン画面を表示します。「Nuclias」の URL：<https://jp.nuclias.com>



図 4-6 ログイン画面

2. アクティベーション済みユーザアカウントのメールアドレス、パスワードを入力します。
3. 「ログイン」をクリック、または Enter キーを押します。
4. Nuclias 管理画面が表示されます。

Nuclias ユーザインタフェースについて

Nuclias 管理画面上部のユーザインタフェースは下記の通りです。

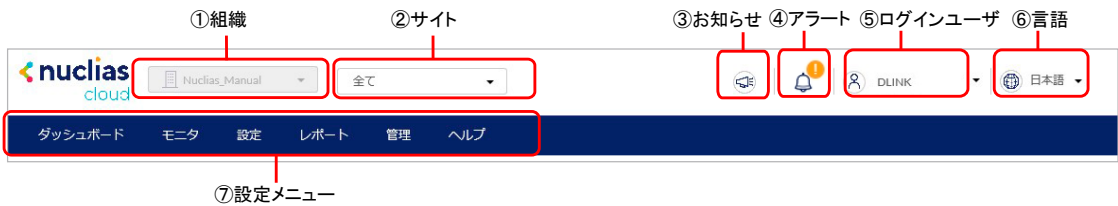


図 4-7 ユーザインタフェース

項目	説明
①組織	現在選択されている組織です。
②サイト	現在選択されているサイト、またはサイトタグです。「全て」は全てのサイトの情報を表示します。ファームウェアアップグレードなど、特定の設定項目を使用する場合はサイトを指定する必要があります。
③お知らせ	ファームウェアのリリース、新機能のサポートなどのお知らせを通知します。お知らせがある場合、アイコンをクリックするとヘルプ > お知らせ画面に移動します。
④アラート	アイコンをクリックするとアラートの詳細を確認できます。
⑤ログインユーザ	現在ログインしているユーザ名が表示されます。ユーザプロファイルの閲覧や変更、ログアウトはここをクリックして実施します。 また、アイコンをクリックすると「Nuclias Connect へのログイン」の項目が表示されます。本項目を選択すると、Nuclias Connect にログインできます。
⑥言語	言語を選択します。
⑦設定メニュー	設定メニューです。各項目の詳細については本マニュアルの 6 章～ 11 章を参照してください。

プロフィールの作成

プロフィールとは、本製品へ配信する設定をまとめたものです。プロフィールの設定項目については「スイッチ - プロファイル」を参照してください。

1. 設定 > スイッチ > プロファイルの順にクリックします。



図 4-8 プロファイルメニュー

2. 「プロフィールの作成」をクリックします。



図 4-9 プロファイルの作成

3. プロファイル作成画面の項目を入力し、「プロフィールの作成」をクリックします。

①プロフィール名

プロフィール名 *

1-64文字

②モデル名

モデル名

DBS-2000

③アクセスレベル

アクセス権限

アクセスレベル

組織

④設定

設定

☒ デフォルトコンフィグを使用する ?

☐ 既存プロフィールを複製する

このプロフィールはデフォルトコンフィグを使用します。パスワードやセキュリティ設定は、お客様の使用するものに変更してください。

キャンセル

プロフィールの作成

プロフィールの作成

図 4-10 プロファイル作成画面

項目	説明
①プロフィール名	Nuclias 上で管理するためのプロフィール名を指定します。
②モデル名	プロフィールを適用する機器名（製品名）をプルダウンから指定します。
③アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。 サイトタグおよびサイトを選択した場合は、管理サイトタグまたは管理サイトを設定します。
④設定	作成するプロフィールの元データを指定します。 「デフォルトコンフィグを使用する」：各モデルに適応した初期コンフィグがありますので、それらを指定します。管理者はデフォルトコンフィグを編集し、ユーザ環境に合わせた設定を作成できます。 「既存プロフィールを複製する」：同じ組織内に、既に同じモデル用のプロフィールが作成されている場合、それを複製し、編集することができます。

第4章 Nucliasの基本設定

4. プロファイルの一覧に、作成したプロファイルが表示されます。

設定 / スイッチ / プロファイル / profile2 / ポート

設定のプッシュ

ポート

設定

編集 削除 分類 一括 一括削除 タグ 90スイッチポート

ポートグループ 全て

検索

#	ポートグループ/ポート	ポートグループ	ポート#	集約	リンク	スピードのダウンロード	タイプ	VLAN	許可VLAN	ポート状態	PoE	PDアラーム
☐	10ポート/1	10ポート	1	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/2	10ポート	2	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/3	10ポート	3	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/4	10ポート	4	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/5	10ポート	5	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/6	10ポート	6	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/7	10ポート	7	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/8	10ポート	8	-	オート	無効	トランク	ネイティブ1	1	有効	有効	無効
☐	10ポート/9	10ポート	9	-	SFP: 1Gbps (オート)	-	トランク	ネイティブ1	1	有効	-	-
☐	10ポート/10	10ポート	10	-	SFP: 1Gbps (オート)	-	トランク	ネイティブ1	1	有効	-	-

前 1 2 3 4 5 6 7 8 9 次 10

図 4-11 プロファイル一覧

参照 プロファイルの設定項目の詳細については「スイッチ - プロファイル」を参照してください。

■ プロファイルリストの表示

作成したプロファイルは、設定 > スイッチ > プロファイル画面に表示されます。

設定 / スイッチ / プロファイル

プロファイルの作成 プロファイルの削除 設定のプッシュ

検索

#	状態	名前	モデル名	アクセスレベル	デバイス	最終更新日時	プッシュの予定	アクション
☐	⚠	DBS-2000	DBS-2000	組織	1	2023/03/23 14:14:07	スケジュール未作成	ポート 設定
☐	✓	profile2	DBS-2000	組織	0	2023/09/26 14:07:09	スケジュール未作成	ポート 設定

前 1 次 10

①チェックボックス ②状態 ③名前 ④モデル名 ⑤アクセスレベル ⑥デバイス ⑦最終更新日時 ⑧プッシュの予定 ⑨アクション

図 4-12 プロファイルリスト

項目	説明
①チェックボックス	プロファイルを削除する場合、設定のプッシュを行う場合に使用します。
②状態	プロファイルの同期状態を表示します。 ⚠：プロファイルの設定が変更されました。最新のプロファイルは、紐づけされているデバイスに同期されていません。 🕒：スケジュール設定済みで未同期（実行待ち）の状態です。 ✓：最新のプロファイルがデバイスに同期済みです。または、プロファイルがデバイスに紐づけられていません。 ❗：プロファイルの同期に失敗しました。
③名前	プロファイル名が表示されています。プロファイルの名称を変更する場合は、直接ここをクリックしてください。
④モデル名	プロファイルのモデルを表示します。
⑤アクセスレベル	プロファイルのアクセスレベルを表示します。
⑥デバイス	プロファイルに登録されているデバイスの数を表示します。 数字をクリックすると、デバイスの一覧が表示されます。
⑦最終更新日時	プロファイルを最後に更新した日時を表示します。
⑧プッシュの予定	プロファイルをデバイスに同期する予定の日時を表示します。 同期を行う予定がない場合は「スケジュール未作成」と表示されます。
⑨アクション	ポートの設定、その他設定のページに移行します。

サイトの作成

サイトとは、ネットワーク機器の設置場所（設置先住所）を示したものです。

複数の Nuclias 対応機器が同一施設や同一店舗内等に設置されている場合、それらのログや使用状況などをまとめて確認できます。また、ファームウェアアップグレードのスケジュール設定等をサイトごとに行うことができます。

1. 管理＞組織管理の順にクリックします。



図 4-13 組織管理メニュー

2. 「サイトの作成」をクリックします。



図 4-14 組織管理

3. 以下の項目を入力、選択します。
 - 「サイト名」を入力
 - 「国・地域のタイムゾーン」から「Japan」を選択
 その他の項目は特に変更、入力は不要です。

 The screenshot shows the 'サイトの作成' (Create Site) form. The form has several sections:

- サイト名 ***: A text input field with a red border and a red asterisk, containing '1-64文字'.
- サイトタグ**: A dropdown menu with 'None' selected.
- 国・地域のタイムゾーン ***: A dropdown menu with 'Japan' selected, highlighted with a red border and a red asterisk.
- 住所**: A text input field.
- デバイス資格情報**: A section with a note about device credentials.
- ユーザ名**: A text input field with 'admin' entered.
- パスワード ***: A password input field with a red asterisk and a red border, containing '*****'.
- NTP情報**: A section with two input fields: 'NTPサーバ 1' (ntp.nuclias.com) and 'NTPサーバ 2'.
- 連絡先情報**: A section with two input fields: '名前' (1-64文字) and '電話' (1-32文字).
- Eメールアドレス**: A text input field (1-128文字).

 At the bottom, there are two buttons: '閉じる' (Close) and '適用' (Apply).

図 4-15 サイトの作成

4. 「適用」をクリックします。

Nuclias 対応機器の登録

1. 管理 > デバイスの追加の順にクリックします。

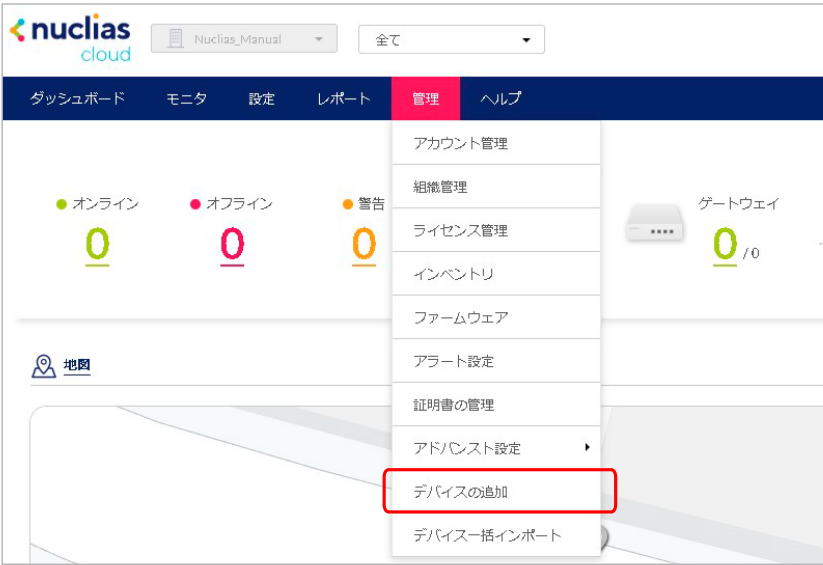


図 4-16 デバイスの追加メニュー

2. 「デバイスの追加」ウィンドウが表示されます。



図 4-17 デバイス追加画面

3. 下記の項目を入力します。

項目	説明
①デバイス UID	デバイス UID を入力します。
②デバイス名	Nuclias 上で管理するためのデバイス名を入力します。
③サイト	デバイスに適用するサイトをプルダウンで選択します。
④プロファイル	デバイスに適用するプロファイルをプルダウンで選択します。
⑤ライセンスキー	「更にライセンスを追加する」をクリックし、ライセンスキーを紐づけます。 枠をクリックすると、そのデバイスで使用可能なライセンスキーがプルダウンで表示されますので、選択することができます。 使用可能なライセンスキーとは、デバイスに初期状態で紐づけられているライセンスキー、または既に組織に登録されているライセンスキーです。これらとは異なるライセンスキーを使用する場合は、枠に直接入力してください。 選択可能なライセンスキーが複数ある場合の詳細については、巻末の「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」をご確認ください。 ライセンスキー #1* ライセンスキーを選択してください 123.100.144.123.100.144.1234 (363 日) 123.100.123.123.100.144.1234 (361 日) 123.100.123.100.144.1234 195 日) 注意 デバイスに紐づけられているフリーライセンスは最初にデバイスを登録した組織に保存され、他の組織で使用することはできません。該当デバイスを本組織から削除し、他の組織へ登録し直す場合、別途ライセンスを用意頂く必要があります。

4. 入力後、「保存」をクリックします。

Nuclias 対応機器をオンラインにする

1. Nuclias 対応機器をインターネット環境に接続します。

Nuclias 対応機器が正常に Nuclias サーバに接続されると、いったんオンライン状態になったあと、ファームウェアの確認並びにアップグレード後、設定プロファイルの確認、更新が実施されます。

注意 機器がオンライン状態になった後は、ファームウェアアップグレードが実施される可能性があります。
ネットワーク切断や電源 OFF 等を実施する場合はファームウェアアップグレード状態でないかをご確認ください。

ファームウェアアップグレード中にネットワーク切断や電源 OFF 等を実施した場合、システムが故障し、Nuclias 対応機器が起動しなくなる恐れがあります。

2. 機器が正常にオンライン状態になり、Nuclias 上でオンライン表示になると設定完了です。



図 4-18 ダッシュボード画面

以上で Nuclias の基本的な設定は終了です。

設定の詳細に関しては各項目のページをご確認ください。

マイプロフィール

Nuclias 管理画面の右上部のユーザ名から「ユーザプロファイル」をクリックし、「マイプロフィール」タブで現在ログインしているユーザの情報を確認します。

DJP_画面確認用
全て

DJP
日本語

ダッシュボード
モニタ
設定
レポート
管理
ヘルプ

ユーザプロフィール / マイプロフィール
マイプロフィール
最近のログイン
APIアクセス

マイプロフィール

ページのメール送信
 アカウントの削除

名前

DJP_画面確認用

Eメール

testdl102102+djpgamen@gmail.com

現在のパスワード

8~64文字（アスキー文字）

新しいパスワード

8~64文字（アスキー文字）

新しいパスワードの確認

8~64文字（アスキー文字）

2ファクタ認証

無効

自動ログアウト

60分

ログインプリファレンス

デフォルトのログインプリファレンスにしない

☐ D-Linkからプロモーションと製品のアップデートを受け取る。

最大1MBの、PNG、JPEG、JPGのうちのいずれかの形式のファイルをアップロードできます。

画像のアップロード

画像の削除

アクセス権限

アクセスレベル	組織
役割	管理者
組織	DJP_画面確認用
組織ID	132901
サイト	DJP_画面確認用, Dlink, D-Link Tokyo, Site

キャンセル | 保存

図 5-1 ユーザプロファイル

ログイン中ユーザのユーザ名、ログインパスワードの変更、イメージ画像の変更を行うことができます。
また、Eメールアドレスや、権限、アクセス可能なサイトの確認が可能です。

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
名前	ログイン時に表示されるユーザ名です。自身で編集できます。
Eメール	ユーザに紐づいているEメールアドレスです。変更できません。
現在のパスワード 新しいパスワード	ログイン時に利用するパスワードを変更します。 「現在のパスワード」に現在のパスワード、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」に新しいパスワードを入力し、「保存」をクリックします。
2ファクタ認証	Nuclias にログインする際に、本画面で設定したパスワードのほかに E-mail または Google Authenticator による認証を行う機能です。 ・「無効」：2ファクタ認証を無効にします。 ・「Eメール検証」：パスワードによる認証のほかに、E-mail による認証を行います。登録した E-mail アドレスに送付されるパスコードを使用してください。 ・「Google authenticator」：パスワードによる認証のほかに、Google 認証システム（Google Authenticator）による認証を行います。Nuclias アカウントを Google 認証システムに追加し、「2ファクタ認証コードのテスト」で認証を確認してください。
自動ログアウト	自動ログアウト時間（単位：分）を設定します。 Nuclias にログイン後、本項目で設定した時間内に操作を行わなかった場合、Nuclias から自動的にログアウトします。
ログインプリファレンス	Nuclias Cloud と Nuclias Connect のどちらかをログイン後に表示する画面として指定できます。 ・「デフォルトのログインプリファレンスにしない」：ログイン後に表示する画面を指定しません。 ・「Nuclias クラウドポータルをデフォルトに設定する」：ログイン後に Nuclias Cloud の画面を表示します。 ・「Nuclias クラウドコネクトをデフォルトに設定する」：ログイン後に Nuclias Connect の画面を表示します。

項目	説明
D-Link からプロモーションと製品のアップデートを受け取る。	チェックを入れた場合、D-Link からプロモーションと製品のアップデートのお知らせを受け取ることができます。
ユーザアイコン	ユーザのアイコン画像が表示されます。 「画像のアップロード」から画像のアップロード、「画像の削除」から画像の削除ができます。
アクセス権限	アカウントのアクセス権限が表示されます。
ページのメール送信	ユーザ情報を自身のアドレスに送信します。
アカウントの削除	自身のアカウントを削除します。 注意 本項目からアカウントを削除するには、管理者権限に設定されている必要があります。

ログイン履歴

ユーザがログインした履歴を確認できます。

Nuclias 管理画面の右上部のユーザ名から「ユーザプロフィール」をクリックし、「最近のログイン」タブをクリックします。

ユーザプロフィール / 最近のログイン			
		マイプロフィール	最近のログイン
あなたの最近のログイン			
#	IPアドレス	ロケーション	日 / 時
1	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/15/2020 12:14
2	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/15/2020 12:09
3	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/15/2020 11:31
4	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/15/2020 15:05
5	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/12/2020 10:31
6	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/11/2020 16:42
7	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/11/2020 14:38
8	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/10/2020 16:46
9	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/10/2020 14:06
10	125.100.149.234	Shinjuku / Japan	06/09/2020 15:18

図 5-2 ログイン履歴

API アクセス

API キーの確認、生成、無効化を実行できます。

Nuclias Cloud API は、他のソフトウェアが Nuclias および Nuclias の管理デバイスと機能とを共有するためのインターフェースです。

API には、Nuclias Cloud と通信するソフトウェアおよびアプリケーションを構築するためのエンドポイントが含まれます。プロビジョニング、外部キャプティブポータル、モニタリングやレポートなどの機能を使用する場合に有用です。

Nuclias Cloud API は、URL への HTTPS リクエストと、JSON（JavaScript Object Notation）形式を使用する RESTful API です。

注意 生成した API キーは、無効化できますが削除することはできません。

Nuclias 管理画面の右上部のユーザ名から「ユーザプロフィール」をクリックし、「API アクセス」タブをクリックします。

ユーザプロフィール / API アクセス

マイプロフィール

最近のログイン

APIアクセス

APIアクセス

Nuclias Cloud APIは、ソフトウェアがNuclias CloudプラットフォームおよびNuclias Cloud管理デバイスと直接対話するためのインターフェースです。APIには、プロビジョニング、外部キャプティブポータル、モニタリング、レポートなどのユースケースのためにNuclias Cloudと通信するソフトウェアおよびアプリケーションを構築するためのエンドポイントと呼ばれる一連のツールが含まれています。Nuclias Cloud APIは、URLへのHTTPSリクエストと人が読める形式のJSONを使用するRESTful APIです。専用のドキュメントについては<https://nuclias.ttdlink.com>にお問い合わせください。

Nuclias Cloud APIにアクセスするためのBASE URLとして、以下のAPIエンドポイントURLを使用します。

APIエンドポイントURL `https://nuclias.com`

API keyの生成 無効化

#	APIキー名	APIキー	最終アクセスIPアドレス	最終アクセスロケーション	最終アクセス日時	状態	作成者	作成日時
1	123456	9b46*****9a1a	-	-/-	2021/11/24 14:08	NORMAL	9b46133133+@gmail.com	2021/11/24 14:08

閉1次10

図 5-3 API アクセス

■ API キーの生成

1. 「API key の生成」をクリックし、以下の画面を表示します。



図 5-4 API key の生成

2. API キーの名前を入力 → 「生成」をクリックします。
3. 以下の画面に結果が表示されます。「ダウンロード API キー」をクリックすると CSV 形式でダウンロードできます。



図 5-5 API キーの生成結果

■ API キーの無効化

1. 無効化する API キーにチェックをいれます。
2. 「無効化」をクリックします
3. 確認画面で「無効化」をクリックします。



図 5-6 API キーの無効化

注意 無効化した API キーを再度有効化することはできません。

第6章 ダッシュボード

- 「ダッシュボード」

ダッシュボード

ダッシュボード画面では、Nuclias で管理している機器の状態を確認できます。

組織内全体の使用状況を確認できるほか、サイト単位で状況確認することもできます。
画面上部のドロップダウンリストからサイトを選択してください。

画面右上の  アイコンをクリックすると、ダッシュボード画面に表示する項目をカスタマイズできます。



図 6-1 ダッシュボード（カスタマイズメニュー）

■ ダッシュボードのカスタマイズメニュー

- カスタマイズ: ダッシュボード画面に表示する項目を選択します。
 - 概要: Nuclias に登録されている機器の状態と数を表示します。
 - マップ+アラート+レポート: 地図、アラート、レポートを表示します。
 - 最近 24 時間サマリ: 過去 24 時間のデバイス使用状況の要約を表示します。デバイスは「アクセスポイント」「スイッチ」「ゲートウェイ」から選択できます。
- 位置変更: ダッシュボード画面に表示されている項目を移動します。
- リセット: ダッシュボードの表示を初期状態にリセットします。
- 保存 / 閉じる: ダッシュボードの設定を変更した場合、「保存」をクリックします。設定変更をしていない場合は「閉じる」が表示されます。

ダッシュボード > 概要エリア

指定したサイト内に登録されているデバイスの数とその状態を表示します。



図 6-2 ダッシュボード（概要）

各デバイスの数字をクリックすると、デバイスの詳細が表示されます。
デバイス名のリンクをクリックすると、各デバイスの設定画面に移動します。



図 6-3 ダッシュボード（デバイス）

ダッシュボード> マップ+アラート+レポート エリア

地図、アラート、レポートを表示します。

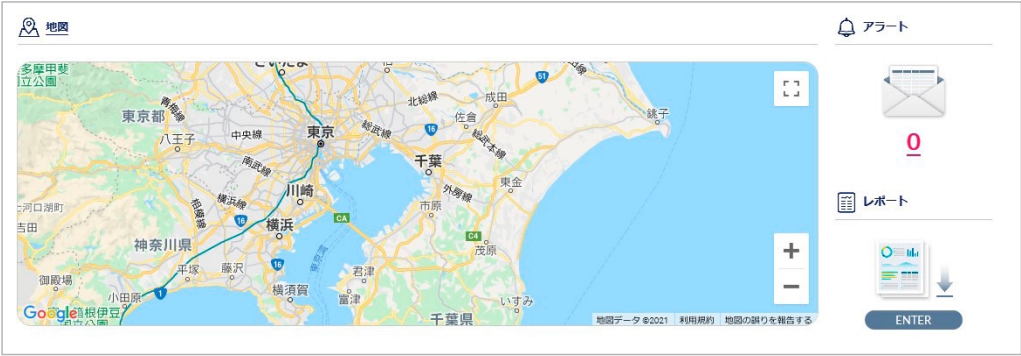


図 6-4 ダッシュボード（マップ+アラート+レポート）

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
地図	地図を表示します。 「地図」のリンクをクリックすると、 モニタ>地図 画面に移動します。
アラート	アラートの数を表示します。 アイコンをクリックすると、 レポート>アラート 画面に移動します。
レポート	アイコンをクリックすると、 レポート>サマリレポート 画面に移動します。

ダッシュボード> 最近 24 時間サマリ エリア

過去 24 時間のデバイスの使用状況を表示します。



図 6-5 ダッシュボード（最近 24 時間サマリ）

第7章 モニタ

- 「スイッチ-デバイス」
- 「スイッチ-クライアント」
- 「スイッチ-イベントログ」
- 「地図」
- 「フロアプラン」
- 「ネットワーク」

スイッチ-デバイス

モニタ>スイッチ>デバイスの順にクリックし、各デバイスの状況を確認することができます。

#	状態	デバイス名	MAC アドレス	グローバルIPアドレス	ローカルIPアドレス	モデル名	接続	供給電力	パワーバジェット
1	●	DBS-2000-28P	88:4d:6b:1c:1c:90	10.10.10.10	192.168.1.10	DBS-2000-28P		0W	193W

図 7-1 デバイス一覧

表の各項目の説明は下記の通りです。

項目	説明
状態	各機器のステータスを以下の色で表示します。 ・ 緑色：オンライン / 赤色：オフライン / 灰色：休止状態
デバイス名	Nuclias 上でのデバイス名を表示します。本項目をクリックすると、各デバイスの設定画面へ移行します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
グローバル IP アドレス	デバイスのグローバル IP アドレスを表示します。
ローカル IP アドレス	デバイス本体に割り振られているローカル IP アドレスを表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
接続	デバイスの直近のステータスをタイムバーで表示します。緑色がオンライン、赤色がオフラインを表します。 タイムバーの期間は「タイムフレーム」で設定できます。ただし、設定したタイムフレームの期間より、該当デバイスのオンライン期間が短かった場合、タイムバーの左端はデバイスが最初にオンラインになったときに調整されます。 マウスカーソルをバーに合わせると、オンラインまたはオフラインとなっていた時間帯を確認できます。
供給電力	スイッチが PoE デバイスに供給している電力を表示します。
パワーバジェット	スイッチが供給可能な電力を表示します。
タグ	デバイスにつけられたタグを表示します。
同期ステータス	デバイスに Nuclias 上の最新の設定が同期されているかを表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
プロファイル	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
サイト	デバイスが紐づいているサイトを表示します。
サイトタグ	上記のサイトがサイトタグに紐づいている場合、それを表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
ファームウェアバージョン	デバイスのファームウェアバージョンを表示します。
ハードウェアバージョン	デバイスのハードウェアバージョンを表示します。
最終閲覧	最終接続日時を表示します。デバイスがオンライン状態の場合は「オンライン」と表示されます。
ライセンス状態	デバイスに紐づけられているライセンスのステータスを表示します。
登録日	デバイスを Nuclias に登録した日を表示します。
期限日	デバイスに紐づけられたライセンスの期限を表示します。
ポート	ポートの数を表示します。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表内の「接続」欄に表示する期間を設定します。

■ 表示する項目の選択

 をクリックすると表示できる項目の一覧が表示されます。表示する項目にチェックをいれます。

■ デバイス情報のダウンロード

 をクリックし、デバイスの情報を CSV 形式でダウンロードします。

スイッチ-クライアント

モニタ>スイッチ>クライアントの順にクリックし、スイッチに接続されている、または接続されていたスイッチの状態を確認できます。

モニタ / スイッチ / クライアント

タイムフレーム: 最近24時間

検索

並び替え

#	状態	クライアント名	MACアドレス	IPv4アドレス	接続先	ポート	VLAN	初回確認	最終閲覧	LLDP	ベンダー
1	●	00:0C:29:25:44:90	00:0C:29:25:44:90	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:04:08	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
2	●	00:1C:D9:3F:AE:8F	00:1C:D9:3F:AE:8F	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:03:17	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
3	●	00:0C:29:25:44:90	00:0C:29:25:44:90	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:04:08	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
4	●	00:1C:D9:3F:AE:8F	00:1C:D9:3F:AE:8F	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:05:08	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
5	●	00:0C:29:25:44:90	00:0C:29:25:44:90	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:05:08	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
6	●	00:1C:D9:3F:AE:8F	00:1C:D9:3F:AE:8F	172.16.1.54	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:02:38	03/19/2020 17:21:47	内蔵のICチップに接続	D-Link International
7	●	00:0C:29:25:44:90	00:0C:29:25:44:90	172.16.1.1	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:02:39	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
8	●	00:1C:D9:3F:AE:8F	00:1C:D9:3F:AE:8F	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:05:08	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
9	●	00:0C:29:25:44:90	00:0C:29:25:44:90	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:04:08	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International
10	●	00:1C:D9:3F:AE:8F	00:1C:D9:3F:AE:8F	-	DBS-2000-28P	1	1	03/17/2020 10:03:17	03/19/2020 17:21:47	-	D-Link International

15 クライアントが以下日から接続: 2023/09/26

12次10

図 7-2 クライアント一覧

表の各項目の説明は下記の通りです。

項目	説明
状態	クライアントの状態を表示します。 ● 緑色：現在接続しているクライアントです。 ● 赤色：過去に接続していたクライアントです。現在は接続していません。
クライアント名	クライアントの名前を表示します。クライアント名は編集することができます。
MAC アドレス	クライアントの MAC アドレスを表示します。
IPv4 アドレス	クライアントの IP アドレスを表示します。
接続先	クライアントが接続しているデバイス名を表示します。
ポート	クライアントが接続しているポートを表示します。
VLAN	クライアントが接続している VLAN を表示します。
初回確認	クライアントが最初に認識された日時を表示します。
最終閲覧	クライアントが最後に認識された日時を表示します。
LLDP	クライアントの LLDP を表示します。
ベンダー	クライアントの製造ベンダを表示します。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表示する期間を設定します。

■ クライアントの検索

検索画面では、以下の項目で検索を行うことができます。

状態:

全て

MAC アドレス:

eg. 3C:1E:04:16:53:20

接続先:

全て

VLAN:

1-4094

図 7-3 クライアントの検索

■ クライアント情報のダウンロード

 をクリックし、クライアントの情報を CSV 形式でダウンロードします。

モニタ / スイッチ / イベントログ

開始日2025/03/0611:21:04

終了日2025/03/0612:21:04

重大性全て

カテゴリ / イベントタイプ全て

デバイス0 選択済

フィルタのリセット

フィルタ

ダウンロード

検索

#	時間	スイッチ	サイト	MAC アドレス	重大性	イベントタイプ	イベントの内容
1	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	IPアドレスが変更されました	DBS-2000-10MP1Pが変更されました。新しいVIP382.386.253.244
2	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	IPアドレスが変更されました	DBS-2000-10MP1Pが変更されました。新しいVIP183.168.253.244
3	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	IPアドレスが変更されました	DBS-2000-10MP1Pが変更されました。新しいVIP392.348.253.244
4	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクアップ	Port 6 link up at RJ45, 1Gbps FULL duplex.
5	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクダウン	Port 6 link down.
6	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクアップ	Port 6 link up at RJ45, 1Gbps FULL duplex.
7	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクダウン	Port 6 link down.
8	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクダウン	Port 2 link down.
9	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクアップ	Port 2 link up at RJ45, 100Mbps FULL duplex.
10	06/03/2020 14:55:22	DBS-2000-10MP	2323	0C:B1:00:00:1D:00	情報	ポートリンクダウン	Port 2 link down.

前

1

2

3

4

5

6

7

8

次

10

図 7-4 イベントログ

項目	説明
時間	イベントの発生日時を表示します。
スイッチ	イベントの発生したスイッチを表示します。
サイト	イベントの発生したサイトを表示します。
MAC アドレス	イベントが発生したスイッチの MAC アドレスを表示します。
重大性	イベントの重大性を表示します。
イベントタイプ	イベントの種類を表示します。
イベントの内容	発生したイベント、関連デバイスやクライアントについての詳細情報（IP アドレス、MAC アドレス、ベンダなど）を表示します。

「ダウンロード」をクリックし、デバイスの情報を CSV 形式でダウンロードします。

■ イベントログのフィルタ

項目	説明
開始日	検索範囲の開始日（60 日前から当日までを指定可能）と開始時刻を指定します。
終了日	検索範囲の終了日と終了時刻を指定します。
重大性	イベントの重大性（「重大」「警告」「情報」）を指定します。
カテゴリー / イベントタイプ	発生したイベントの種類を指定します。
デバイス	イベントの発生したデバイスを指定します。

「フィルタ」をクリックすると、設定したフィルタを基にイベントログが更新されます。

地図

モニタ > 地図を選択すると、各サイトの情報を地図上で確認できます。
マップ上では、各サイトの設定に紐づけられた住所にプロットが設定されています。

- ・ 緑色：全てのデバイスがオンラインであることを示しています。
- ・ 赤色：1台以上のデバイスがオフラインであることを示しています。
- ・ 灰色：デバイスが登録されていないか、デバイス登録済であるが Nuclias に未接続である状態を示しています。

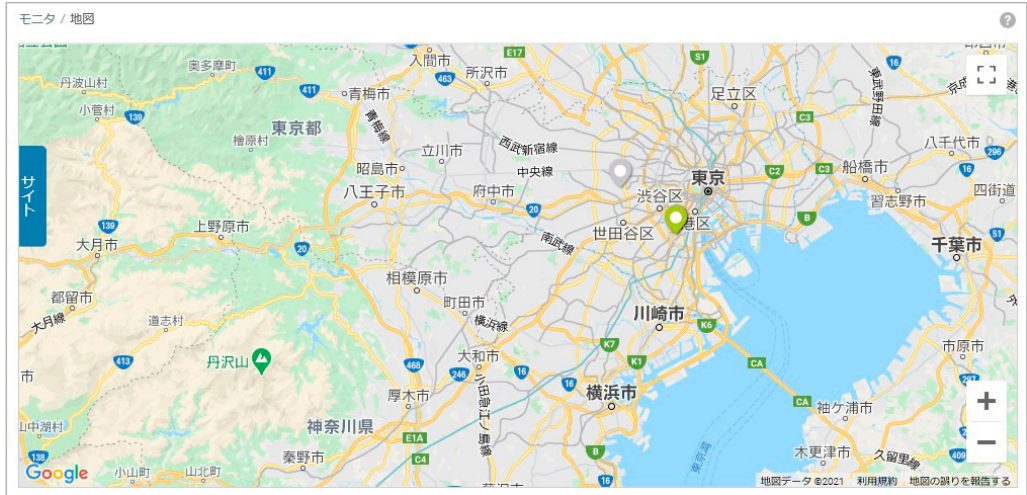


図 7-5 地図

サイトのアイコンをクリックすると、サイト名、住所、並びに各状態のデバイスの数を確認できます。
サイト名をクリックするとそのサイトのダッシュボードが表示されます。

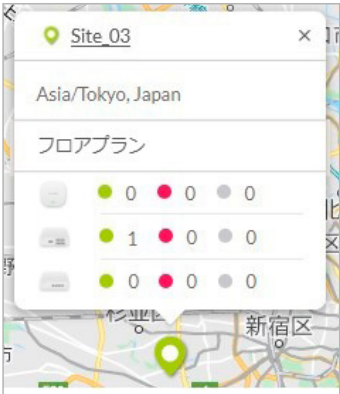


図 7-6 地図 - サイト情報

地図左端の「サイト」のタブをクリックすると、左側にサイトの一覧が表示されます。

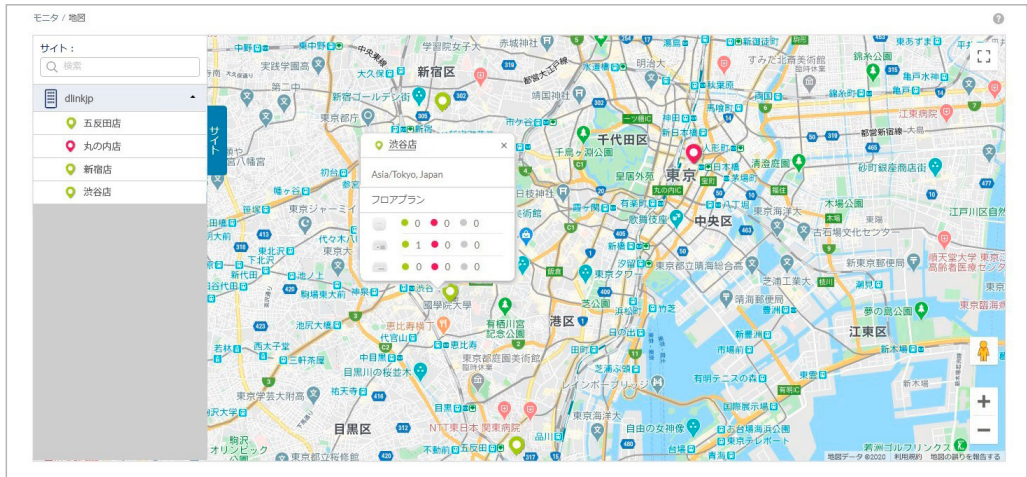


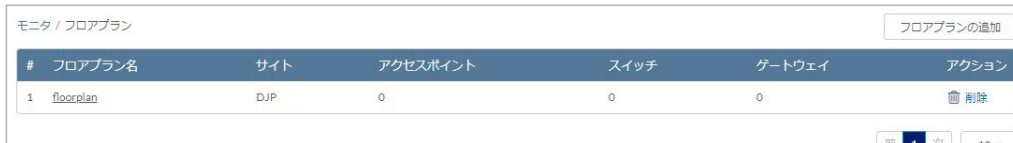
図 7-7 地図 - サイトのリスト

フロアプラン

ユーザが作成、準備したフロア画像を Nuclias にアップロードし、その画像にネットワーク機器のアイコンをドラッグ&ドロップすることにより、視覚的な機器管理が可能です。フロアプラン上では、各デバイスのオンライン/オフラインの状況を確認できます。

■ フロアプランの追加

1. モニタ > フロアプラン を選択します。



#	フロアプラン名	サイト	アクセスポイント	スイッチ	ゲートウェイ	アクション
1	floorplan	DJP	0	0	0	削除

図 7-8 フロアプラン

2. 「フロアプランの追加」をクリックし、フロアプランの名前とサイトを設定します。



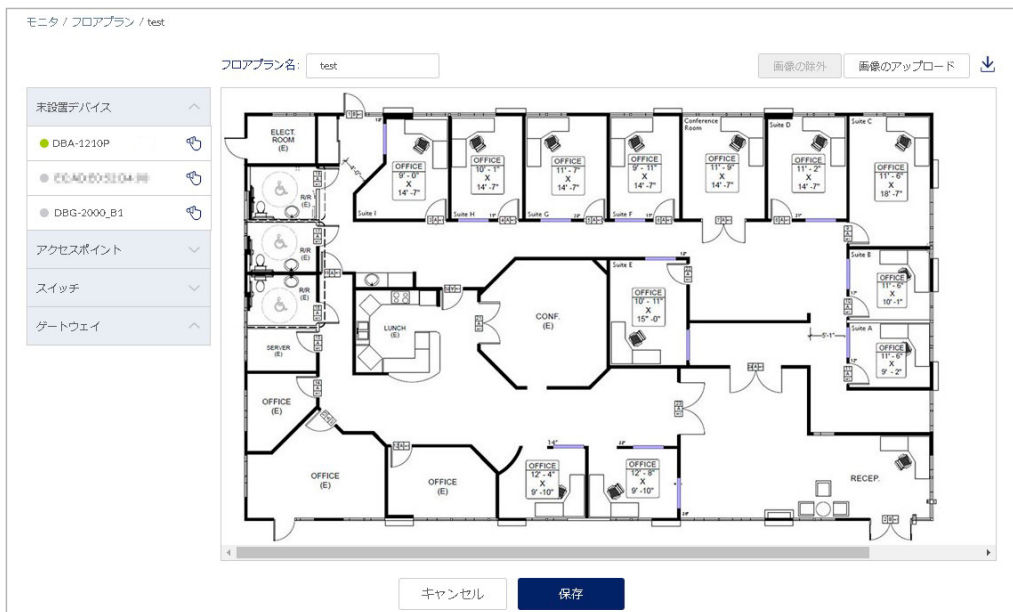
フロアプランの追加

名前*

サイト

図 7-9 フロアプランの追加

3. 「保存」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



モニタ / フロアプラン / test

フロアプラン名: test

画像の除外 画像のアップロード

未設置デバイス

- DBA-1210P
- DBG-2000_B1

アクセスポイント

スイッチ

ゲートウェイ

CONF. (E)

OFFICE (E)

RECEP.

図 7-10 フロアプランの編集

4. フロアマップを編集します。
 - ・フロアマップ等の画像をアップロードする場合は、「画像のアップロード」から実行します。
 - ・アップロードした画像を削除する場合は「画像の除外」をクリックします。
 - ・画面右端の  をクリックすると、画像をダウンロードできます。
 - ・「未設置デバイス」を開くと未設置のデバイスが表示されます。ドラッグして適切な場所に移動させ、ドロップしてアイコンの位置を確定します。
 - ・フロア上のデバイスを削除する場合は左側のデバイスリスト欄の「×」をクリックします。
5. 設定後、「保存」をクリックします。

フロアマップ上のデバイスアイコンの色は以下の状態を表します。

- ・ 緑色：オンライン状態 / 赤色：オフライン状態 / 灰色：休止状態（デバイスが登録済だが、Nuclias に未接続である状態）

■ フロアプランの削除

モニタ > フロアプラン画面で、「アクション」欄の「削除」をクリックします。

ネットワーク

モニタ > ネットワークの順にクリックし、ネットワークの使用状況を表示します。

本画面では、デバイス可用性に関する統計、帯域の使用量、すべての接続クライアントの情報を表示します。ユーザのアクセス権限に応じて、管理対象のデバイスのみが表示されます。

モニタ / ネットワーク

デバイス稼働時間の可用性

タイムフレーム: 最近24時間

Q 検索

↓

↓

#	デバイス名	オフライン/稼働時間	利用可能状態
1	DBA-1210P	0s / 1d 0h 0m 0s	100 %
2	DBG-2000_B1	1d 0h 0m 0s / 0s	0 %
3	DBG-2000_B1	1d 0h 0m 0s / 0s	0 %

前

1

次

10

使用帯域

タイムフレーム: 最近24時間

Q 検索

↓

↓

#	サイト名	使用量
データがありません		

前

次

10

クライアントオーバービュー

タイムフレーム: 最近24時間

Q 検索

↓

↓

#	タイプ	クライアント名	サイト	MAC アドレス	IPv4アドレス	接続先	使用量	RSSI	SNR
データがありません									

前

次

10

チャネルオーバービュー

デバイス: 全て

↓

↓

#	チャネル	干渉	使用
1	8	11	
2	9	12	DBA-1210P
3	10	11	
4	56	8	
5	60	5	DBA-1210P
6	64	11	

前

1

次

10

図 7-11 ネットワーク

■ デバイス稼働時間の可用性

本画面には以下の項目が含まれます。

項目	説明
デバイス名	デバイス名を表示します。
オフライン / 稼働時間	「タイムフレーム」で指定した期間のオフライン時間 / 稼働時間を表示します。
利用可能状態	「タイムフレーム」で指定した期間でデバイスが稼働している時間のパーセンテージを表示します。

↓ をクリックすると、表示している情報を CSV 形式でダウンロードできます。

特定の文字列を含むログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。検索ウィンドウ右側の

▼

 をクリックしてサイトを指定し、特定のサイトに属するデバイスを表示することもできます。

■ 使用帯域

本画面には以下の項目が含まれます。

項目	説明
サイト名	サイト名を表示します。
使用量	「タイムフレーム」で指定した期間のインターネット帯域の合計使用量を表示します。

↓ をクリックすると、表示している情報を CSV 形式でダウンロードできます。

特定の文字列を含むログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。検索ウィンドウ右側の

▼

 をクリックして、特定のサイトを指定、表示することもできます。

44

■ クライアントオーバービュー

本画面には以下の項目が含まれます。

項目	説明
タイプ	クライアントの接続タイプ（無線または有線）をアイコンで表示します。
クライアント名	「タイムフレーム」で指定した期間に接続されたクライアント名を表示します。
サイト	サイト名を表示します。
MAC アドレス	クライアントの MAC アドレスを表示します。
IPv4 アドレス	クライアントの IP アドレスを表示します。
接続先	クライアントの接続先デバイスを表示します。
使用量	インターネット帯域の使用量を表示します。
RSSI	無線接続の場合は、RSSI（Received Signal Strength Indicator）の値を表示します。RSSI は、クライアントが受信する電波の強さを表します。
SNR	無線接続の場合は、SNR (Signal Noise Rate) の値を表示します。SNR は、「受信する電波の強さ（RSSI）」から「受信するノイズの強度」を引いた値です。値が大きいほど電波の品質はよいと判断されます。



をクリックすると、表示している情報を CSV 形式でダウンロードできます。

特定の文字列を含むログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。検索ウィンドウ右側の▼をクリックして、特定のサイトを指定、表示することもできます。

第 8 章 デバイス設定

- 「スイッチ - プロファイル」
- 「スイッチ - デバイス」
- 「スイッチ - スイッチポート」
- 「認証 - 認証サーバ」
- 「スケジュールポリシー」

スイッチ - プロファイル

プロファイルとは、デバイスに適用する設定データの集まりです。プロファイルに紐づけられているデバイスすべてに同じ設定を適用することができます。スイッチのプロファイルでは、スイッチのポート機能、ポートのアクティビティスケジュールのほか、VLAN、Quality of Service、アクセスコントロール機能などの高度な機能を設定できます。

設定 > スイッチ > プロファイルを選択し、スイッチに適用するプロファイルを作成、編集するページを表示します。

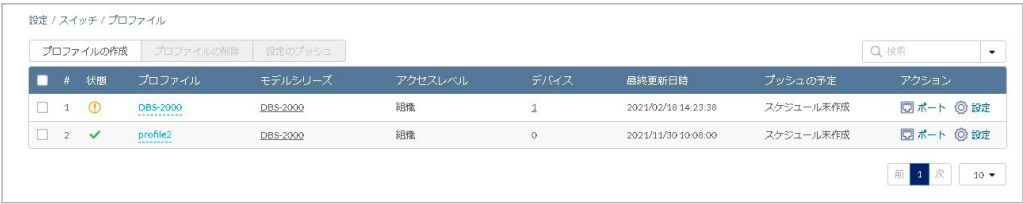


図 8-1 プロファイル一覧

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
チェックボックス	プロファイルを削除する場合、設定のプッシュを行う場合に使用します。
状態	プロファイルの同期状態を表示します。 ⚠️：プロファイルの設定が変更されました。最新のプロファイルは、紐づけされているデバイスに同期されていません。 🕒：スケジュール設定済みで未同期（実行待ち）の状態です。 ✅：最新のプロファイルがデバイスに同期済みです。または、プロファイルがデバイスに紐づけられていません。
名前	プロファイル名が表示されています。プロファイルの名称を変更する場合は、直接ここをクリックしてください。
モデル名	プロファイルのモデルを表示します。
アクセスレベル	プロファイルのアクセスレベルを表示します。
デバイス	プロファイルに登録されているデバイスの数を表示します。 数字をクリックすると、デバイスの一覧が表示されます。
最終更新日時	プロファイルを最後に更新した日時を表示します。
プッシュの予定	プロファイルをデバイスに同期する予定の日時を表示します。 同期を行う予定がない場合は「スケジュール未作成」と表示されます。
アクション	ポートの設定、その他設定のページに移行します。

なお、画面右上の検索ウィンドウより、サイトタグやサイトを指定してプロファイルを表示することもできます。

注意 サイトまたはサイトタグを指定して検索した場合、指定したサイトまたはサイトタグ配下のプロファイルのみ検索結果に表示されます。

■ プロファイルの作成

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面の「プロファイルの作成」をクリックし、以下の画面で設定を行います。

プロファイルの作成

プロファイル名 * 1-64文字

モデル名 DBS-2000

アクセス権限

アクセスレベル 組織

設定

☒ デフォルトコンフィグを使用する ?

☐ 既存プロファイルを複製する

このプロファイルはデフォルトコンフィグを使用します。パスワードやセキュリティ設定は、お客様の使用するものに変更してください。

キャンセル プロファイルの作成

図 8-2 プロファイルの作成

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
プロファイル名	Nuclias 上で管理するためのプロファイル名を指定します。
モデル名	プロファイルを適用する機器名（製品名）をプルダウンから選択します。
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイトタグ」「サイト」から選択します。 サイトタグおよびサイトを選択した場合は、管理サイトタグまたは管理サイトを設定します。
設定	作成するプロファイルの元データを指定します。 ・「デフォルトコンフィグを使用する」：各モデルに適応した初期コンフィグがありますので、それらを指定します。管理者はデフォルトコンフィグを編集し、ユーザ環境に合わせた設定を作成できます。 ・「既存プロファイルを複製する」：同じ組織内に、既に同じモデル用のプロファイルが作成されている場合、それを複製し、編集することができます。

2. 設定後、「プロファイルの作成」をクリックします。

■ プロファイルの削除

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面のチェックボックスにチェックを入れ、「プロファイルの削除」をクリックします。
2. 確認画面で「はい」を選択します。

注意 デバイスが紐づいているプロファイルは削除できません。

■ 設定のプッシュ

プロファイルをデバイスに同期するには、「設定のプッシュ」を行います。

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面のチェックボックスにチェックを入れ、「設定のプッシュ」をクリックします。
2. 以下の画面で設定のプッシュを実行する方法を選択します。

設定のプッシュ

☒ 今すぐ設定のプッシュ

☐ 設定のプッシュの時間を設定してください：

2021/11/24 12:00 UTC+09:00

スケジュール変更

図 8-3 設定のプッシュ

「今すぐ設定のプッシュ」：すぐに設定のプッシュを行います。

「設定のプッシュの時間を設定してください」：設定のプッシュを実行する日時を選択します。

3. 「スケジュール変更」をクリックします。
4. 設定 > スイッチ > プロファイル画面の「プッシュの予定」に、設定のプッシュを行う日時が表示されます。

第8章 デバイス設定

注意 オフライン状態のデバイスに「設定のプッシュ」を行った場合は、プロファイルを同期できません。

注意 プロファイルの「ポート」「設定」の各画面において、最新のプロファイルがデバイスに適用されていない場合、「設定のプッシュ」アイコンには橙色のマークが表示されます。



プロファイル - ポート

ポートの設定方法について説明します。

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。



図 8-4 プロファイル一覧

2. 以下の画面でポートの設定を行います。

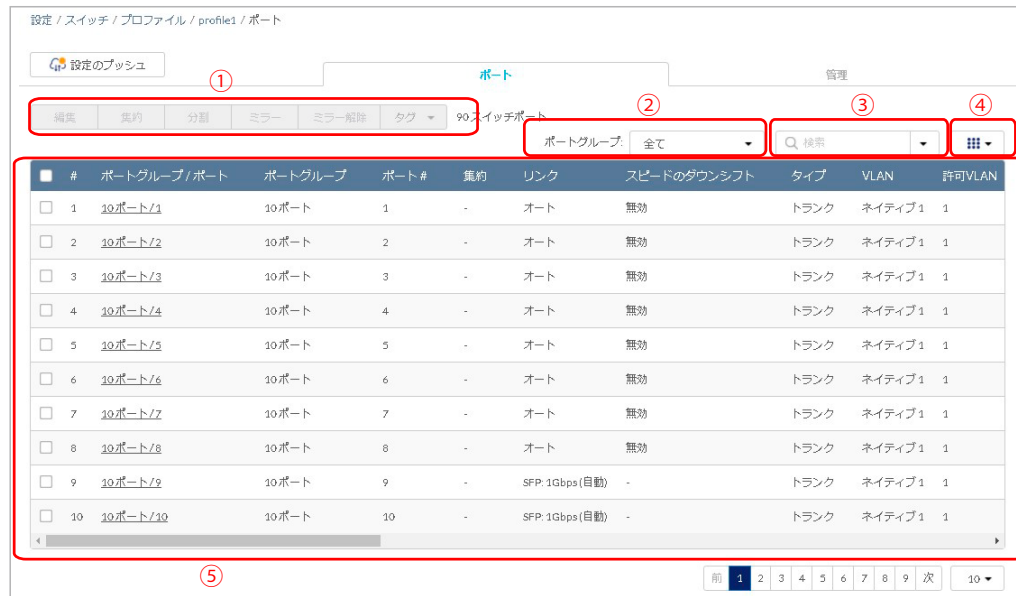


図 8-5 ポート一覧

- ① 選択したポートの「編集」「集約」「分割」「ミラー」「ミラー解除」「タグ」の設定を行います。
 - ② 表示するポートグループを選択します。
 - ③ キーワードを入力し、ポートを検索します。ドロップダウンリストから「ポート #」「VLAN」「タイプ」「タグ」「ポートスケジュール」ごとに検索することもできます。
 - ④ ポートの一覧に表示する項目を選択します。
 - ⑤ ポートの一覧を表示します。設定を行うポートのチェックボックスにチェックをいれます。
3. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

参照 ①の設定項目の詳細については以下を参照してください。

- 「プロファイル - ポート - 編集」
- 「プロファイル - ポート - 集約」
- 「プロファイル - ポート - 分割」
- 「プロファイル - ポート - ミラー」
- 「プロファイル - ポート - ミラー解除」
- 「プロファイル - ポート - タグ」

プロファイル - ポート - 編集

ポートの設定を編集する手順について説明します。

- 1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。
- 2. 設定を行うポートにチェックをいれ、「編集」をクリックします。複数のポートを選択することも可能です。
または、ポートの一覧の「ポートグループ / ポート」欄のリンクをクリックします。
- 3. 以下の画面で設定を行います。

Update 1 ポート

スイッチポート

スイッチ-10/ポート1

タグ

Q 既存のタグを選択するか、新しいタグを追加してください。

ポート名

1-64文字

リンク(RJ45)

オート

ポートステータス

有効

スピードのダウンシフト

無効

RSTPルート

無効

PoE

有効

STPガード

無効

PDアライブ

無効

LBD

無効

PD IP アドレス

例 : 10.90.90.90

ポート CoS

0

ポートスケジュール [スケジュールポリシー](#)

Always on

タイプ

トランク

トラフィックセグメンテーション

無効

ネイティブVLAN

1

フォワードポート

全て

許可VLAN

1

フローコントロール

無効

閉じる

保存

図 8-6 1 ポートのアップデート

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
スイッチポート	選択したポートグループ / ポートが表示されます。
タグ	ポートを説明するタグを入力します。複数のタグを入力できます。 複数のポートが選択されている場合、設定したタグはすべてのポートに適用されます。
ポート名	ポートの名前を入力します。複数のポートを選択している場合、この名前はすべてのポートに適用されます。
ポートステータス	ポートの状態を「有効」または「無効」に設定します。
RSTP ルート	RSTP（Rapid Spanning Tree Protocol）を「有効」または「無効」に設定します。 RSTP はデータループを防止するプロトコルです。ネットワークに障害が起きた場合に通信経路の切り替えを行います。 注意 LBD と RSTP は同時に有効化できません。
STP ガード	「RSTP」を有効にした場合、ガードタイプを以下から選択します。 「無効」：ルートガードを無効にします。 「有効」：ルートガードにより、管理者はネットワーク内のルートブリッジポートの位置を定義できます。

第8章 デバイス設定

項目	説明
LBD	LBD (Loop Back Detection/ ループバック検知) を「有効」または「無効」に設定します。 LBD は、STP(Spanning Tree Protocol) がネットワークで有効になっていない場合に、特定のポートによって作成されたループを検知します。ループを検知した場合は自動的にポートをシャットダウンし、管理者にログを送信します。 注意 LBD と RSTP は同時に有効化できません。また、LBD の Recover Time は 300 秒固定です。
ポート CoS	ポートの CoS (Class of Service) 値を 0-7 から選択します。 CoS 値は通信の優先度を表します。0 が最も低い優先度、7 が最も高い優先度です。
タイプ	ポートのタイプを以下から選択します。 「トランク」: ポートは複数の VLAN に所属し、異なる VLAN からタグ付きデータを送受信します。 「アクセス」: ポートは 1 つの VLAN にのみ所属し、ポートが属する VLAN からタグなしデータを送受信します。
ネイティブ VLAN	本項目はポートタイプに「トランク」を選択した場合に表示されます。 ポートが属するネイティブ VLAN の ID を入力します。
許可 VLAN	本項目はポートタイプに「トランク」を選択した場合に表示されます。 このポートを介してトラフィックをルーティングできる VLAN の ID を入力します。 入力可能な最大 VLAN 数は 256 です。 入力例: 「1」から「20」までの VLAN を指定する場合: 1-20 「1」「5」「10」の VLAN を指定する場合: 1,5,10
アクセス VLAN	本項目はポートタイプに「アクセス」を選択した場合に表示されます。 ポートが属するアクセス VLAN の ID を入力します。
アクセスポリシー	本項目はポートタイプに「アクセス」を選択した場合に表示されます。 ポートのアクセスポリシーを以下から選択します。 「無効」: アクセスポリシーを無効にします。 「MAC ホワイトリスト」: MAC ホワイトリストを使用します。 「ポートセキュリティ (delete-on-time モード)」: すべての学習した MAC アドレスは、エージアウトにより自動的に削除されます。エージアウトする時間は 300 秒です。また、学習した MAC アドレスは「ダイナミックホワイトリスト MAC」から手動で削除することもできます。 「ポートセキュリティ永続モード」: すべての学習した MAC アドレスは、手動でエントリを削除しない限り削除されません。エントリの削除は「ダイナミックホワイトリスト MAC」から行います。 注意 プロファイルで設定したアクセスポリシーを選択することもできます。アクセスポリシーの設定については「プロファイル-設定-アクセスポリシータブ」を参照してください。
スタティックホワイトリスト MAC	ポートタイプに「アクセス」を選択し、アクセスポリシーを「無効」以外に設定した場合に表示されます。 許可する MAC アドレスを AA:BB:CC:DD:EE:FF 形式で入力します。 複数の MAC アドレスを指定する場合は、1 行につき 1 つずつ入力してください。 注意 スタティックホワイトリスト MAC は 32MAC/ ポートです。
動的ホワイトリストサイズ制限	ポートタイプに「アクセス」を選択し、アクセスポリシーを「ポートセキュリティ (delete-on-time モード)」または「ポートセキュリティ永続モード」に設定した場合に表示されます。 ダイナミックホワイトリストに登録できる MAC アドレスの数を入力します。
ダイナミックホワイトリスト MAC	ダイナミックホワイトリストの MAC アドレスが表示されます。また、登録された MAC アドレスを削除できます。
リンク (RJ45)	ポートの通信速度を選択します。自動的に最適な通信速度にする場合は「オート」を選択します。
スピードのダウンシフト	ポートの通信速度のダウンシフトを「有効」または「無効」に設定します。 本機能を有効にすると、接続したケーブルが 1000Mbps でリンクを確立できない場合に 100 Mbps にダウンシフト (速度を下げる) してリンクを確立します。
PoE	PoE (Power over Ethernet) 機能を「有効」または「無効」に設定します。 PoE 設定は、Power over Ethernet をサポートするポートにのみ適用されます。
PD アライブ	PD アライブ機能を「有効」または「無効」に設定します。 有効にした場合、PoE ポートに接続されている PD (受電機器) の状態を Ping で確認します。 注意 PD アライブは Port-channel において有効に出来ません。
PD IP アドレス	PD (受電機器) の IP アドレスを設定します。
ポートスケジュール	設定したポートスケジュールを選択します。 「スケジュールポリシー」のリンクをクリックすると、設定 > スケジュールポリシー画面に移動します。
トラフィックセグメンテーション	トラフィックセグメンテーションを「有効」または「無効」にします。 「有効」にした場合、スイッチの 1 つのポートから、ポートグループへのトラフィックフローを制限します。
フォワードポート	選択したフォワードポート間では互いにパケットを送信できます。 すべてのポートをフォワードポートに指定する場合は「全て」を選択します。

項目	説明
フローコントロール	フローコントロールを有効 / 無効に設定します。

- 「保存」をクリックし、設定を保存します。

プロファイル - ポート - 集約

ポートの集約（リンクアグリゲーション）により、複数のポートをグループ化し1つのリンクとして機能させることができます。1つのリンクの帯域は集約したポートの分拡張されるため、帯域幅の拡張が可能です。また、1つのポートに障害が発生した場合の冗長性を向上させることができます。

- 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。
- 集約するポートにチェックをいれ、「集約」をクリックします。

注意 ポートのタイプが「アクセス」になっている場合は集約できません。

注意 リンクスピード、VLAN を含むリンク状態が一致していない場合は集約できません。

- 集約のタイプを「LACP」または「スタティック」から選択します。
 - 「LACP」：LACP（Link Aggregation Control Protocol）を使用し、自動的に集約を行います。
 - 「スタティック」：スタティックリンクアグリゲーションを行います。



図 8-7 リンクアグリゲーション設定

- 「集約」をクリックします。
- 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

プロファイル - ポート - 分割

集約したポートを分割します。

- 1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。
- 2. 集約したポートを選択します。



図 8-8 集約したポート

- 3. 「分割」をクリックします。
- 4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

プロファイル - ポート - ミラー

ポートミラーリングは、スイッチの「任意のポート」から「データを調べることができる別のポート」へ、送受信したデータのコピーを転送する機能です。コピーされたデータを採取して通信状況の解析を行うなど、ネットワークのパフォーマンスの監視に役立ちます。

- 1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。
- 2. 設定するポートにチェックをいれ、「ミラー」をクリックします。
- 3. ソースポートと宛先ポートを設定します。
 - ・「ソースポート」：選択した各ポートのドロップダウンリストから、ミラーリングするデータを選択します。
 - 「Both」：受信と送信の両方をミラーリングします。
 - 「RX」：ポートで受信したデータをミラーリングします。
 - 「TX」：ポートが送信したデータをミラーリングします。
 - ・「宛先ポート」：宛先ポートのポート番号を半角数字で入力します。



図 8-9 リンクアグリゲーション設定

- 4. 「ポートミラーリング設定」をクリックします。
- 5. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

プロファイル - ポート - ミラー解除

ポートミラーリングの設定を解除します。

1. 設定>スイッチ>プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。
2. ミラーリングしたポートを選択し、「ミラー解除」をクリックします。

注意 宛先ポートを選択した場合は、ミラーリング全体が解除されます。

3. 「ミラーリングポートの削除」をクリックします。



図 8-10 ミラーリングポートの削除

4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

プロファイル - ポート - タグ

ポートにタグを追加します。追加したタグによってポートまたはポートのグループを識別し、フィルタリングできます。タグはポートの機能には影響しません。

1. 設定>スイッチ>プロファイル画面で「アクション」欄の「ポート」をクリックします。
2. ポートを選択し、「タグ」をクリックします。
3. 以下の画面でタグの追加または削除を行います。

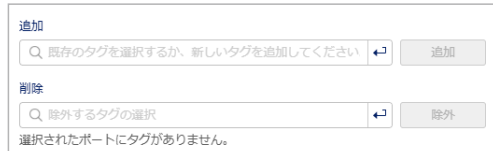


図 8-11 タグ

- タグを追加する場合：

「追加」欄のドロップダウンリストで既存のタグを選択するか、新しいタグの名前を入力して  をクリック→「追加」をクリックします。

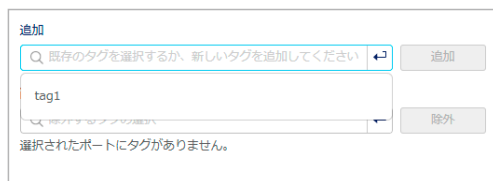


図 8-12 タグの追加

- タグを削除する場合：

「削除」欄のをクリックして表示されるタグ一覧から削除するタグを選択→「除外」をクリックします。

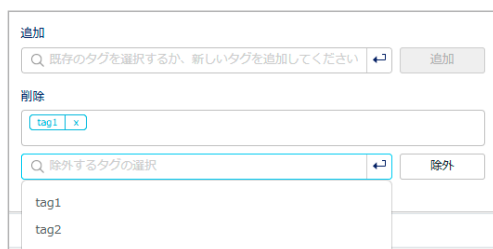


図 8-13 タグの除外

4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

プロファイル - 設定

- プロファイルの設定を行います。プロファイル> 設定画面には以下のタブがあります。
- 基本：VLAN 設定、STP 設定など基本的な設定を行います。詳細は「プロファイル - 設定 - 基本タブ」を参照してください。
 - ACL：アクセスコントロールリストの設定を行います。詳細は「プロファイル - 設定 - ACL タブ」を参照してください。
 - アクセスポリシー：アクセスポリシーの設定を行います。詳細は「プロファイル - 設定 - アクセスポリシータブ」を参照してください。
 - IGMP スヌーピング：IGMP スヌーピングの設定を行います。詳細は「プロファイル - 設定 - IGMP スヌーピングタブ」を参照してください。
 - VLAN：VLAN の設定を行います。詳細は「プロファイル - 設定 - VLAN タブ」を参照してください。

プロファイル - 設定 - 基本タブ

1. 設定>スイッチ>プロファイル画面で「アクション」欄の「設定」をクリックします。

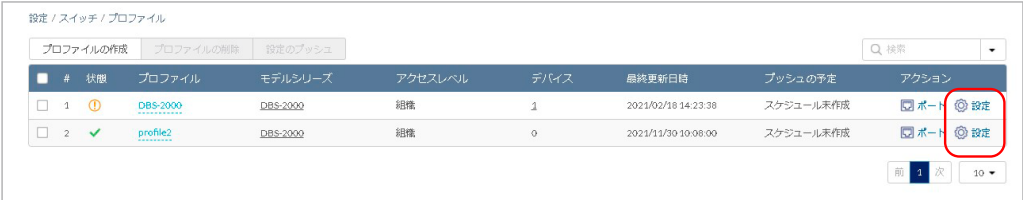


図 8-14 プロファイル一覧

2. 「基本」タブを選択し、以下の画面で設定を行います。



図 8-15 プロファイル - 設定 - 基本タブ

- 各項目の設定内容については以下を参照してください。
- 「VLAN 設定」「RSTP 設定」「DHCP サーバスクリーニング設定」「VOICE VLAN 設定」「ジャンボフレーム設定」「QUALITY OF SERVICE」「SNMP」
3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。
4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

■ VLAN 設定

マネジメント VLAN は、クラウドに接続してネットワークを構成および管理するためのプライマリ VLAN です。初期設定では、マネジメント VLAN1 がすべてのスイッチポートのデフォルトです。

図 8-16 プロファイル - 設定 - 基本 - VLAN 設定

項目	説明
マネジメント VLAN	ドロップダウンリストで VLAN ID を選択するか、VLAN ID を入力します。

注意 マネジメント VLAN ID を変更するには、マネジメントポートを新しいマネジメント VLAN ID に割り当てる必要があります。

注意 複数台に同じマネジメント VLAN を設定する場合は、デバイスページではなくプロファイルから設定する必要があります。

■ RSTP 設定

RSTP (ラピッドスパンニングツリープロトコル) は、スイッチ間でのデータのループを防止するために使用します。ループの原因となっているポートをシャットダウンすることでループが形成されるのを防ぎます。

プロファイル設定で RSTP を有効にした場合、このプロファイルを適用しているすべてのデバイスの RSTP が有効になります。各ポートの RSTP 設定は、以下の画面で有効 / 無効に設定します。

- ・ 設定 > スイッチ > スイッチポート
- ・ 設定 > スイッチ > プロファイル > ポート

注意 RSTP を有効にする場合は、プロファイルの RSTP 設定と各ポートの RSTP 設定の両方を有効にする必要があります。

図 8-17 プロファイル - 設定 - 基本 - RSTP 設定

項目	説明
RSTP グローバル設定	RSTP を有効または無効にします。
RSTP ブリッジプライオリティ	「追加」をクリックすると設定画面が表示されます。 スイッチ名を入力またはスイッチ名を選択し、「ブリッジプライオリティ」のドロップダウンリストから優先度の値を選択します。低い値はルートスイッチとして機能する可能性が高くなり、高い値はエッジスイッチとして機能する可能性が高くなります。

■ DHCP サーバスクリーニング設定

許可済みの DHCP サーバの IP アドレスを登録し、許可されていない DHCP サーバとデバイスがネットワークにアクセスするのを防ぐことができます。

図 8-18 プロファイル - 設定 - 基本 - DHCP サーバスクリーニング設定

項目	説明
DHCP サーバスクリーニング	DHCP サーバスクリーニングを有効または無効にします。
許可済 DHCP サーバ IP	許可済みの DHCP サーバの IP アドレスを入力します。 現在許可済みとして登録できる DHCP サーバは最大 5 つです。

第8章 デバイス設定

■ VOICE VLAN 設定

音声トラフィックに対して割り当てる VLAN ID を設定し、トラフィックに優先度を設定します。

注意 ボイス VLAN の優先度設定は、QUALITY OF SERVICE セクションで行う設定内容より優先されます。

注意 ポートタイプが「トランク」の場合、ボイス VLAN はサポートされません。
ポートタイプの設定については、「[プロファイル - ポート - 編集](#)」を参照してください。

VOICE VLAN 設定

ボイスVLAN

☒有効 ☐無効

ボイスVLAN ID *

2-4094

レンジは2から4094までである必要があります。0メンバーポートは、現在このボイスVLANに属しています。

ボイスCoS

5

ボイスVLAN OUI

追加

削除

OUIアドレス	マスク	内容	アクション
00:01:E3:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	Siemens	
00:03:4B:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	Cisco	
00:09:6E:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	Avaya	
00:0F:E2:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	Huawei&3COM	
00:60:89:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	NEC&Philips	
00:D0:1E:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	Pingtel	
00:E0:75:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	Veritel	
00:E0:8B:00:00:00	FF:FF:FF:00:00:00	3COM	

図 8-19 プロファイル - 設定 - 基本 - VOICE VLAN 設定

項目	説明
ボイス VLAN	ボイス VLAN を有効または無効にします。
ボイス VLAN ID	ボイス VLAN ID を 2-4094 の範囲で入力します。
ボイス CoS	ボイス VLAN の CoS（Class of Service）レベルをドロップダウンリストで選択します。 CoS レベルは、ボイス VLAN トラフィックの優先度レベルです。高い値は高い優先度を意味し、低い値は低い優先度を意味します。
ボイス VLAN OUI	ボイス VLAN 機能で識別する音声デバイスの OUI 情報を追加します。「追加」をクリックすると設定画面が表示されます。 以下の項目を入力し、「追加」をクリックします。 「OUI アドレス」：OUI（Organizationally Unique Identifier/ 組織固有識別子）を含む MAC アドレスを入力します。 「マスク」：OUI マスクを入力します。 「内容」：OUI の説明を入力します。 「アクション」：設定を削除します。
アクション	「編集」：OUI を編集します。 「削除」 OUI を削除します。 注意 初期設定で登録されている OUI は削除できません。

■ ジャンボフレーム設定

一般的なイーサネットのフレームサイズは 1518 バイトですが、ジャンボフレームを有効にすると最大フレームサイズを 9000 バイトにできます。
一度に転送するデータサイズを大きくすることで転送回数が減少し、転送速度（スループット）の向上が見込めます。

ジャンボフレーム設定

ジャンボフレーム

☒有効 ☐無効

図 8-20 プロファイル - 設定 - 基本 - ジャンボフレーム設定

項目	説明
ジャンボフレーム	ジャンボフレームを有効または無効にします。

■ QUALITY OF SERVICE

QoS (Quality of Service) は、データを通す順番や量を調整し、優先度の高いネットワーク上のサービスを安定して使えるようにする機能です。

VoIP (Voice over Internet Protocol)、Web ブラウジングアプリケーション、ファイルサーバなどの優先度が高い重要な機能のために帯域幅を予約できます。重要なトラフィック用により多くの帯域幅を予約することにより、重要性の低いトラフィックの優先順位を下げ、重要なデータがスムーズに送信されるようにします。

QUALITY OF SERVICE セクションでは、優先度の設定を行います。

優先度が高いほど、このポートからのトラフィックは最初にスイッチによって処理されます。タグなしのパケットの場合、スイッチは構成に応じて優先順位を割り当てます。

QUALITY OF SERVICE

トラストステート ? DSCP

スケジュール方式 SP

CoS to キューマッピング

CoS	キューID
0	2
1	0
2	1
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7

DSCP to CoS マッピング

DSCP	Cost	名前
0	0	Default
1	0	Default
2	0	Default
3	0	Default
4	0	Default
5	0	Default
6	0	Default

図 8-21 プロファイル - 設定 - 基本 - QUALITY OF SERVICE

項目	説明
トラストステート	QoS 機能を使用する場合にどの優先度に基づいて送信キューを決定するかを選択します。 「DSCP」: 受信フレームの DSCP 値を使用して送信キューの決定を行います。 「CoS/802.1p」: 受信フレームの CoS 値を使用して送信キューの決定を行います。
スケジュール方式	送信キューに格納されたフレームをどのルールで送出するかを決定します。 「SP」: 絶対優先方式 (SP: Strict Priority) では、キューの優先度の高いものから優先的に送信します。 「WRR」: 重み付きラウンドロビン (WRR: Weighted Round Robin) では、各キューに重みを設定し、その比率によってフレームを送信します。
CoS to キューマッピング	
CoS	CoS 値を表示します。
キュー ID	キュー ID をクリックし、表示されるキュー ID リスト (0-7) から設定するキュー ID を選択します。 高い値ほど優先度が高くなり、低い値ほど優先度が低くなります。
DSCP to CoS マッピング	
DSCP	DSCP (Differentiated Services Code Point) 値を表示します。
CoS	CoS 値をクリックし、表示される CoS 値リスト (0-7) から設定する CoS 値を選択します。 高い値ほど優先度が高くなり、低い値ほど優先度が低くなります。 CoS 値が高いポートからのトラフィックが最初に処理されます。
名前	名前を入力します。

設定後、「保存」をクリックします。

■ SNMP

SNMP セクションでは、SNMP の設定を行います。
SNMP（Simple Network Management Protocol）は、OSI 参照モデルの第 7 層（アプリケーション層）のプロトコルです。
ネットワークに接続された通信機器の管理や監視を行います。

SNMP

SNMP アクセス

SNMP V1/V2c

SNMP UDPポート *

161

コミュニティ名 *

public

トラップ状態

有効

無効

トラップレシーバー *

e.g. 10.90.90.90, 10.1.1.1

サポート MIB

3 エントリまで

ダウンロード MIB

図 8-22 プロファイル - 設定 - 基本 - SNMP

項目	説明
SNMP アクセス	SNMP アクセスの設定を「無効」「SNMP V1/V2c」から選択します。 「無効」を選択した場合、以降の項目は入力できません。
SNMP UDP ポート	SNMP UDP ポート番号を入力します。
コミュニティ名	コミュニティ名を入力します。Read-only のコミュニティ文字列のみサポートしています。
トラップ状態	トラップの送信を有効または無効に設定します。 トラップは、スイッチ上で発生したイベントをネットワーク管理者に警告するためのメッセージです。
トラップレシーバー	「トラップ状態」を有効にした場合、トラップを受信する IP アドレスを入力します。 最大 3 つの IP アドレスを入力できます。複数の IP アドレスを入力する場合はカンマで区切ります。
サポート MIB	クリックすると、MIB ファイルをダウンロードできます。

設定後、「保存」をクリックします。

注意 ifCounters は不定期に初期化される為、監視目的に使用する事は出来ません。

プロファイル - 設定 - ACL タブ

ACL（Access Control List）は、リストに登録した IP アドレス / MAC アドレスとの通信を許可または拒否する機能です。

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「設定」をクリックします。

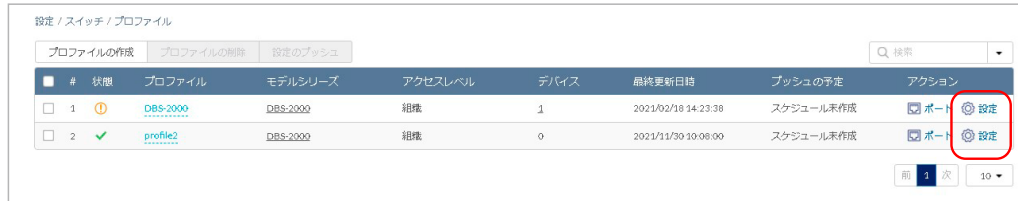


図 8-23 プロファイル一覧

2. 「ACL」タブを選択し、以下の画面で設定を行います。
設定項目については、「ユーザ定義の IPv4 ルール」「ユーザ定義の MAC アドレスルール」を参照してください。

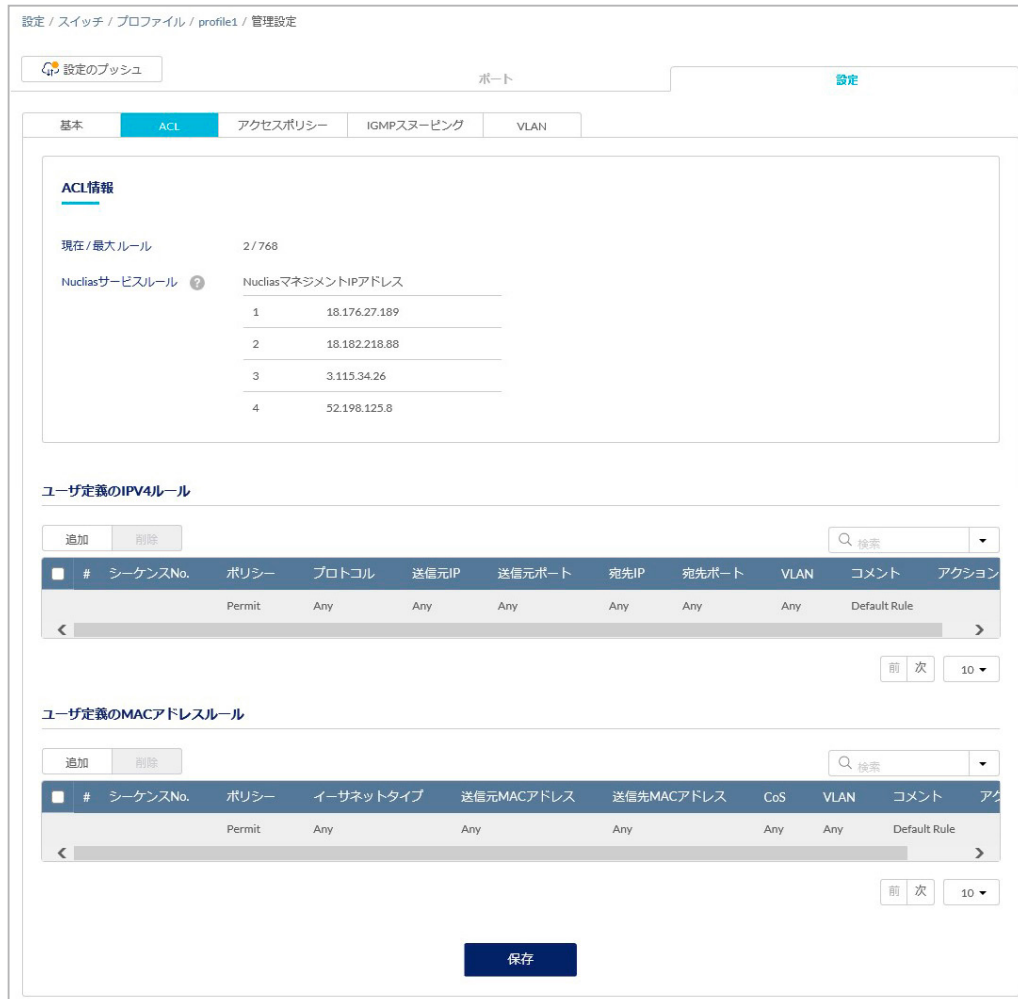


図 8-24 プロファイル - 設定 - ACL タブ

3. IPv4 ルールまたは MAC アドレスルールを設定後、「保存」をクリックします。

■ ユーザ定義の IPv4 ルール

1. ルールを追加する場合は「ユーザ定義の IPv4 ルール」の「追加」をクリックし、以下の画面で設定を行います。

IPv4のルールを追加

シーケンスNo. ^{*}

20

☒ 自動アサイン

ポリシー

許可

プロトコル

Any

送信元IP ^{*}

Any

宛先IP ^{*}

Any

ソースポート ^{*}

Any

ディスティネーションポート ^{*}

Any

VLAN ^{*}

Any

コメント

1-64文字

閉じる

追加

図 8-25 プロファイル - 設定 - ACL- IPv4 のルールを追加

項目	説明
シーケンス No.	シーケンスナンバーを 1-65535 の範囲で入力します。 「自動アサイン」をチェックすると自動でシーケンスナンバーを割り当てます。
ポリシー	ルールのポリシーを以下から選択します。 「許可」：設定した内容に一致するトラフィックの転送を許可します。 「拒否」：設定した内容に一致するトラフィックの転送を拒否します。
プロトコル	プロトコルを以下から選択します。 「Any」：このルールはすべてのプロトコルトラフィックに適用されます。 「UDP」：このルールは、UDP ヘッダを持つトラフィックにのみ適用されます。 「TCP」：このルールは、TCP ヘッダを持つトラフィックにのみ適用されます。
送信元 IP	送信元 IP アドレスを入力します。「Any」はすべての送信元 IP アドレスを意味します。
宛先 IP	宛先 IP アドレスを入力します。「Any」はすべての宛先 IP アドレスを意味します。
ソースポート	送信元ポート番号を 1-65535 の範囲で入力します。「Any」はすべての送信元ポート番号を意味します。
ディスティネーション ポート	宛先ポート番号を 1-65535 の範囲で入力します。「Any」はすべての宛先ポート番号を意味します。
VLAN	ルールを適用する VLAN を 1-4094 の範囲で入力します。「Any」はすべての VLAN を意味します。
コメント	ルールの説明を入力します。

2. 「追加」をクリックし、ルールを追加します。
3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。
4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

■ IPv4 ルールの編集

「アクション欄」の「編集」をクリックし、項目を編集できます。「編集」では、「シーケンス No」は変更できません。

注意 リストの順番はルールの優先度を表します。上にあるルールが下にあるルールよりも優先されます。

リストを削除する場合は、アクション欄の「削除」をクリックします。
複数のリストを同時に削除する場合は左端のチェックボックスにチェックをいれ、上部の「削除」をクリックします。

注意 変更を適用する場合は「保存」をクリック → 「設定のプッシュ」をクリックしてください。

■ ユーザ定義の MAC アドレスルール

1. ルールを追加する場合は「ユーザ定義の MAC アドレスルール」の「追加」をクリックし、以下の画面で設定を行います。

MAC ACLの追加

シーケンスNo. *

20

☒ 自動アサイン

ポリシー

許可

イーサネットタイプ *

例 0x0 - 0xffff or Any

送信元MACアドレス *

例 02:00:4C:11:22:33 or Any

送信先MACアドレス *

例 02:00:4C:11:22:33 or Any

CoS *

Any

VLAN *

e.g. 1-4094 or Any

コメント

1-64文字

閉じる

追加

図 8-26 プロファイル - 設定 - ACL - MAC ACL の追加

項目	説明
シーケンス No.	シーケンスナンバーを 1-65535 の範囲で入力します。 「自動アサイン」をチェックすると自動でシーケンスナンバーを割り当てます。
ポリシー	ルールのポリシーを以下から選択します。 「許可」：設定した内容に一致するトラフィックの転送を許可します。 「拒否」：設定した内容に一致するトラフィックの転送を拒否します。
イーサネットタイプ	イーサネットタイプを入力します。「Any」はすべてのイーサネットタイプを意味します。
送信元 MAC アドレス	送信元 MAC アドレスを入力します。「Any」はすべての MAC アドレスを意味します。
送信先 MAC アドレス	送信先 MAC アドレスを入力します。「Any」はすべての MAC アドレスを意味します。
CoS	CoS を 0-7 の範囲で入力、または「Any」を入力します。
VLAN	ルールを適用する VLAN を入力します。
コメント	ルールの説明を入力します。

2. 「追加」をクリックし、ルールを追加します。
3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。
4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

■ MAC アドレスルールの編集

「アクション欄」の「編集」をクリックし、項目を編集できます。「編集」では、「シーケンス No.」は変更できません。

注意 リストの順番はルールの優先度を表します。上にあるルールが下にあるルールよりも優先されます。

リストを削除する場合は、アクション欄の「削除」をクリックします。
複数のリストを同時に削除する場合は左端のチェックボックスにチェックをいれ、上部の「削除」をクリックします。

注意 変更を適用する場合は「保存」をクリック→「設定のプッシュ」をクリックしてください。

プロファイル - 設定 - アクセスポリシータブ

アクセスポリシーを設定し、認証に使用する RADIUS サーバの追加を行います。
アクセスポリシーを設定することにより、資格情報が一致するユーザのみがネットワークにアクセスできるようになります。
また、ゲスト VLAN を設定し、未認証のユーザがネットワークにアクセスできないようにしつつ、インターネットへのアクセスを許可することもできます。

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「設定」をクリックします。



図 8-27 プロファイル一覧

2. 「アクセスポリシー」タブを選択し、以下の画面で設定を行います。



図 8-28 プロファイル - 設定 - アクセスポリシータブ

項目	説明
ポリシー名	ポリシー名を入力します。
RADIUS サーバ 1/2/3	RADIUS サーバを選択します。最大 3 つまで選択可能です。 「RADIUS サーバの追加」をクリックし、RADIUS サーバを追加できます。設定項目については「RADIUS サーバの追加」を参照してください。 「RADIUS サーバ」のリンクをクリックすると、設定 > 認証 > 認証サーバの画面に移動します。アクション欄の「編集」から RADIUS サーバの編集が可能です。詳細は「認証 - 認証サーバ」を参照してください。
アクセスポリシータイプ	アクセスポリシータイプを表示します。 「802.1x ポートベース認証」：ポートごとに RADIUS サーバの認証を行います。 「802.1x MAC アドレスベース認証」：MAC アドレスごとに RADIUS サーバの認証を行います。 注意 802.1x MAC ベースポートは、FDB テーブル内の MAC アドレスにフィルターをかけることはできません。 注意 802.1x MAC ベース認証に成功した場合、クライアントは ping をローカルデバイスに送信できません。
ゲスト VLAN	ゲスト VLAN の VLAN ID を入力します。またはゲスト VLAN を「Disable」（無効）に設定します。 注意 802.1x MAC ベース認証が成功した場合でも、タグ付きパケットはゲスト VLAN で送信されます。 注意 プルダウンメニューから現在使用中の VLAN を確認することができます。ここに表示される VLAN は指定することができません。
スイッチポート	アクセスポリシーを適用しているポートを表示します。 ポート番号をクリックすると、設定 > スイッチ > スイッチポート画面に移動します。

- 3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。
- 4. 「設定のプッシュ」をクリックし設定を適用します。

■ RADIUS サーバの追加

認証に使用する RADIUS サーバを追加します。

- 1. 「アクセスポリシー」タブで「RADIUS サーバの追加」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。

RADIUSサーバの追加

サーバ名*

1-64文字

IPアドレス*

e.g. 10.90.90.90

ポート*

1812

シークレット*

2-32文字

認証方法 ?

CHAP

RADIUSアカウントिंग

☐ 有効 ☒ 無効

キャンセル保存

図 8-29 RADIUS サーバの追加

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サーバ名	RADIUS サーバの名前を入力します。
IP アドレス	RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。
ポート	RADIUS 認証に使用するポート番号を入力します。初期値は 1812 です。
シークレット	シークレットを 2-32 文字の範囲で入力します。
認証方法	認証方法を以下から選択します。 - 選択肢：「PAP」「CHAP」「MS-CHAP」「MS-CHAPv2」「EAP-MD5」 注意 「認証方法」の設定には以下の制限があります。 - DBG シリーズのキャプティブポータル、または MAC フィルタリングでのみ有効です。 - DBA シリーズ、DBS シリーズでは未サポートのため、設定しても反映されません。
RADIUS アカウンティング	
RADIUS アカウンティング	RADIUS アカウンティングは「無効」に設定されます。

注意 「RADIUS アカウンティング」は DBS-2000 シリーズではサポートされていません。

- 3. 「保存」をクリックし、RADIUS サーバを追加します。

プロファイル - 設定 - IGMP スヌーピングタブ

IGMP スヌーピングは、適切にマルチキャストパケットを転送するための機能です。
IGMP メッセージを監視 (Snooping) することで VLAN 環境において不要なマルチキャストトラフィックをフィルタリングし、ネットワークの帯域幅の消費を抑えることができます。
スイッチが IGMP リストに追加されていない場合、初期設定ではマルチキャストトラフィックを受信しません。

注意 IGMP スヌーピングの機能はプロファイルで設定します。
設定した内容は、「ユーザプロファイル設定」の設定が無効の場合にも適用されます。

注意 IGMP スヌーピングを有効にすると IPv6 マルチキャストはフィルタされます。

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「設定」をクリックします。



図 8-30 プロファイル一覧

2. 「IGMP スヌーピング」タブを選択し、以下の画面で設定を行います。



図 8-31 プロファイル - 設定 - IGMP スヌーピングタブ

■ IGMP スヌーピング

「追加」をクリックすると以下の設定画面が表示されます。



図 8-32 スイッチの IGMP スヌーピング設定の追加

- ・「スイッチ」：スイッチ名を入力またはスイッチ名を選択します。
- ・「IGMP スヌーピング」：IGMP スヌーピングを「有効」または「無効」にします。
- ・「アクション」：ごみ箱アイコンをクリックし、設定を削除します。

■ IGMP スヌーピング VLAN 設定

「追加」をクリックすると以下の設定画面が表示されます。

×

スイッチのIGMPスヌーピング設定の追加

VLAN ID *

1-4094

IGMPスヌーピング

無効

クエリア状態 *

無効

マルチキャストフィルタリングモード

Forward unregistered

静的マルチキャストルーターモード設定

10ポート

0 ポート選択済

28ポート

0 ポート選択済

52ポート

0 ポート選択済

Close

追加

図 8-33 追加 IGMP スヌーピング VLAN 設定

項目	説明
VLAN ID	VLAN ID（1-4094）を入力、またはドロップダウンリストで VLAN ID を選択します。
IGMP スヌーピング	IGMP スヌーピングを「有効」または「無効」にします。
クエリア状態	IGMP クエリアを「有効」または「無効」にします。 有効にした場合、IP マルチキャスト配信を行うスイッチ / ルータのかわりに、本製品が IGMP クエリメッセージを代理で受信ホストに対して送信します。
マルチキャストフィルタリングモード	マルチキャストフィルタリングのモードを以下から選択します。 「Forward unregistered」：未登録のマルチキャストフレームを転送します。 「Filter unregistered」：未登録のマルチキャストフレームをフィルタします。
静的マルチキャストルーターモード設定	静的マルチキャストルーターモードで使用するポートを選択します。

注意 IGMP スヌーピングが無効の場合でも「マルチキャストフィルタリングモード」の設定は独立して設定されます。

■ 動的マルチキャストルーターモード

「詳細情報の表示」をクリックすると**設定 > スイッチ > スイッチポート**画面が表示されます。

プロファイル - 設定 - VLAN タブ

VLAN の一覧が表示されます。

1. 設定 > スイッチ > プロファイル画面で「アクション」欄の「設定」をクリックします。



図 8-34 プロファイル一覧

2. 「VLAN」タブを選択し、以下の画面で VLAN の設定を確認します。
各項目のリンクをクリックすると、それぞれの機能の設定画面に移行します。



図 8-35 プロファイル - 設定 - VLAN タブ

項目	説明
VLAN ID	VLAN ID を表示します。
VLAN タイプ	VLAN のタイプを表示します。
Untagged メンバーポート	Untagged (タグ無し) メンバーポートを表示します。
Tagged メンバーポート	Tagged (タグ付き) メンバーポートを表示します。
IGMP スヌーピングステータス	IGMP スヌーピングの有効 / 無効を表示します。

■ VLAN の検索

検索ウィンドウから VLAN を検索できます。以下の項目を指定して検索することも可能です。

VLAN

1-4094

IGMPスヌーピング

全て

Untaggedメンバーポート#:

1-52

Taggedメンバーポート#:

1-52

図 8-36 VLAN の検索

スイッチ - デバイス

設定 > スイッチ > デバイス を選択し、デバイスに関する設定を実施します。

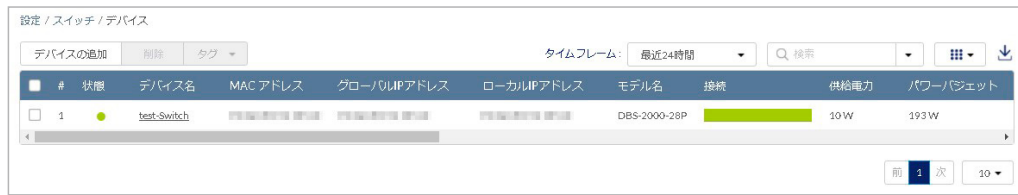


図 8-37 デバイス

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
チェックボックス	デバイスを選択し「削除」をクリックすると、Nuclias からそのデバイスが削除されます。 注意 デバイスを削除しても、そのデバイスに紐づけられているフリーライセンスは元の組織に残ります。そのため該当デバイスを別の組織に登録する場合、別途ライセンスを用意いただく必要があります。 注意 デバイスを Nuclias から削除すると、そのデバイスに関するイベントログは全て削除されます。そのためイベントログを残しておく必要がある場合は、事前にイベントログをダウンロードしてください。詳細は、第 7 章 モニタ「スイッチ-イベントログ」を確認してください。
状態	各機器のステータスを以下の色で表示します。 ・ 緑色：オンライン / 赤色：オフライン / 灰色：休止状態
デバイス名	Nuclias 上でのデバイス名を表示します。本項目をクリックすると、各デバイスの設定画面へ移行します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
グローバル IP アドレス	デバイスのグローバル IP アドレスを表示します。
ローカル IP アドレス	デバイス本体に割り振られているローカル IP アドレスを表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
接続	デバイスの直近のステータスをタイムバーで表示します。緑色がオンライン、赤色がオフラインを表します。タイムバーの期間は「タイムフレーム」で設定できます。ただし、設定したタイムフレームの期間より、該当デバイスのオンライン期間が短かった場合、タイムバーの左端はデバイスが最初にオンラインになったときに調整されます。 マウスカーソルをバーに合わせると、オンラインまたはオフラインとなっていた時間帯を確認できます。
供給電力	スイッチが PoE デバイスに供給している電力を表示します。
パワーバジェット	スイッチが供給可能な電力を表示します。
タグ	デバイスにつけられたタグを表示します。
同期ステータス	デバイスに Nuclias 上の最新の設定が同期されているかを表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
プロファイル	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
サイト	デバイスが紐づいているサイトを表示します。
サイトタグ	上記のサイトにサイトタグが紐づいている場合、サイトタグを表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
ファームウェアバージョン	デバイスのファームウェアバージョンを表示します。
ハードウェアバージョン	デバイスのハードウェアバージョンを表示します。
最終閲覧	最終接続日時を表示します。デバイスがオンライン状態の場合は「オンライン」と表示されます。
ライセンス状態	デバイスに紐づけられているライセンスのステータスを表示します。
登録日	デバイスを Nuclias に登録した日を表示します。
期限日	デバイスに紐づけられたライセンスの期限を表示します。
ポート	ポートの数を表示します。

■ デバイスの追加

「デバイスの追加」の詳細については「[デバイスの追加](#)」を参照してください。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表内の「接続」欄に表示する期間を設定します。

■ デバイス情報の検索

特定の文字列を含む情報を検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

■ 表示する項目の選択

 をクリックすると表示できる項目の一覧が表示されます。表示する項目にチェックをいれます。

■ デバイス情報のダウンロード

 をクリックし、デバイスの情報を CSV 形式でダウンロードします。

デバイス - 基本

設定 > スイッチ > デバイス 画面でデバイス名をクリックすると、デバイスごとの設定画面に移行します。
「基本」タブでは以下の画面が表示されます。

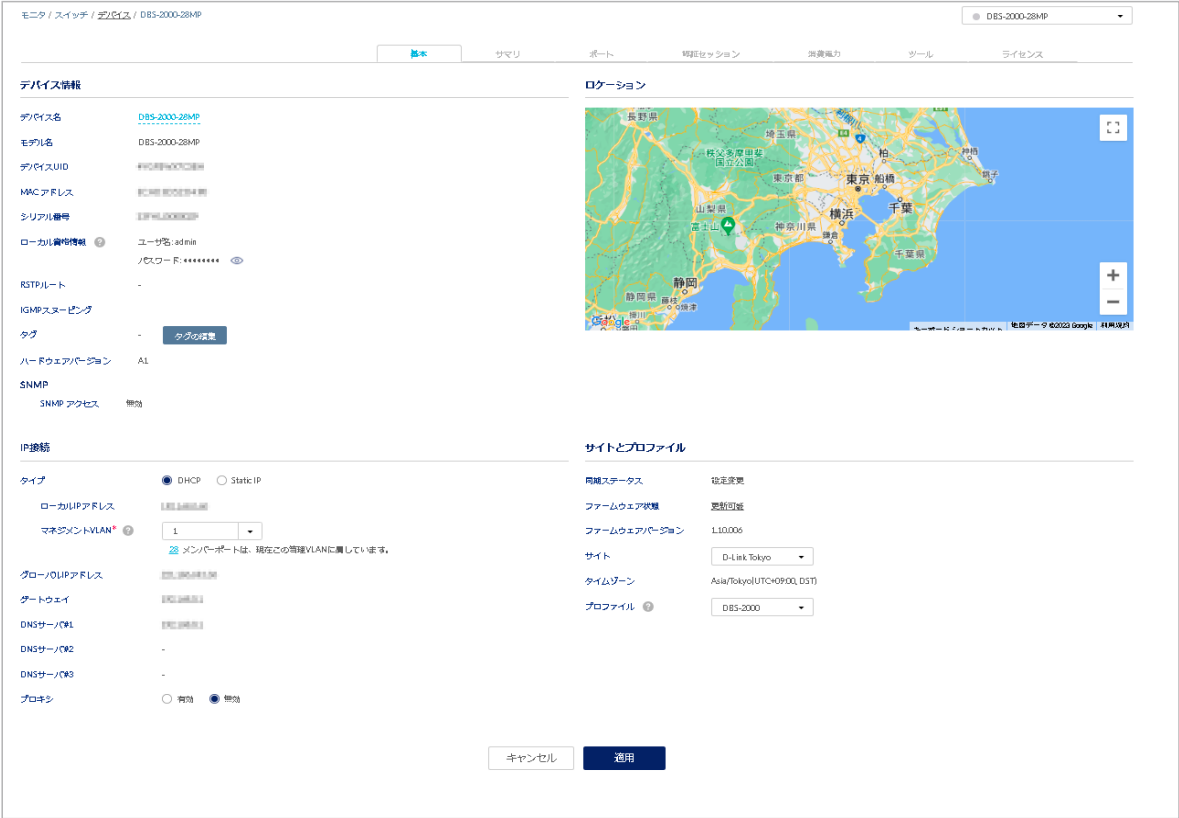


図 8-38 デバイス - 基本

■ デバイス情報

デバイス名、モデル名、デバイス UID、MAC アドレス、シリアル番号、ローカル資格情報、RSTP ルート、IGMP スヌーピング、タグ、ハードウェアバージョン、SNMP アクセスを表示します。デバイス名は変更可能です。

■ サイトとプロファイル

同期ステータス、ファームウェア状態、ファームウェアバージョン、サイト、タイムゾーン、プロファイルが表示されます。
サイトとプロファイルはドロップダウンリストから変更できます。

■ IP 接続

IP 接続には以下の項目があります。

項目	説明
タイプ	IP 設定を「DHCP」「Static IP」から選択します。 「DHCP」：デバイスは DHCP クライアントとなります。 「Static IP」：以下の項目が設定できるようになります。
ローカル IP アドレス	デバイスの IP アドレスを設定します。「DHCP」を選択した場合は設定できません。
Management VLAN	マネジメント VLAN を選択します。
サブネットマスク	デバイスのサブネットマスクを設定します。「Static IP」を選択した場合のみ表示されます。
グローバル IP アドレス	デバイスのグローバル IP を表示します。
ゲートウェイ	デバイスのゲートウェイを表示します。
DNS サーバ #1 ～ #3	デバイスの DNS サーバを表示します。 注意 スタティックで DNS を設定する場合、#1、#2、#3 に同じ IP アドレスを設定することはできません。
プロキシ	「DHCP」を選択した場合、プロキシを有効または無効に設定します。 有効にした場合は「プロキシホスト」と「プロキシポート」を設定します。 注意 DBS-2000 で使用するプロキシサーバは WebSocket をサポートしている必要があります。

設定後、「適用」をクリックします。
Nuclias 上に設定が保存され、当該デバイスにも即時に設定が反映されます。

注意 ユーザがコンソールポートからマネジメント VLAN ID を修正した場合、Nuclias 上の設定は新しいマネジメント VLAN ID に更新されません。

デバイス - サマリ

サマリ画面では、ポートの使用状況や CPU 使用率など、デバイスのパフォーマンスの状態を確認できます。

1. 設定 > スイッチ > デバイス画面でデバイス名のリンクをクリックします。
2. 「サマリ」タブを選択します。

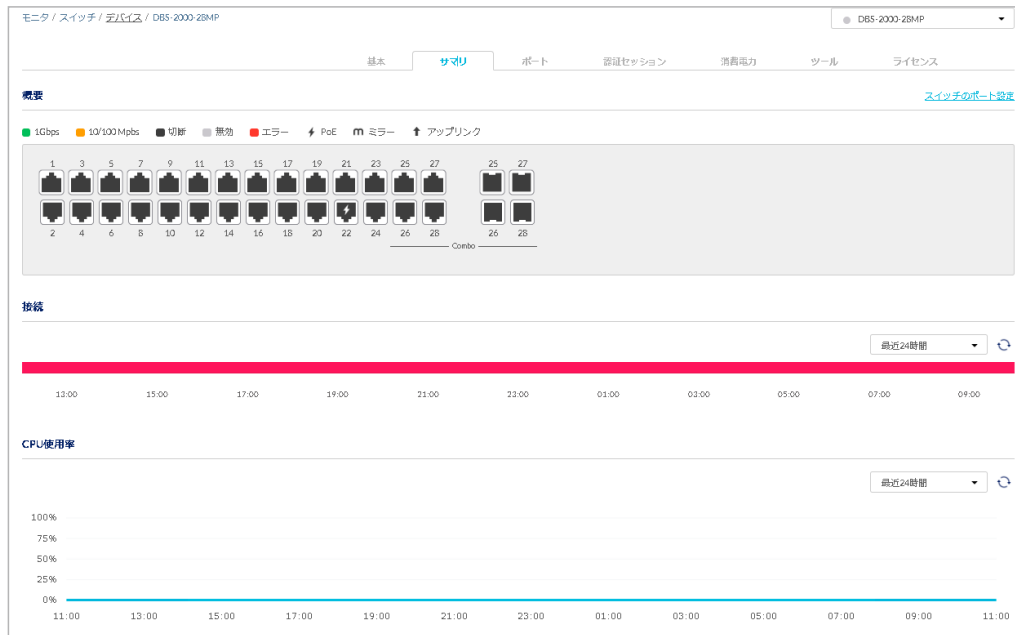


図 8-39 デバイス - サマリ

■ 概要

ポートの使用状況を表示します。

画像のポート部分をクリックすると「ポート」タブの画面に移動します。詳細は「[デバイス - ポート](#)」を参照してください。

「[スイッチのポートの設定](#)」をクリックすると、設定 > スイッチ > スイッチポート画面に移動します。

詳細は「[スイッチ - スイッチポート](#)」を参照してください。

■ 接続

デバイスの接続状況を表示します。ドロップダウンリストで表示する期間を変更します。

■ CPU 使用率

CPU 使用率を表示します。ドロップダウンリストで表示する期間を変更します。

■ MEMORY USAGE

メモリ使用率を表示します。ドロップダウンリストで表示する期間を変更します。

第8章 デバイス設定

デバイス - ポート

ポート画面では、各ポートの詳細情報を確認できます。
また、プロファイルの設定をデバイスに適用するかどうかを選択できます。

注意 PoE overload によるエラーステータスを復旧するには、ポートステータスの無効化 / 有効化を行う必要があります。

■「ユーザプロファイル設定」を「有効」にした場合：
設定 > スイッチ > プロファイル画面で設定したプロファイルをデバイスに適用します。

■「ユーザプロファイル設定」を「無効」にした場合：
設定 > スイッチ > プロファイル画面で設定したプロファイルをデバイスに適用しません。

- 1. 設定 > スイッチ > デバイス画面でデバイス名のリンクをクリックします。
- 2. 「ポート」タブをクリックします。

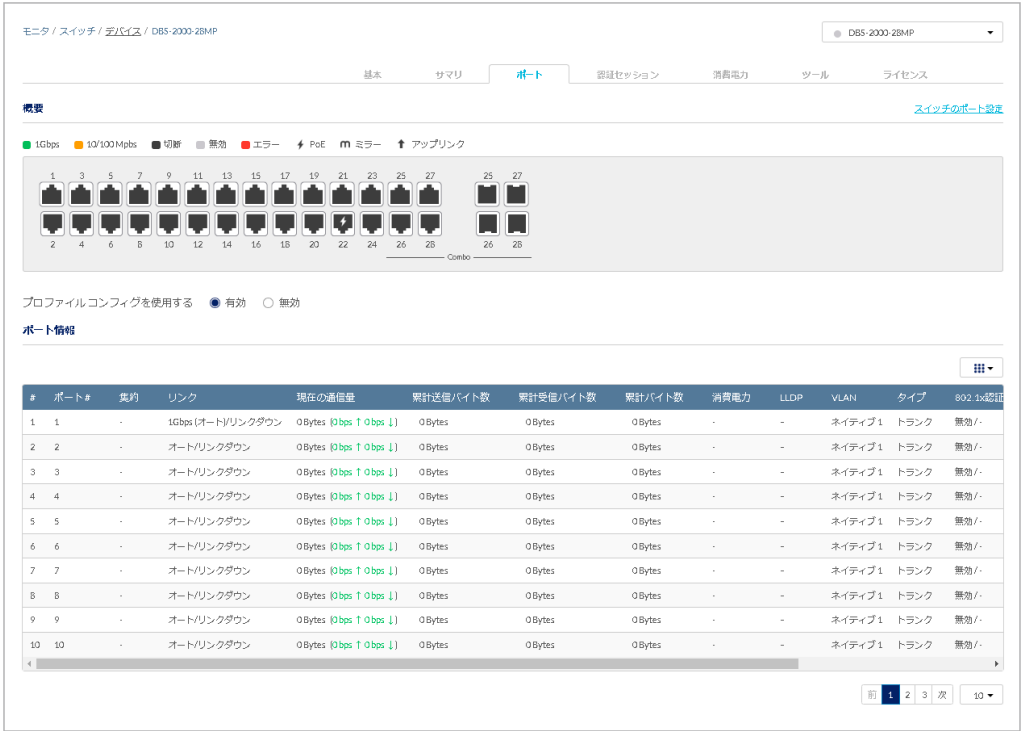


図 8-40 デバイス - ポート

「[スイッチのポート設定](#)」をクリックすると、設定 > スイッチ > スイッチポート画面に移動します。
詳細は「[スイッチ - スイッチポート](#)」を参照してください。

■ オーバービュー
上部のポートパネルでは、ポートの使用状況を表示します。
画像のポート部分をクリックすると画面下部の表示が切り替わり、選択したポートの詳細情報が表示されます。

■ ポート情報
各ポートの設定情報をリストで表示します。  アイコンで表示項目を変更できます。

■ 各ポートの詳細情報

上部のポートパネルでポート部分をクリックした場合、以下のような画面に切り替わります。

モニタ / スイッチ / デバイス / DBS-2000-28MP

DBS-2000-28MP

基本サマリポート設定セッション消費電力ツールライセンス

概要 - ポート 1スイッチのポート設定

1Gbps10/100Mbps切断無効エラーPoEミラーアップリンク

13579111315171921232527

246810121416182022242628

25272628

Combo

ポートトラフィック

最近24時間

4 Bytes

3 Bytes

2 Bytes

1 Bytes

0 Bytes

11:0013:0015:0017:0019:0021:0023:0001:0003:0005:0007:0009:0011:00

現在の設定

編集状態

プロファイル設定ステータス有効

ポート状態有効

RSTP無効

ルートガード無効

LBD無効

ポート CoS0

アクセスポリシー無効

ミラー-

トラフィックセグメンテーション無効

リンクアグリゲーショングループ-

タイプトランク

ネイティブVLAN1

許可VLAN1

リンクネゴシエーション1Gbps (ポート)

スピードのダウンシフト無効

ポートスケジュールAlways on

PoE有効

PDアライブ無効

PDIIP アドレス-

フローコントロール無効

使用量None

ポート状態有効

内容トランクネイティブVLANを使用するポート: 1, 許可VLAN: 1

RSTP-

LBD-

PoE-

リンクネゴシエーション切断

802.1x認証状態-

ケーブル試験

警告: このテストにより、デバイスへのトラフィックが中断されます。また、ケーブルテストは、ファイバーポートでは実行できません。

実行このポートのケーブルテストを実行

サイクルポート

警告: PoE給電を受けているデバイスは一時的に電源OFFになります。

実行ポートの再起動

オーバービュー/カット

ライブデータthis has been live for 154秒

	合計	送信	受信	レート (1000 未満: -)
トータルトラフィック	0	0	0	0 pkts/s (0pkts/s ↑ 0pkts/s ↓)
ブロードキャスト	0	0	0	0 pkts/s (0pkts/s ↑ 0pkts/s ↓)
マルチキャスト	0	0	0	0 pkts/s (0pkts/s ↑ 0pkts/s ↓)
CRCエラー	0	0	0	-
衝突	0	0	0	-
フラグメント	0	0	0	-
Collision	0	-	-	-
エラー	0	0	0	-

図 8-41 デバイス - ポート - ポート選択

■ ポートトラフィック

ポートのトラフィック量を表示します。ドロップダウンリストで表示する期間を変更します。

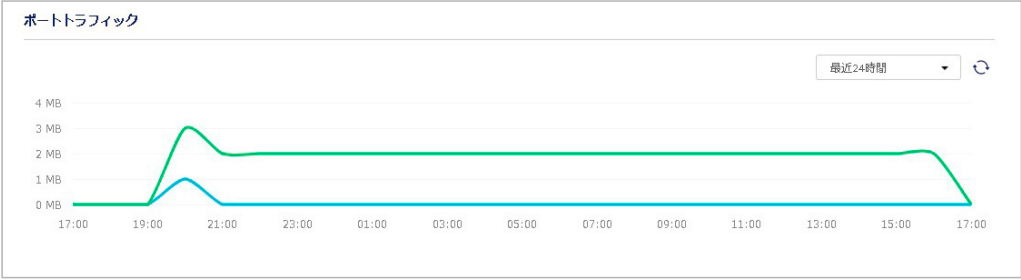


図 8-42 デバイス - ポート - ポートトラフィック

■ 現在の設定

ポートの現在の設定を表示します。「編集」をクリックすると、ポートの設定画面が表示されます。設定画面の項目については「[プロファイル - ポート - 編集](#)」を参照してください。

現在の設定				編集
プロファイル設定ステータス		有効		
ポート状態	有効	リンクネゴシエーション	1Gbps(自動)	
RSTP	無効	スピードのダウンシフト	無効	
ルートガード	無効	ポートスケジュール	Always on	
LBD	無効	PoE	有効	
ポート CoS	0	PDアライブ	無効	
アクセスポリシー	無効	PD IP アドレス		
ミラー	-	フローコントロール	無効	
トラフィックセグメンテーション	無効			
リンクアグリゲーショングループ	-			
タイプ	トランク			
ネイティブVLAN	1			
許可VLAN	1			

図 8-43 デバイス - ポート - 現在の設定

■ 状態

ポートの現在の状態を表示します。

状態	
使用量	None
ポート状態	有効
内容	トランクネイティブVLANを使用するポート: 1; 許可VLAN: 1
RSTP	無効
LBD	-
PoE	0W
リンクネゴシエーション	切断
802.1x認証状態	-

図 8-44 デバイス - ポート - 状態

■ トラブルシューティング

ポートに不具合が起こった場合に、ケーブルとポートのテストを行います。



図 8-45 デバイス - ポート - トラブルシューティング

項目	説明
ケーブル試験	「実行」をクリックし、ケーブルが問題なく接続されているかのテストを実行します。 本テストはデバイスの通信に影響が発生する可能性があります。 注意 ケーブル試験機能の制限 - ケーブル長の誤差 ± 10 メートル - 最小対応ケーブル長 10 メートル - 最大対応ケーブル長 100 メートル 10/100 Mbps でリンクアップ時、「Pair 1/4」には “-” (NotAvailable) が表示されます。 - Crosstalk には対応していません。
サイクルポート	「実行」をクリックし、ポートをいったん無効にし、再度有効にします。

注意 「ケーブル試験」「サイクルポート」の実行はファイバーポートではサポートされません。

■ オーバービューパケット

ポートが送受信したパケットの概要を表示します。

ドロップダウンリストで表示する期間を変更します。「ライブデータ」を選択した場合は現在のパケットの送受信状況を表示します。

オーバービューパケット				
最近24時間				
	合計	送信	受信	レート(送信 , 受信)
トータルトラフィック	31,038,750	18,050,915	12,987,835	2 pkts/s (2 pkts/s ↑ 0 pkts/s ↓)
ブロードキャスト	1,968,652	1,951,366	17,286	0 pkts/s (0 pkts/s ↑ 0 pkts/s ↓)
マルチキャスト	2,091,180	1,886,167	205,013	1 pkts/s (1 pkts/s ↑ 0 pkts/s ↓)
CRCエラー	0	0	0	-
廃棄	0	0	0	-
フラグメント	0	0	0	-
Collision	0	0	0	-
エラー	0	0	0	-

図 8-46 デバイス - ポート - オーバービューパケット

デバイス - 認証セッション

「認証セッション」タブでは、認証の方法や認証状況など、認証に関する詳細を確認することができます。

以下の手順で、「認証セッション」タブを表示します。

- 1. 設定 > スイッチ > デバイス画面でデバイス名のリンクをクリックします。
- 2. 「認証セッション」タブをクリックします。



図 8-47 デバイス - 認証セッション - 認証テーブル

■ 認証テーブル

認証に使用されるポート、MAC アドレスなど、認証を実行する際に使用される条件を表示します。

認証テーブルには、以下の項目が表示されます。

項目	説明
ポート #	認証に使用する、スイッチのポートの番号を表示します。
MAC	認証の対象とするホストの、MAC アドレスを表示します。
認証 VLAN	認証の対象とするホストで、認証を開始する際に使用する VLAN を表示します。
802.1x 認証ステータス	IEEE 802.1x 認証を実行する際に使用するアクセスコントロールの方式（認証方式）、および認証状態について表示します。 表示される情報は、以下の通りです。 802.1x 認証の方式 「802.1x ポートベース」 「802.1x MAC ベース」 802.1x 認証の状態 「認証済み」：既に認証に成功しており、認証済みの場合に表示されます。 「未認証」：まだ認証に成功しておらず、認証されていない場合に表示されます。
アサイン VID	ホストが認証に成功した後に承認され、付与された VLAN ID を表示します。

デバイス - 消費電力

「消費電力」タブでは、PoE 機能のあるデバイスの消費電力と、PoE ポートの状態を表示します。

- 1. 設定 > スイッチ > デバイス画面でデバイス名のリンクをクリックします。
- 2. 「消費電力」タブを選択します。

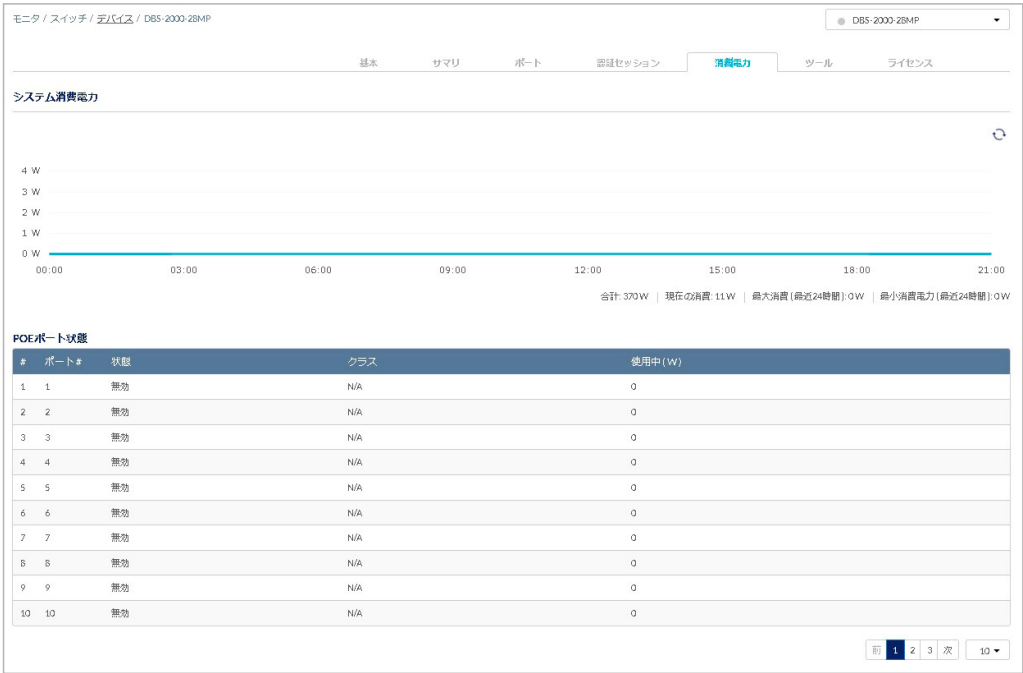


図 8-48 デバイス - 消費電力

項目	説明
システム消費電力	PoE の消費電力を表示します。
POE ポート状態	各ポートの PoE の使用状況を表示します。 注意 PoE 給電超過時は、大きい番号のポートへの給電が拒否されます。

デバイス - ツール

「ツール」タブでは、デバイスと Nuclias の接続の確認と、デバイスの再起動などを行います。

デバイスに対し Ping などの診断ツールを使用して接続性を確認することができます。
また、LED の点灯により、デバイスが Nuclias からの操作に対応しているか確認できます。

- 1. 設定 > スイッチ > デバイス画面でデバイス名のリンクをクリックします。
- 2. 「ツール」タブを選択します。

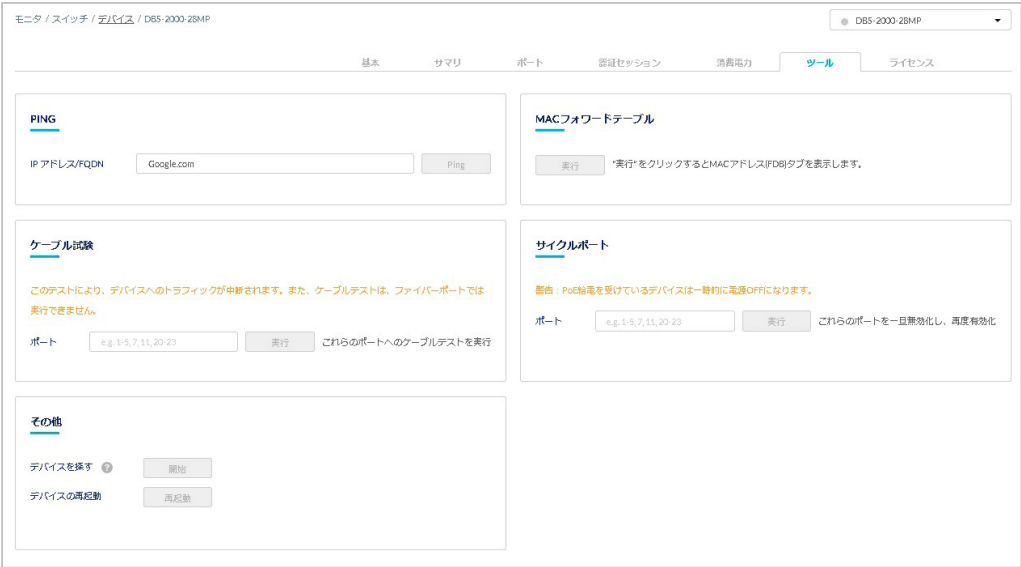


図 8-49 デバイス - ツール

項目	説明
PING	「IPv4 アドレス /FQDN」に、接続性を確認する宛先デバイスの IP アドレスかドメイン名を入力します。 「Ping」をクリックし、Ping を実行します。Ping により、指定のデバイスに対する接続性を確認できます。 注意 本機能の使用にはデバイスと接続するルータや Firewall で「ICMP プロトコル」が許可されている必要があります。
MAC フォワードテーブル	「実行」をクリックし、MAC アドレステーブルを表示します。エイジングタイムは 5 分です。
ケーブル試験	ポート番号を入力し、「実行」をクリックします。ケーブルが問題なく接続されているかのテストを実行します。 本テストはデバイスの通信に影響が発生する可能性があります。
サイクルポート	ポート番号を入力し、「実行」をクリックします。ポートをいったん無効にし、再度有効にします。
その他	● デバイスを探す 「開始」をクリックするとデバイスのポート LED が点灯します。 「停止」をクリックするとデバイスのポート LED の点灯が停止します。 ● デバイスの再起動 「再起動」をクリックし、確認画面で「はい」をクリックするとデバイスが再起動します。

注意 本機能の使用にはデバイスと接続するルータや Firewall で「ICMP プロトコル」が許可されている必要があります。

デバイス - ライセンス

「ライセンス」タブでは、デバイスに紐づけられているライセンスの情報を表示します。
ライセンスを追加し、使用期間を延長することもできます。

1. 設定 > スイッチ > デバイス画面でデバイス名のリンクをクリックします。
2. 「ライセンス」タブを選択します。



図 8-50 デバイス - ライセンス

項目	説明
ライセンス状態	ライセンスが有効状態かを表示します。
ライセンス開始日	ライセンスが有効になった日付を表示します。
ライセンス期限日	ライセンスの有効期限と、残り何日間あるかを表示します。
ライセンス表	紐づけられているライセンスの状態とライセンスキーを表示します。 「ライセンスの追加」をクリックし、表示されるウィンドウからライセンスの追加ができます。

■ ライセンスの追加

デバイスにライセンスを追加します。

1. 「ライセンスの追加」をクリックします。



図 8-51 ライセンスの追加

2. ライセンスキーを入力し、「保存」をクリックします。

■ ライセンスの削除

デバイスのライセンスを削除します。

ライセンスの削除は、1 台のスイッチに 2 つ以上のライセンスが紐づけられている場合に実行できます。

1 台のスイッチに 2 つ以上のライセンスが紐づけられている場合、1 つのライセンスが使用中となり、それ以外のライセンスは未使用の状態となります。未使用のライセンスをスイッチから除外し、別のスイッチに紐づけたい場合などに使用します。

1. 「アクション」欄で「削除」アイコンをクリックします。
2. 確認画面で「はい」をクリックします。

スイッチ-スイッチポート

スイッチポート画面では、個々のデバイスのポート設定を行います。
本画面で設定した内容は直接デバイスに対して適用され、プロファイルの設定内容よりも優先されます。

複数のスイッチのうち1つのみに対して、特定のアプリケーションに対応するために個別の設定を行いたい場合などに、本画面で設定を行います。

1. 設定 > スイッチ > スイッチポート画面を表示し、ポートの設定を行います。



図 8-52 ポート一覧

- ① 選択したポートの「編集」「集約」「分割」「ミラー」「ミラー解除」「タグ」の設定を行います。
- ② 「ポートグループ」で設定を行う製品のポート数を選択し、右のドロップダウンリストで製品名を選択します。
- ③ キーワードを入力し、ポートを検索します。
ドロップダウンリストから「プロファイル名」「ポート #」「VLAN」「タイプ」「タグ」「ポートスケジュール」ごとに検索することもできます。
- ④ ポートの一覧に表示する項目を選択します。

**参照**

①の設定項目の詳細については以下を参照してください。
[「プロファイル - ポート - 編集」](#)
[「プロファイル - ポート - 集約」](#)
[「プロファイル - ポート - 分割」](#)
[「プロファイル - ポート - ミラー」](#)
[「プロファイル - ポート - ミラー解除」](#)
[「プロファイル - ポート - タグ」](#)

認証 - 認証サーバ

認証サーバの追加と設定を行います。

認証サーバは「RADIUS」「LDAP」「POP3」「アクティブディレクトリ」「NT ドメイン」から選択できます。

設定 > 認証サーバを選択します。

#	サーバ名	タイプ	アクセスレベル	IP アドレス	ポート	暗号化	関連デバイス	関連プロファイル	アクション
1	RADIUS TEST	RADIUS	組織	192.168.100.200	8000	-	0	0	編集 削除
2	RADIUS TEST2	RADIUS	組織	192.168.100.200	7000	-	0	0	編集 削除

図 8-53 認証 - 認証サーバ

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
認証サーバ	追加する認証サーバをドロップダウンリストで選択します。 「RADIUS」「LDAP」「POP3」「アクティブディレクトリ」「NT ドメイン」から選択できます。
サーバ名	認証サーバの名前を表示します。
タイプ	認証サーバのタイプを表示します。
アクセスレベル	アクセスレベルを表示します。
IP アドレス	認証サーバの IP アドレスを表示します。
ポート	RADIUS サーバ、LDAP サーバ、POP3 サーバ、アクティブディレクトリのポート番号を表示します。
暗号化	LDAP サーバ、POP3 サーバの暗号化の設定を表示します。
関連デバイス	認証サーバを使用しているデバイスの数を表示します。 リンクをクリックするとデバイスのリストが表示されます。
関連プロファイル	認証サーバを使用しているプロファイルの数を表示します。 リンクをクリックするとプロファイルのリストが表示されます。
アクション	認証サーバの編集、削除を行います。 プロファイルやデバイスが関連付けられている認証サーバは削除できません。

■ 認証サーバの追加

- 「認証サーバ」のドロップダウンリストで認証サーバを選択し、「追加」をクリックします。
- 表示される画面で認証サーバの設定を行います。
画面は選択したサーバのタイプによって異なります。詳細は以下の項目を参照してください。
[「認証 - 認証サーバ - RADIUS サーバの追加」](#)
[「認証 - 認証サーバ - LDAP サーバの追加」](#)
[「認証 - 認証サーバ - POP3 サーバの追加」](#)
[「認証 - 認証サーバ - アクティブディレクトリの追加」](#)
[「認証 - 認証サーバ - NT ドメインサーバの追加」](#)

- 「保存」をクリックし、サーバを追加します。

■ 認証サーバの検索

画面右端の「検索」で、表示する認証サーバを検索できます。

以下の画面で「タイプ」「サーバ名」「IP アドレス」を指定します。

図 8-54 認証サーバの検索

■ 認証サーバの編集

アクション欄の「編集」をクリックし、登録した認証サーバを編集できます。

認証 - 認証サーバ - RADIUS サーバの追加

認証に使用する RADIUS サーバを追加します。

- 1. 設定 > 認証 > 認証サーバ画面の「認証サーバ」ドロップダウンリストで「RADIUS サーバ」を選択し、「追加」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。

RADIUSサーバの追加

サーバ名 *

1-64文字

IP アドレス *

例 10.90.90.90

ポート *

1812

シークレット *

2-32 文字

認証方法 ?

CHAP

RADIUS アカウンティング *

Enable

Disable

IP アドレス *

例 10.90.90.90

ポート *

1813

シークレット *

2-32 文字

Accounting interim interval *

300 秒

アクセス権限

アクセスレベル

組織

キャンセル

保存

図 8-55 RADIUS サーバの追加

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サーバ名	RADIUS サーバの名前を入力します。
IP アドレス	RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。
ポート	RADIUS 認証に使用するポート番号を入力します。初期値は 1812 です。
シークレット	シークレットを 2-32 文字の範囲で入力します。
認証方法	認証方法を以下から選択します。 - 選択肢：「PAP」「CHAP」「MS-CHAP」「MS-CHAPv2」「EAP-MD5」 注意 「認証方法」の設定には以下の制限があります。 - DBG シリーズのキャプティブポータル、または MAC フィルタリングでのみ有効です。 - DBA シリーズ、DBS シリーズでは未サポートのため、設定しても反映されません。
RADIUS アカウンティング	
RADIUS アカウンティング	RADIUS アカウンティングを有効 / 無効に設定します。 RADIUS アカウンティングを有効にすると、接続時間や送受信したパケットの量などをユーザごとに記録できます。
IP アドレス	RADIUS アカウンティングに使用する IP アドレスを入力します。
ポート	RADIUS アカウンティングに使用するポート番号を入力します。初期値は 1813 です。
シークレット	シークレットを 2-32 文字の範囲で入力します。
Accounting interim interval	RADIUS アカウンティングサーバへ Interim パケットを送信する間隔を、300-3600（秒）の範囲で指定します。 Interim パケットの送信により、AP は RADIUS サーバに対しアカウンティング情報をアップデートします。
アクセス権限	
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

3. 「保存」をクリックし、サーバを追加します。

注意 「RADIUS アカウンティング」は DBS-2000 シリーズではサポートされていません。

認証 - 認証サーバ - LDAP サーバの追加

認証に使用する LDAP サーバを追加します。

- 1. 設定 > 認証 > 認証サーバ画面の「認証サーバ」ドロップダウンリストで「LDAP サーバ」を選択し、「追加」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。

LDAPサーバの追加

サーバ名*

1-64文字

IP アドレス*

例 10.90.90.90

ポート* ?

389

Base DN*

例 ou=dlink, dc=nuclias, dc=com

暗号化

無効

アクセス権限

アクセスレベル

組織

キャンセル

保存

図 8-56 LDAP サーバの追加

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サーバ名	LDAP サーバの名前を入力します。
IP アドレス	LDAP サーバの IP アドレスを入力します。
ポート	LDAP 認証に使用するポート番号を入力します。 LDAP リスニングポートは通常 389、SSL 経由の場合は 636 です。
Base DN	Base DN を入力します。
暗号化	暗号化の設定を「無効」「SSL」「TLS」から選択します。
アクセス権限	
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

3. 「保存」をクリックし、LDAP サーバを追加します。

認証 - 認証サーバ - POP3 サーバの追加

認証に使用する POP3 サーバを追加します。

注意 本機能は未サポートです。

- 1. 設定 > 認証 > 認証サーバ画面の「認証サーバ」ドロップダウンリストで「POP3 サーバ」を選択し、「追加」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。

POP3サーバの追加

サーバ名*

1-64文字

IPアドレス*

例 10.90.90.90

ポート*

110

暗号化

無効

アクセス権限

アクセスレベル

組織

キャンセル

保存

図 8-57 POP3 サーバの追加

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サーバ名	POP3 サーバの名前を入力します。
IP アドレス	POP3 サーバの IP アドレスを入力します。
ポート	POP3 サーバ認証に使用するポート番号を入力します。初期値は 110 です。
暗号化	暗号化の設定を「無効」「SSL」から選択します。
証明書	「SSL」を選択した場合は、証明書を選択します。
アクセス権限	
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

- 3. 「保存」をクリックし、POP3 サーバを追加します。

認証 - 認証サーバ - アクティブディレクトリの追加

認証に使用するアクティブディレクトリサーバを追加します。

注意 本機能は未サポートです。

- 1. 設定 > 認証 > 認証サーバ画面の「認証サーバ」ドロップダウンリストで「アクティブディレクトリ」を選択し、「追加」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。

×

アクティブディレクトリの追加

サーバ名*

1-64 文字

IP アドレス*

例 10.90.90.90

ポート*

1-65535

AD ドメイン*

例 Dlink.com

ホスト名*

1-128 文字

アクセス権限

アクセスレベル

組織

キャンセル

保存

図 8-58 アクティブディレクトリの追加

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サーバ名	アクティブディレクトリサーバの名前を入力します。
IP アドレス	アクティブディレクトリサーバの IP アドレスを入力します。
ポート	アクティブディレクトリサーバ認証に使用するポート番号を 1-65535 の範囲で入力します。
AD ドメイン	アクティブディレクトリのドメインを入力します。
ホスト名	ホスト名を 1-128 文字で入力します。
アクセス権限	
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

- 3. 「保存」をクリックし、アクティブディレクトリサーバを追加します。

認証 - 認証サーバ - NT ドメインサーバの追加

認証に使用する NT ドメインサーバを追加します。

注意 本機能は未サポートです。

- 1. 設定 > 認証 > 認証サーバ画面の「認証サーバ」ドロップダウンリストで「NT ドメインサーバ」を選択し、「追加」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。

NTドメインサーバの追加

サーバ名*

1-64 文字

IP アドレス*

例 10.90.90.90

ワークグループ*

例 DlinkGroup

アクセス権限

アクセスレベル

組織

キャンセル

保存

図 8-59 NT ドメインサーバの追加

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サーバ名	NT ドメインサーバの名前を入力します。
IP アドレス	NT ドメインサーバの IP アドレスを入力します。
ワークグループ	NT ドメインサーバ認証に使用するワークグループを入力します。
アクセス権限	
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

- 3. 「保存」をクリックし、NT ドメインサーバを追加します。

スケジュールポリシー

本画面では、プロファイルおよびデバイスに適用するスケジュールポリシーを作成できます。

設定 > スケジュールポリシーを選択します。

設定 / スケジュールポリシー

⊕ スケジュールポリシーの追加

#	スケジュール名	アクセスレベル	タイプ	スケジュール	関連デバイス	関連プロファイル	アクション
1	8 to 5 daily	デフォルト	スケジュール	View	0	0	編集 削除
2	8 to 5 on weekdays only	デフォルト	スケジュール	View	0	0	編集 削除
3	Always on	デフォルト	スケジュール	View	1	26	編集 削除
4	Saturday	デフォルト	再起動	View	0	0	編集 削除
5	schedule1	組織	スケジュール	View	1	1	編集 削除
6	Weekdays only	デフォルト	スケジュール	View	0	0	編集 削除
7	テスト	組織	スケジュール	View	1	2	編集 削除

前 1 次 10 ▾

図 8-60 設定 - スケジュールポリシー

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
スケジュール名	スケジュールポリシーの名前を表示します。
アクセスレベル	スケジュールポリシーのアクセスレベルを表示します。
タイプ	スケジュールの種類を表示します。
スケジュール	「 View 」のリンクをクリックすると、各スケジュールの詳細が表示されます。
関連デバイス	スケジュールを使用しているデバイスの数を表示します。 リンクをクリックするとデバイスのリストが表示されます。
関連プロファイル	スケジュールを使用しているプロファイルの数を表示します。 リンクをクリックするとプロファイルのリストが表示されます。
アクション	スケジュールポリシーの編集と削除を行います。 プロファイルやデバイスが関連付けられているスケジュールは削除できません。 デフォルトのスケジュールの編集と削除はできません。

■ スケジュールポリシーの追加

1. 設定 > スケジュールポリシー画面で「スケジュールポリシーの追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

スケジュールポリシーの追加

名前

1-64文字

アクセス権限

アクセスレベル

組織

スケジュール

タイプ

☒ スケジュール ☐ 再起動

テンプレート

常にオン

24時間

AM/PM

曜日	利用可能状態	から	まで	時刻表示
日曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00
月曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00
火曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00
水曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00
木曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00
金曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00
土曜日	☒ オン ☐ オフ	00:00	- 24:00	00:00 24:00

キャンセル

保存

図 8-61 スケジュールポリシーの追加

2. 「名前」「アクセス権限」を設定し、各曜日のスケジュールを設定します。

「アクセスレベル」は「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。「サイト」「サイトタグ」を選択した場合は、「管理サイト」と「管理サイトタグ」を選択します。
「テンプレート」のドロップダウンリストでスケジュールテンプレートを選択することもできます。

注意 「再起動」項目は未サポートです。

3. 「保存」をクリックし、スケジュールポリシーを保存します。

■ スケジュールポリシーの削除

- 1. 設定 > スケジュールポリシー画面で「アクション」欄の「削除」をクリックします。
- 2. 確認画面で「はい」をクリックします。

注意 プロファイルやデバイスが関連付けられているスケジュールポリシーは削除できません。

■ スケジュールポリシーの編集

- 1. 設定 > スケジュールポリシー画面で「アクション」欄の「編集」をクリックします。
- 2. スケジュールを編集し、「保存」をクリックします。

注意 デフォルトのスケジュールポリシーは編集できません。

第9章 レポート

- 「変更ログ」
- 「サマリレポート」
- 「アラート」
- 「ライセンス (レポート)」

変更ログ

設定変更のログを表示します。

レポート> 変更ログを選択してください。

レポート / 変更ログ

タイムフレーム: 最近24時間

検索

#	時間	アカウント	サイト	プロフィール	SSID	ページ	デバイス名	ラベル	古い値	新しい値
1	01/20/2020 13:46:20	shinjuku@link.com						Login successful		["city":"Shinjuku","country":"Japan","p
2	01/20/2020 12:10:51	shinjuku@link.com						User api key created		["name":"123456","scopes":["all"],"stat
3	01/20/2020 12:10:45	shinjuku@link.com						User api key deleted	[{"name":"0123456","scopes":["all"],"status":"NORMAL"}, {"name":"1111111","scopes":["all"],"status":"INVALID"}]	
4	01/20/2020 12:10:16	shinjuku@link.com						User api key revoked	[{"name":"1111111","scopes":["all"],"status":"NORMAL"}]	[{"name":"1111111","scopes":["all"],"sta
5	01/20/2020 12:09:52	shinjuku@link.com						User api key created		["name":"1111111","scopes":["all"],"sta
6	01/20/2020 12:05:57	shinjuku@link.com						User api key created		["name":"0123456","scopes":["all"],"sta
7	01/20/2020 09:07:22	shinjuku@link.com						Login successful		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu
8	01/20/2020 09:07:12	shinjuku@link.com						Login Failed		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu
9	01/20/2020 09:05:49	shinjuku@link.com						Login successful		["city":"Shinjuku","country":"Japan","pu

9にさかのぼるエントリ 01/19/2020

前

1

次

10

図 9-1 変更ログ

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表示する期間を設定します。

■ ログのダウンロード



をクリックし、ログを CSV 形式でダウンロードします。

■ ログの検索

特定の文字列を含むログを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

検索ウィンドウ右側の をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、より精度の高い検索を行うこともできます。

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
時間	設定変更を実施した時間を表示します。
アカウント	使用されたアカウント（メールアドレス表示）を表示します。
サイト	サイトに関係する設定変更の場合、そのサイトを表示します。
プロファイル	プロファイルに関係する設定変更の場合、そのプロファイルを表示します。
SSID	SSID に関係する設定変更の場合、その SSID を表示します。
ページ	設定項目を表示します。
デバイス名	デバイスに関係する設定変更の場合、そのデバイスを表示します。
ラベル	変更内容を表示します。
古い値	更新箇所における、更新前の設定値を表示します。
新しい値	更新箇所における、更新後の設定値を表示します。

サマリレポート

サイトごと、デバイスごとなどにレポートを表示できます。
レポート>サマリレポートを選択してください。

レポート / サマリレポート

サイト:

製品カテゴリ:

カスタマイズ:

上位結果の表示:

タイムフレーム:

全てのサイト

全て

全て

5

最近24時間

プレビュー

メール

ダウンロード

図 9-2 サマリレポート

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
サイト	表示するサイトを「全てのサイト」「単独のサイト」「サイトタグ付きのサイト」から検索します。
製品カテゴリ	レポートを表示する製品のカテゴリを「アクセスポイント」「スイッチ」「ゲートウェイ」から選択します。
カスタマイズ	サマリレポートに表示する項目を選択します。
上位結果の表示	上位何番目までをサマリレポートに表示するかを指定します。
タイムフレーム	直近のどのくらいの期間の情報を表示、閲覧するかを指定します。
プレビュー	設定した対象のレポートを表示します。
Eメール	メールアドレスを入力し、レポートをメール送信します。HTML形式で送信されます。
ダウンロード	レポートをエクセル (xlsx) ファイルでダウンロードします。

「プレビュー」をクリックすると、以下のようにサマリレポートが表示されます。

上位CPU使用率 (50%以上のもの)

#	Name	Model	Usage
データがありません			

上位ポート使用率 (50%以上)

#	Name	Model	Port	Usage
データがありません				

上位電力消費

#	Name	Model	Power Usage
1	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	9.13 Wh

トップアップリンクポート使用量 (送信/パケット数)

#	Name	Model	Port	Usage
データがありません				

トップアップリンクポート使用量 (受信/パケット数)

#	Name	Model	Port	Usage
データがありません				

受信/パケット数のトップデバイス

#	Name	Model	Usage
1	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	780586 pkt

トップポート 使用率 (送信/パケット数)

#	Name	Model	Port	Usage
1	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	27	324117 pkt
2	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	10	180532 pkt
3	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	25	151498 pkt
4	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	5	104332 pkt
5	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	22	19870 pkt

トップポート 使用率 (受信/パケット数)

#	Name	Model	Port	Usage
1	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	10	320143 pkt
2	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	27	204050 pkt
3	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	5	152908 pkt
4	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	25	111104 pkt
5	EC:AD:E0:52:D4:90	DBS-2000-28MP	22	41591 pkt

トップポート マルチキャスト使用量 (受信/バイト数)

#	Name	Model	Port	Usage
---	------	-------	------	-------

トップポートブロードキャスト利用率 (受信/パケット)

#	Name	Model	Port	Usage
---	------	-------	------	-------

図 9-3 サマリレポート (プレビュー) - スイッチ

アラート

検知したアラートを表示します。

レポート>アラートを選択、または画面右上の  「アラート」を選択してください。

注意 本ページでアラートとして表示されるイベントは、事前に**管理>アラート設定**で設定されている必要があります。詳細は「[アラート設定](#)」をご確認ください。

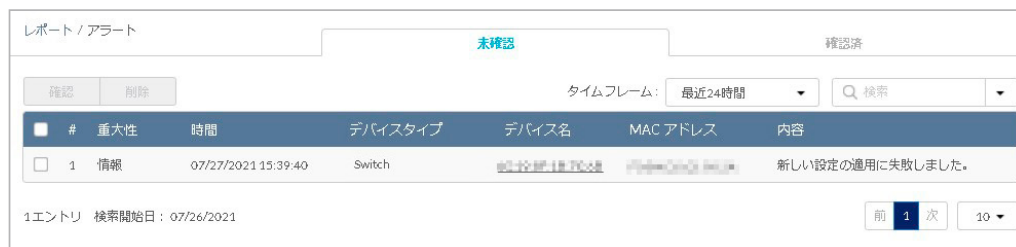


図 9-4 アラート

各情報の詳細は下記の通りです。

項目	説明
重大性	アラートの重大性を「警告」「重大」「情報」で表示します。
時間	アラートが発生した日時を表示します。
デバイスタイプ	デバイスタイプを表示します。
デバイス名	事象の発生したデバイスの名前を表示します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
内容	発生した事象の詳細を表示します。

■ アラートの処理

アラート画面は「未確認」と「確認済」の2つのタブから構成されています。

最初、全てのアラートは「未確認」に表示されています。

「未確認」タブで左側のチェックボックスにチェックを入れ、「確認」をクリックすると、アラートは「確認済」タブに移動します。

「確認済」タブで同様にチェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックすると、アラートは Nuclias 上から削除されます。

「未確認」タブにアラートがある場合は、アラートマークに「！」が表示されます。



アラートマーク

■ アラートの検索

検索ウィンドウ右側の  をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、精度の高い検索を行うことができます。

注意 スイッチポートのリンクダウンとリンクアップが非常に短時間に発生すると、ポートダウンイベントによって追加されたアラートがキャンセルされない場合があります。

ライセンス（レポート）

ライセンスの使用状況を確認することができます。
レポート>ライセンスを選択します。



図 9-5 ライセンス

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
組織名	組織名を表示します。
デバイス名	デバイス名を表示します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
プロファイル名	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
登録ステータス	Nuclias への登録状況を表示します。
ライセンス状態	ライセンスのステータスを表示します。
ライセンス数量	ライセンスの数を表示します。
ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
登録日	ライセンスの登録日を表示します。
期限日	ライセンスの期限日を表示します。
最終閲覧	デバイスの最終オンライン接続日時を表示します。
ファームウェア	デバイスのファームウェアバージョンを表示します。

■ ライセンスレポートの検索

特定の文字列を含むライセンスのレポートを検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

■ ライセンス情報のダウンロード

をクリックすると、ライセンスの情報を CSV 形式でダウンロードできます。

第 10 章 管理

- 「アカウント管理」
- 「組織管理」
- 「ライセンス管理」
- 「インベントリ」
- 「ファームウェア」
- 「アラート設定」
- 「証明書の管理」
- 「アドバンスド設定 > SAML 設定」
- 「アドバンスド設定 > SMS 設定」
- 「アドバンスド設定 > シスログサーバ 設定」
- 「デバイスの追加」
- 「デバイス一括インポート」

アカウント管理

ユーザ情報の管理ができます。

管理 > アカウント管理を選択してください。



図 10-1 アカウント管理

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
名前	ユーザ名が表示されます。クリックして接続レベル、権限の変更ができます。 ただし自身のユーザの権限は変更できません。
E メール	使用しているメールアドレスを表示します。
アクセスレベル	アクセスレベルと、閲覧できる組織、サイトを表示します。
役割	アカウントの権限を表示します。
管理サイト	アクセス可能な組織やサイトの数を表示します。
状態	ユーザアカウントのステータスを表示します。 招待メール送信後、有効化前の場合は「未確認」と表示され、メールアドレスの変更やメールの再送を行うことができます。
最終接続日時	最後にログインした日時を表示します。

■ アカウントの検索

右上の検索ウィンドウで、「名前」「E メール」「役割」からアカウントを検索できます。

■ ユーザの招待

「ユーザを招待する」をクリックし、管理下の組織に新たなユーザを作成、招待します。特定のサイトタグやサイトのみに閲覧権限を持たせたユーザを作成することも可能です。

名前、E メールアドレス、アクセス可能なサイトタグやサイト、並びに役割を設定します。
ユーザ名は、アクティベーション後にユーザ自身で変更できます。

注意 既に Nuclias アカウントで使用中のメールアドレスを招待することはできません。

ユーザを招待する

名前*

1-64文字

Eメールアドレス*

1-128文字

このメールアドレスはNucliasへのログインや、各種情報を受け取るために使用されます。

アクセス権限

役割*

管理者

アクセスレベル*

組織

DJP_画面確認用

管理サイト

全てのサイト

全て

閉じる

送信

図 10-2 ユーザを招待する

アクセス権限の説明は以下のとおりです。

項目	説明
管理者	全ての設定の閲覧、追加、編集、削除が可能です。
編集者	ほぼ全ての設定の閲覧、編集が可能です。 ただしユーザやデバイス、設定情報などの追加または削除の作業を行うことはできません。
モニタ	プロフィールなどの設定を確認することはできません。 また、ユーザやライセンスなどの管理設定は、閲覧のみ可能です。変更することはできません。
モニタ閲覧者	デバイスやサイトの使用状況やステータスのみ閲覧することができます。

入力後「送信」をクリックし、記載した E メールアドレスへ招待メールを送信します。

■ ユーザの削除

削除するユーザアカウントのチェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックします。
パスワード入力画面が表示されるので、作業者自身のパスワードを入力し、「はい」をクリックします。

ユーザが正常に削除されると、画面はログイン画面に移行し、削除アカウントのメールアドレスに削除された旨の通知が送付されます。

注意 ユーザを削除した場合、そのユーザに関連する情報もあわせて削除されます。

組織管理

組織、サイト、サイトタグの管理と、ユーザの招待を行うことができます。

管理 > 組織管理を選択し、以下の画面を表示します。



図 10-3 組織管理

項目	説明
組織	組織名を表示します。 クリックすると、組織、サイト、サイトタグがツリー表示されます。 ツリー表示の画面からサイトやサイトタグを作成、編集できます。
タイプ	組織の属性を表示します。
サイト	登録されているサイトの数を表示します。 マウスカーソルを合わせると、登録されているサイトが表示されます。
サイトタグ	登録されているサイトタグの数が表示されます。
デバイス	登録されているデバイスの状況と数を表示します。
アクセスポイント	登録されているアクセスポイントの状況と数を表示します。
スイッチ	登録されているスイッチの状況と数を表示します。
ゲートウェイ	登録されているゲートウェイの状況と数を表示します。
アクション	以下の項目をクリックし、設定を行います。 「編集」：組織の編集を行います。 「サイトの作成」：サイトの作成を行います。 「サイトタグの作成」：サイトタグの作成を行います。 「ユーザを招待する」：ユーザを招待します。

■ ツリー表示画面

管理 > 組織管理画面で「組織」欄の組織名をクリックすると、サイトやサイトタグがツリー表示された画面が表示されます。
ページ右上から「サイトの作成」「サイトタグの作成」を選択できます。
また、サイト名とサイトタグ名を入力し、検索を行うことができます。

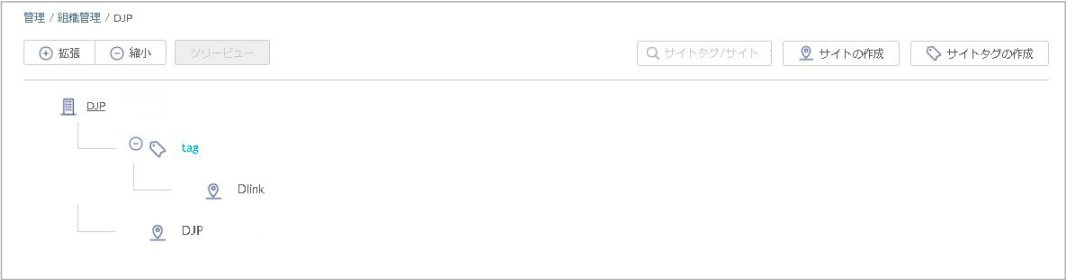


図 10-4 組織管理 - ツリー表示

サイト名とサイトタグ名で検索を行った場合は、以下の画面が表示されます。
検索後、ツリー表示に戻す場合は「ツリービュー」をクリックします。



図 10-5 組織管理 - 検索

■ 組織の編集

1. 管理 > 組織管理 画面でアクション欄の「編集」をクリックし、以下の画面を表示します。

組織の編集

組織画像のアップロード

組織名*

Nuclias_Manual

画像をここにドラッグ&ドロップ
してください

または

ファイルの閲覧

最大1MBの、PNGまたはJPGのファイル
をアップロードできます。

連絡先情報

名前

1-64文字

電話

1-32文字

Eメールアドレス

1-128文字

閉じる

保存

図 10-6 組織の編集

2. 「組織名」と「連絡先情報」を編集します。
また、「組織画像のアップロード」では、画像ファイルをアップロードできます。
「ファイルの閲覧」をクリックし、アップロードするファイルを選択します。（ファイル形式：PNG または JPEG、サイズ：最大 1 MB）
3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。

■ サイトの作成

1. 「サイトの作成」をクリックし、以下の画面を表示します。

サイトの作成

サイト名*

1-64文字

サイトタグ

None

国・地域のタイムゾーン*

Japan

Asia/Tokyo(UTC+09:00, ...)

選択したタイムゾーンによって、ファームウェアのアップグレードやログの時間が決まります
のでご注意ください。また、選択した国のWi-Fi規制（6GHz帯など）にもご注意ください。

住所

デバイス資格情報

デバイス資格情報のユーザ名とパスワードは、ローカルのWebページからログインする際
に使用されます。パスワードの長さは8～64文字に設定する必要があります。

ユーザ名

admin

パスワード*

NTP情報

NTPサーバ 1*

ntp.nuclias.com

NTPサーバ 2

連絡先情報

名前

1-64文字

電話

1-32文字

Eメールアドレス

1-128文字

閉じる

適用

図 10-7 サイトの作成

2. 以下の項目を入力、選択します。

- 「サイト名」を入力
- 「国・地域のタイムゾーン」から「Japan」を選択

NTP サーバ、連絡先情報は初期状態で問題ありません（必要に応じて変更、入力してください）。

注意 NTP サーバの設定が正しくない場合、イベントログが正常に取得できません。

「ユーザ名」と「パスワード」は、デバイスに Web GUI でローカル接続する際のユーザ名 / パスワード情報です。

ユーザ名は「管理者」(admin) で固定されており、変更できません。

パスワードは変更可能です。初期状態ではサイトごとにランダムな 8 文字が設定されています。パスワードを変更する場合は、パスワード欄に文字を入力します。目のアイコンをクリックするとパスワードの表示 / 非表示を切り替えられます。

3. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

■ サイトタグの作成

「サイトタグ」を使うと、複数のサイトをまとめて管理することができます。またタグ同士で親子関係の設定を行うことができます。

1. 「サイトタグの作成」をクリックし、以下の画面を表示します。

図 10-8 サイトタグの作成

2. タグの名前、並びに親タグを紐づける場合は親タグをプルダウンから選択します。
直接サイトが紐づけられているタグを親タグにすることはできません。
3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。

■ ユーザの招待

管理 > 組織管理 画面の「ユーザを招待する」をクリックすると、ユーザを招待することができます。

詳細は「[ユーザの招待](#)」をご確認ください。

■ サイト、サイトタグの編集

1. ツリー表示画面でサイト、サイトタグをクリックし、表示される画面右上の鉛筆マークをクリックします。



図 10-9 サイトの編集

ツリー表示画面では、サイト / サイトタグと同様に組織の編集を行うこともできます。

2. 以下の画面で設定を行います。設定項目は「[サイトの作成](#)」「[サイトタグの作成](#)」を参照してください。

サイトの編集

サイト名 *

Gotanda

サイトタグ

None

国・地域のタイムゾーン *

Japan

Asia/Tokyo(UTC+09:00, ...)

選択したタイムゾーンによって、ファームウェアのアップグレードやログの時間が決まりますのでご注意ください。また、選択した国のWi-Fi規制（6GHz帯など）にもご注意ください。

住所

デバイス資格情報

デバイス資格情報のユーザ名とパスワードは、ローカルのWebページからログインする際に使用されます。パスワードの長さは8～64文字に設定する必要があります。

ユーザ名

admin

パスワード *

.....

NTP情報

NTPサーバ 1 *

ntp.nuclias.com

NTPサーバ 2

連絡先情報

名前

1-64文字

電話

1-32文字

Eメールアドレス

1-128文字

閉じる

適用

サイトタグの編集

タグ名 *

Japan

親タグ

None

作成するタグは、選択した親タグのサブタグとなります。どのサイトとも関連していないタグが表示されます。

閉じる

保存

図 10-11 サイトタグの編集

3. 設定後、「適用」または「保存」をクリックします。
変更した設定は Nuclias サーバに保存され、同時にデバイスへプッシュ配信されます。

ライセンス管理

ライセンス管理画面では、Nuclias に登録しているライセンス情報の確認と管理を行います。

注意 ライセンス切れとなった機器の動作については、動作保証外になります。

注意 「ライセンス管理」の項目は、1 つのサイトのみを管理するアカウントでは表示されません。

管理 > **ライセンス管理** を選択します。



図 10-12 ライセンス管理（概要）

本画面には「オーバービュー」「デバイス」「ライセンス」「期限日の統一化」「ライセンスログ」のタブがあります。各画面の詳細については以下を参照してください。

[「ライセンス管理 - オーバービュー」](#)

[「ライセンス管理 - デバイス」](#)

[「ライセンス管理 - ライセンス」](#)

[「ライセンス管理 - 期限日の統一化」](#)

[「ライセンス管理 - ライセンスログ」](#)

■ ライセンスの使用状況について

ライセンスの使用状況は、Nuclias 上で以下のように表示されます。

項目	説明
ライセンスタイプ (デバイスに割り当てられているか、割り当てられていないかを表します)	
使用中	ライセンスはデバイスに割り当てられています。
未使用	ライセンスはデバイスに割り当てられていません。
状態 (稼働を開始したか、稼働を開始していないかを表します)	
稼働中	稼働を開始したライセンスです。 ライセンスの有効期間は消費されます。 「使用中・稼働中」 デバイスに割り当てられ、稼働中のライセンスです。 「未使用・稼働中」 デバイスに割り当てて稼働を開始した後、デバイスの削除などによりデバイスに割り当てられていない状態になったライセンスです。デバイスに割り当てられていない「未使用」の状態でも、「稼働中」であればライセンスの有効期間は消費されます。
休止中	稼働を開始していないライセンスです。 ライセンスの有効期間は消費されません。 「未使用・休止中」 デバイスに割り当てられておらず、稼働も開始していないライセンスです。 「使用中・休止中」 デバイスに割り当てられていますが、稼働を開始していないライセンスです。 デバイスに割り当てられた 2 つ目のライセンスの場合や、デバイスに割り当て済みでもデバイスがまだオンラインになっていない場合などは「使用中・休止中」となります。

ライセンス管理 - オーバービュー

Nuclias に登録されているライセンスの概要を表示します。
登録されているライセンスの数と使用状況、60 日以内に期限切れになるライセンスを確認できます。



図 10-13 ライセンス管理（オーバービュー）

ライセンス管理 - デバイス

ライセンスを使用しているデバイスの情報を確認できます。
また、デバイスの追加と削除、ライセンスやプロファイルの割り当てを実行できます。

注意 本画面は、管理 > インベントリをクリックした場合に表示される画面と同一です。



図 10-14 ライセンス管理（デバイス）

画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
状態	各機器のステータスを以下の色で表示します。 ・ 緑色：オンライン / 赤色：オフライン / 灰色：休止状態
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
シリアル番号	デバイスのシリアル番号を表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
デバイス名	デバイス名を表示します。
サイト	デバイスが登録されているサイトを表示します。
プロファイル	デバイスが紐づいているプロファイルを表示します。
ライセンス状態	ライセンスのステータスを表示します。
登録日	ライセンスの登録日を表示します。
期限日	ライセンスの期限日を表示します。

■ デバイスの追加

1. 管理 > ライセンス管理画面の「デバイス」タブで「デバイスの追加」をクリックし、以下の画面を表示します。



図 10-15 インベントリへデバイスを追加

2. 「デバイス UID」を入力します。

CSV ファイルを用いてまとめてデバイスを登録する場合は、「一括インポート」をクリック → ファイルを選択してアップロードします。
CSV ファイルのサンプルが必要な場合は、指定のメッセージをクリックします。

3. 設定後、「保存」をクリックします。

■ デバイスの削除

1. 管理 > ライセンス管理画面の「デバイス」タブで、削除するデバイスのチェックボックスを選択します。
2. 「削除」をクリックし、以下の画面を表示します。

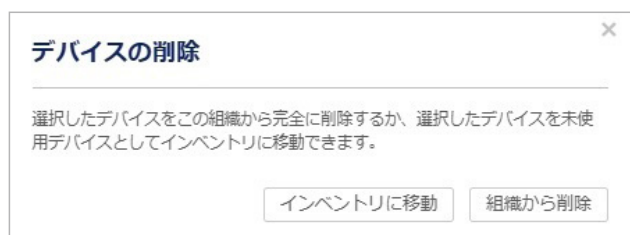


図 10-16 デバイスの削除

3. 「インベントリに移動」または「組織から削除」をクリックします。
 - ・「インベントリに移動」：デバイスに割り当てたサイト、プロファイル、ライセンスが削除されます。
「割り当て」から再度サイト、プロファイル、ライセンスを割り当てることができます。
 - ・「組織から削除」：デバイスは組織から削除されます。

注意 デバイスを削除した場合、そのデバイスに割り当てられていたライセンスは削除されず、元の組織に残ります。
削除したデバイスを別の組織に登録する場合、別途ライセンスを用意いただく必要があります。

注意 デバイスを Nuclias から削除すると、削除したデバイスに関するイベントログは全て削除されます。
イベントログを残しておく必要がある場合は、事前にイベントログをダウンロードしてください。
詳細は、第 7 章 モニタ「[スイッチ - イベントログ](#)」を確認してください。

■ 組織 / サイトとプロファイルの割り当て

新しく一括登録したデバイス（ライセンスは割り当てられていない状態）を、既存の組織または新規組織に割り当てることができます。組織のほか、サイト / プロファイル / ライセンスの割り当てが可能です。ライセンスは「割り当て」の実行前に組織へ登録しておく必要があります。

- 1. 管理 > ライセンス管理画面の「デバイス」タブで、デバイスのチェックボックスにチェックを入れ、「割り当て」をクリックします。
- 2. 以下の画面で「既存サイトとプロファイル」または「新しいサイトとプロファイル」を選択します。

組織にアサインする

● 既存の組織、サイト、プロファイル

組織*
DJP_2

サイト*
Gotanda

プロファイル*
DBA-1510P

オートアサインライセンス

ライセンス期間
未使用 1年

○ 新しい組織、サイト、プロファイル

キャンセル

既存へ追加

組織にアサインする

○ 既存の組織、サイト、プロファイル

● 新しい組織、サイト、プロファイル

組織*

サイト*

国・地域のタイムゾーン
Afghanistan Asia/Kabul(UTC +04:30, DST)

住所

プロファイル
デフォルトコンフィグを使用する

オートアサインライセンス

ライセンス期間
未使用 1月

キャンセル

組織の作成と追加

図 10-17 組織にアサインする

- ・「既存の組織、サイト、プロファイル」：
すでに設定済みの組織、サイト、プロファイルを選択し、デバイスに割り当てます。
- ・「新しい組織、サイト、プロファイル」：
新しい組織、サイトを設定し、デバイスに割り当てます。プロファイルはデフォルトのプロファイルが割り当てられます。プロファイルは後から編集可能です。
- ・「オートアサインライセンス」：
利用可能な既存のライセンスキーが、選択したデバイスに対して自動的に割り振られます。
ただし、選択したデバイスに適用するライセンスキーが条件を満たしていない場合、割り当てが失敗する可能性があります。

注意 複数のデバイスを選択して「割り当て」を行う場合、「オートアサインライセンス」で使用できるのは「休止中」（稼働を開始していない）状態のライセンスのみです。
1つのデバイスのみを選択して「割り当て」を行う場合は、「稼働中 / 未使用」（稼働を開始したが、現在はデバイスに割り当てられていない）状態のライセンスも使用できます。

- 3. 設定後、「既存へ追加」または「組織の作成と追加」をクリックします。

100

■ ライセンスの割り当て

使用中のデバイスにライセンスを割り当てます。
本機能は、「休止中」（まだ稼働を開始していない）状態のライセンスが組織内にある場合のみ使用できます。

以下の手順の例では、有効期限 1 年のライセンス 5 つを組織に登録し、デバイスに割り当てます。

1. 管理 > ライセンス管理画面の「デバイス」タブで、デバイスのチェックボックスにチェックを入れます。
以下の画面では 2 つのデバイスを選択しています。

デバイスの追加 削除 割り当て... ライセンスの割り当て				
☐	#	状態	MAC アドレス	デバイスUID
☒	1	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	2	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	3	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	4	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	5	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	6	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	7	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☒	8	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000
☐	9	●	0800D04F090000000000000000000000	0800D04F090000000000000000000000

図 10-18 ライセンス管理（デバイス選択）

2. 「ライセンスの割り当て」をクリックし、以下の画面を表示します。

5 つのライセンスのうち 2 つをデバイスに割り当てるため、「残り 3」と表示されます。

ライセンス割り当て

選択された数 2 AP, 0 switch, 0 gateway.

アクセスポイント

1年

+ 追加

残り 3

スイッチ

1年

+ 追加

残り 0

ゲートウェイ

1年

+ 追加

残り 0

キャンセル

割り当て

図 10-19 ライセンス割り当て

注意 ドロップダウンリストで「2 年」を選択しても、「1 年ライセンス × 2」とは判定されません。

「+ 追加」をクリックするとライセンスの枠が追加されます。割り当て可能なライセンスキーがある場合は入力します。

ライセンス割り当て

選択された数 2 AP, 0 switch, 0 gateway.

アクセスポイント

1年

+ 追加

残り 3

1年

×

残り 1

スイッチ

1年

+ 追加

残り 0

ゲートウェイ

1年

+ 追加

残り 0

キャンセル

割り当て

図 10-20 ライセンス割り当て（追加）

3. 「割り当て」をクリックし、ライセンスの割り当てを実行します。

4. ライセンスの割り当ての結果が表示されます。



図 10-21 ライセンス割り当て（結果）

注意 デバイスに割り当てられているライセンスの情報を確認するには、**モニタ** > **スイッチ** > **デバイス** 画面、または **設定** > **スイッチ** > **デバイス** 画面でデバイスを選択し、「ライセンス」タブを選択してください。

ライセンス管理 - ライセンス

登録しているライセンスの情報と履歴を表示します。また、ライセンスを組織に登録できます。



図 10-22 ライセンス管理（ライセンス）

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
ライセンスタイプ	ライセンスがデバイスに割り当てられているか、割り当てられていないかを表示します。 「使用中」：ライセンスがデバイスに割り当てられています。 「未使用」：ライセンスがデバイスに割り当てられていません。
状態	ライセンスの稼働状態を表示します。 「稼働中」：稼働しているライセンスです。有効期間が消費されます。 「休止中」：稼働を開始していないライセンスです。有効期間は消費されません。
ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
期間	ライセンスの期間を表示します。
ライセンスデバイスタイプ	ライセンスのデバイスタイプを表示します。
登録日	デバイスの登録日を表示します。
デバイス UID	デバイスの UID を表示します。
モデル名	デバイスのモデル名を表示します。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスを表示します。
開始日	ライセンスの使用開始日を表示します。
期限日	ライセンスの期限日を表示します。
残り時間	ライセンスの残りの有効期間を表示します。

■ ライセンス履歴の表示

「ライセンス履歴」をクリックすると、1年以内に失効したライセンスの情報を確認できます。
「タイムフレーム」で期間を選択→「ダウンロード」をクリックして csv ファイルをダウンロードします。

■ ライセンスの検索

特定の文字列を含むライセンス情報を検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。
検索ウィンドウ右側の  をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、より精度の高い検索を行うこともできます。

■ ライセンス一覧表のダウンロード

 をクリックすると、ライセンス一覧表を csv ファイルでダウンロードします。

■ ライセンスの追加

- ライセンスを組織に登録します。
1. 管理 > ライセンス管理画面の「ライセンス」タブで、「ライセンスの追加」をクリックします。
 2. ライセンスキーを入力し、「追加」をクリックします。



図 10-23 ライセンスキーの追加

注意 登録したライセンスキーは、他の組織で使用することはできません。

■ ライセンスの一括インポート

CSV ファイルからまとめてライセンスを登録する場合は、「一括インポート」を選択します。
以下の画面でファイルを選択し、CSV ファイルをアップロードします。

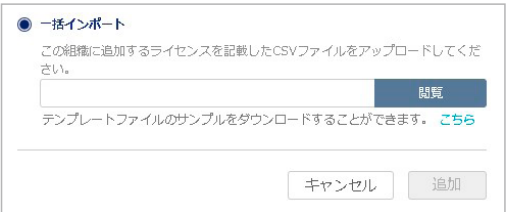


図 10-24 ライセンスの一括インポート

CSV ファイルのサンプルが必要な場合は、指定のメッセージをクリックします。

ライセンス管理 - 期限日の統一化

「期限日の統一化」タブでは、登録しているライセンスの期限日を統一できます。

Nuclias に複数のライセンスを登録している場合、登録した日によってそれぞれのライセンスの有効期限が異なります。この場合、ライセンスごとに有効期限を確認し、期限が切れる前にそれぞれのライセンスの更新を個別に行う必要があります。

ライセンスの期限日を統一することによって、ライセンスの更新作業をまとめて実行できるため、ライセンスの管理が容易になります。

「期限日の統一化」を実行すると、登録済みのライセンスを終了し、新しいライセンスが生成されます。

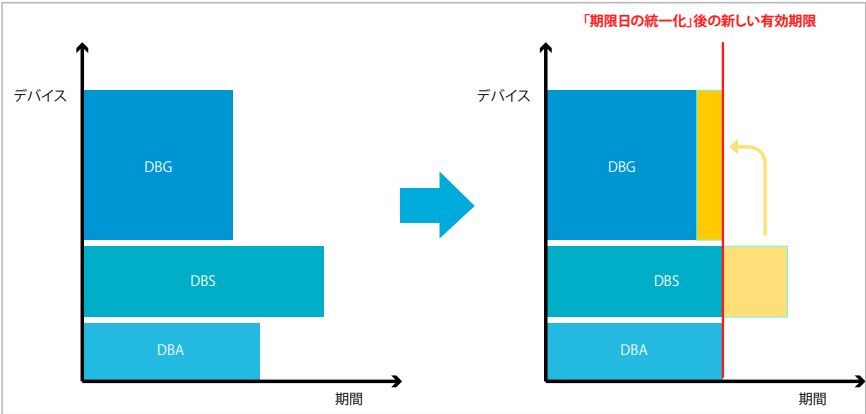


図 10-25 「期限日の統一化」の仕組み

注意 本機能は、実行後に取り消すことはできません。

「期限日の統一化」実行前のライセンスを復元することはできませんので、ご注意ください。

「期限日の統一化」は、組織ごとに実行できます。実行できるデバイスとライセンスの条件は以下のとおりです。

- 同一の組織に登録されている以下のデバイス
 - ・「稼働中」のライセンスが割り当てられているデバイス
 - ・期限切れのライセンスが割り当てられているデバイス
- 同一の組織に登録されている以下のライセンス
 - ・「使用中」で「稼働中」のライセンス（デバイスに割り当てられていて、有効期間を消費中のライセンス）
 - ・「使用中」で「休止中」のライセンス（デバイスに割り当てられているが、有効期間の消費は開始されていないライセンス）
 - ・「未使用」で「稼働中」のライセンス（現在はデバイスに割り当てられていないが、有効期間を消費中のライセンス）

注意 ライセンスの「使用中」「未使用」「稼働中」「休止中」の説明については「[ライセンスの使用状況について](#)」を参照してください。

「期限日の統一化」の手順は以下の通りです。

1. 管理 > ライセンス管理画面で「期限日の統一化」タブを選択します。



図 10-26 ライセンス管理 - 期限日の統一化

2. 「ライセンス期限の計算」をクリックし、期限を統一化した場合のライセンス有効期限を確認します。



図 10-27 ライセンス期限の計算

- 注意** 「ライセンス期限の計算」の結果、ライセンスの有効期間が残り 30 日未満の場合は、「ライセンス期限日の統一化」を実行できません。
3. 「ライセンスの期限日の統一化」をクリックします。
4. 確認画面の内容を確認後、同意する場合はチェックボックスを選択し、「確認」をクリックします。
本機能は、実行後に取り消すことはできませんのでご注意ください。

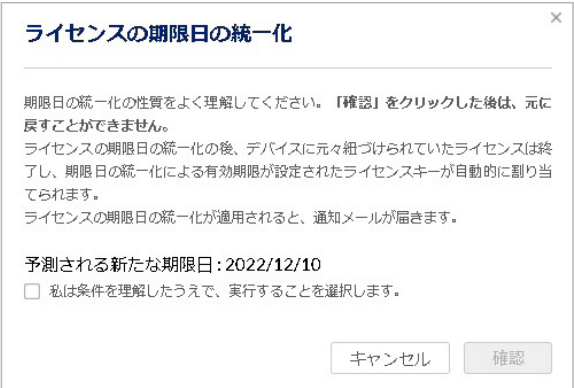


図 10-28 ライセンス期限の計算

注意 関係するライセンスやデバイスに変更があった場合、期限日の統一化の動作は中断します。最初からやり直してください。

■ ライセンスの有効期限の計算方法について

「ライセンス期限日の統一化」を行う場合、統一化後の有効期限は、デバイスタイプの比重（ウエイト）と残りの有効期間をもとに計算されます。
ライセンスの価格が異なるため、計算の際の比重はデバイスタイプによって異なります。

デバイスタイプ	DBS-2000	DBA シリーズ	DBG シリーズ
比重	1	2	5

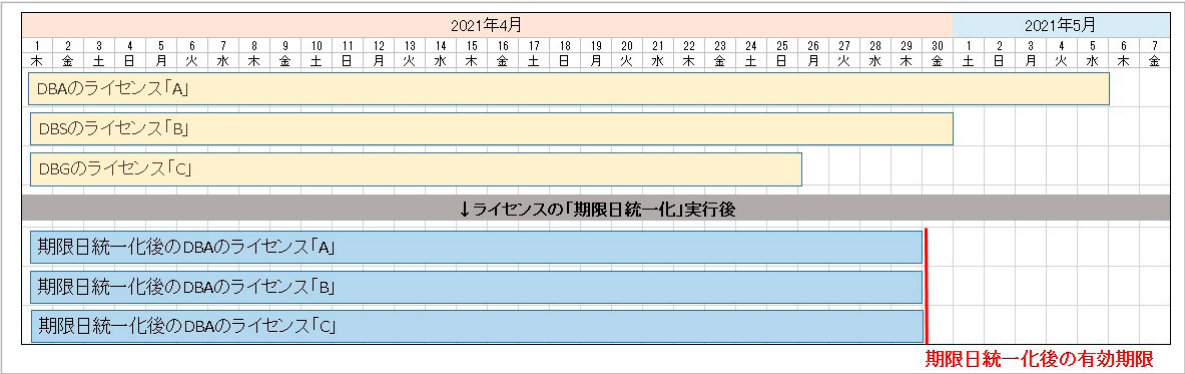


図 10-29 ライセンス期限統一化の例

第10章 管理

計算手順

期限日統一化後の有効期限は、以下の方法で計算されます。

- (1) 統一化するライセンスを収集します。
- (2) ライセンス有効期間の残存日数を収集します。
- (3) 残存日数とデバイスの比重を乗算します。
- (4) 統一化するすべてのライセンスの「残存日数×デバイスの比重」値を合計します。
- (5) 統一化するすべてのデバイスの比重を合計します。
- (6) 手順 4 の値を手順 5 の値で割ります。
- (7) 手順 6 で出した値の小数点以下を切り上げて、統一化後の残存日数とします。

$$\frac{\sum_{i=1}^n \text{デバイスの比重} \times \text{ライセンス有効期間の残存日数}_i}{\text{デバイスの比重の合計}} = \text{統一化後の有効残存日数}$$

計算例

以下にライセンスの有効期限の計算例を記載します。

2021/1/14 に、DBA-1210P の 1 年間ライセンスを購入し、有効化。(2 台分)

2021/10/20 に、DBG-2000 の 1 年間ライセンスを購入し、有効化。(1 台分)

2021/11/5 に「ライセンスの期限日の統一化」を実行。

統一化前のライセンスの有効期間残存日数：

- DBA-1210P (2021/11/5 – 2022/1/14 = 70 日)
- DBG-2000 (2021/11/5 – 2022/10/20 = 349 日)

残存日数と比重の計算式（計算手順の 3、4）：

70 (日) × 2 (DBA の数) × 2 (DBA の比重) = 280

349 (日) × 1 (DBG-2000 の数) × 5 (DBG の比重) = 1745

デバイスの比重の合計（計算手順の 5）：

(2 DBA × 2) + (1 DBG × 5) = 9

統一化後の残存日数（計算手順の 6）：

(280 + 1745) / 9 = 225 (日)

統一化後の有効期限：

2021/11/5 + 225 (日) = 2022/6/18

全てのデバイスには、期限日が 2022 年 6 月 18 日のライセンスが付与されます。

ライセンス管理 - ライセンスログ

ライセンスに関するログを表示します。



図 10-30 ライセンス管理（ライセンスログ）

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
時間	ログが記録された時間を表示します。
アカウント	アクションを行ったユーザのアカウントを表示します。
ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
アクション	ライセンスのアクション（追加、紐づけなど）を表示します。
詳細	アクションの詳細を表示します。

■ 表示する期間の変更

「タイムフレーム」で表示する期間を設定します。

■ ライセンスログの検索

特定の文字列を含むライセンス情報を検索する場合は、検索ウィンドウに文字を入力します。

検索ウィンドウ右側の  をクリックして詳細な検索ウィンドウを表示させ、より精度の高い検索を行うこともできます。

■ ライセンスログのダウンロード

「ダウンロード」をクリックすると、ライセンスログを csv ファイルでダウンロードします。

インベントリ

デバイスの登録と削除、組織 / プロファイル / ライセンスの割り当てを行います。

本画面は、**管理 > ライセンス管理**画面で「デバイス」タブを選択した場合に表示される画面と同一です。

設定内容については「[ライセンス管理 - デバイス](#)」を参照してください。

注意 「インベントリ」の項目は、1つのサイトのみを管理するアカウントでは表示されません。

管理 > インベントリを選択し、以下の画面を表示します。



図 10-31 インベントリ画面

ファームウェア

管理 > ファームウェア画面では、ファームウェアの管理を行います。

本画面には以下のタブがあります。

- ・「ニューリリース」
- ・「サイトのファームウェアアップグレード」
- ・「デバイスのファームウェア管理」

ファームウェア - ニューリリースタブ

各デバイスごとにファームウェアのリリース状況を表示します。「バージョン」欄のリンクをクリックするとリリースノート（英語版）が表示されます。日本で販売されている製品については、弊社のホームページでリリースノートをご確認ください。

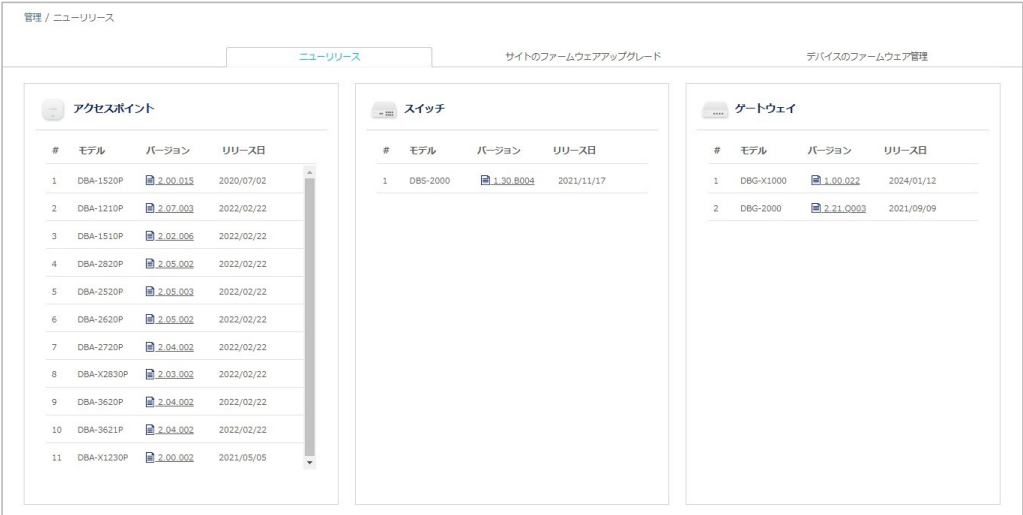


図 10-32 ファームウェア

ファームウェア - サイトのファームウェアアップグレードタブ

ファームウェアのスケジュールアップグレードを設定します。



図 10-33 ファームウェア - サイトのファームウェアアップグレード

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
チェックボックス	チェックボックスにチェックを入れて「スケジュールアップグレード」をクリックすると、ファームウェアアップグレードのスケジュールを設定できます。
サイト	製品が登録されているサイトを表示します。
製品カテゴリ	製品のカテゴリ（スイッチ、アクセスポイント、ゲートウェイ）を表示します。
モデル名	製品のモデル名を表示します。
デバイス	デバイスの数を表示します。数字をクリックするとデバイスの情報が表示されます。
適用ファームウェア	現在デバイスに適用しているファームウェアの状態を表示します。最新のバージョンを適用している場合は「最新」と表示されます。
現在のファームウェアバージョン	現在 Nuclias 上で設定されているファームウェアバージョンです。
対象のファームウェアバージョン	アップグレード時に適用するファームウェアのバージョンを表示します。
アップグレードポリシー	ファームウェアのアップグレードポリシー（手動/スケジュール）を表示します。
アップグレードスケジュール（現地時間）	ファームウェアのアップグレードを行うスケジュールを表示します。
最終アップグレード日時（現地時間）	最後にファームウェアアップグレードを実行した日時を表示します。
対象ファームウェアのリリースノート	アップグレード時に適用するファームウェアバージョンのリリースノート（英語版）を表示します。

■ スケジュールアップグレード

ファームウェアアップグレードのスケジュールを設定します。

- 1. 管理＞ファームウェア画面の「サイトのファームウェアアップグレード」タブでスケジュール設定を行うデバイスを選択します。
- 2. 「スケジュールアップグレード」を選択し、以下の画面でスケジュールを設定します。

スケジュールファームウェア変更

ファームウェアを変更するデバイスの数によっては、アップグレード時間にずれが生じる場合があります。

自動アップグレードのスケジュール (曜日/時刻指定)

日曜日

00:00

(サイトの現地時間)

アップグレードのスケジュール (日付/時刻指定)

02/27/2025

11:00

(サイトの現地時間)

今すぐアップグレード実行 (手動で実行)

閉じる

次

図 10-34 スケジュールファームウェア変更

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
自動アップグレードのスケジュール	指定した曜日と時刻になった場合、自動的にファームウェアアップグレードを行います。
アップグレードのスケジュール	指定した日時にファームウェアアップグレードを行います。
今すぐアップグレード実行	今すぐファームウェアアップグレードを行います。

- 3. 「次」をクリックします。
- 4. 「対象のファームウェアバージョン」のドロップダウンリストでファームウェアバージョンを選択します。
手順2で「自動アップグレードのスケジュール」を選択した場合はファームウェアバージョンを選択できません。

ファームウェアバージョンの一括編集

#	サイト	製品カテゴリ	モデル名	現在のファームウェアバージョン	対象のファームウェアバージョン
1	Switch-2000-26P	スイッチ	DBS-2000	1.20.008	1.20.008(最新)

前

1

次

10

Back

スケジュール変更

図 10-35 ファームウェアバージョンの一括編集

- 5. 「スケジュール変更」をクリックします。

注意 手順3で「今すぐアップグレード実行」を選択した場合は、ファームウェアアップグレードが開始されます。

■ ファームウェアアップグレード対象の検索

検索ウィンドウでファームウェアアップグレードを行うデバイスを検索できます。
「モデル名」「ファームウェア状態」を指定して検索することも可能です。

ファームウェア - デバイスのファームウェア管理タブ

デバイスのファームウェア管理タブでは、デバイスとファームウェア情報のプレビューとダウンロードを実行できます。



図 10-36 ファームウェア - デバイスのファームウェア管理

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
デバイスモデル	プレビューに表示するデバイスをドロップダウンリストから選択します。
適用ファームウェア	プレビューに表示するファームウェアを「全て」「更新可能分」「最新」から選択します。
プレビュー	「プレビュー」をクリックすると、画面下部にデバイスとファームウェアの情報が表示されます。
ダウンロード	「ダウンロード」をクリックすると、プレビューで表示した情報を CSV ファイルでダウンロードできます。

アラート設定

管理 > アラート設定を選択し、アラート設定するイベントを指定します。
指定したイベントは、図 9-4 「アラート」画面に表示、並びに管理用メールアドレスにメール送信されます。
アラートを発報する項目が表示されます。「E メール」にチェックをいれた場合、アラートが管理用メールアドレスに送信されます。

管理 / アラート設定

一般

Eメール

デバイスが登録されました。

☐

デバイスのファームウェアは正常にアップグレードしました

☐

ファームウェアアップグレードは失敗しました

☐

サイト並びにプロファイルは正常に更新されました

☐

デバイスはNucliasに正常に接続されました

☐

プロファイル設定の適用に成功しました

☐

プロファイル設定の更新に失敗しました

☐

アクセスポイント

Eメール

APオフラインを何分間継続して検知したらアラートを送るか

60

分

☒

スイッチ

Eメール

Switchオフラインを何分間継続して検知したらアラートを送るか

60

分

☒

Anyポート

ダウン状態の時間

60

分

☒

ゲートウェイ

Eメール

ゲートウェイオフライン状態

60

分

☒

DHCPリースプールが残り10%を切りました

☐

IPsecトンネルが接続されました

☐

IPsecトンネルが切断されました

☐

WANポートが接続されました。

☐

WANポートが切断されました

☐

ネットワーク使用量超過

100

GB

in

30分

☐

図 10-37 アラート設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
デバイスが登録されました	デバイスが Nuclias に登録された際にアラートを発報します。
デバイスのファームウェアは正常にアップグレードしました	ファームウェアアップグレード実施時にアラートを発報します。
ファームウェアアップグレードは失敗しました	ファームウェアアップグレードに失敗したときにアラートを発報します。
サイト並びにプロファイルは正常に更新されました	サイトおよびプロファイルが正常に更新されたときにアラートを発報します。
デバイスは Nuclias に正常に接続されました	オフライン状態のデバイスが正常に Nuclias に接続（オンライン）状態になったときにアラートを発報します。
プロファイル設定の適用に成功しました	デバイスへ「設定のプッシュ」を実施した際にアラートを発報します。
プロファイル設定の更新に失敗しました	デバイスへの「設定のプッシュ」が失敗した際にアラートを発報します。

項目	説明
Switch オフラインを何分間継続して検知したらアラートを送るか	Nuclias でオフライン状態と判断したタイミングを起点とし、引き続き指定した時間オフラインが継続した場合にアラートを発報します。ブルダウンより、「5」「10」「15」「30」「60」（単位：分）から指定できます。 スイッチが実際に Nuclias から切断された後、オフライン状態と判断されるためには、5 分間オフラインを継続している必要があります。上記は 5 分後の状態を起点とします。 例：本項目で「10 分」と設定した場合、実際にスイッチが Nuclias から切断されてからアラートが送信されるにはおよそ 15 分以上かかります。
ダウン状態の時間	ポートがダウンした状態が指定した時間続いた場合にアラートを発報します。 ドロップダウンリストでポートと時間を選択します。

注意 上記以外にも、デバイスに紐づけられたライセンスの期限日が近くなった場合にアラートが送信されます。
30 日前、7 日前、3 日前、1 日前に通知されますので、継続してデバイスを使用する場合は新しいライセンスを適用してください。

設定後、「保存」をクリックします。

証明書管理

管理 > 証明書の管理を選択し、証明書の設定、管理を行う画面を表示します。

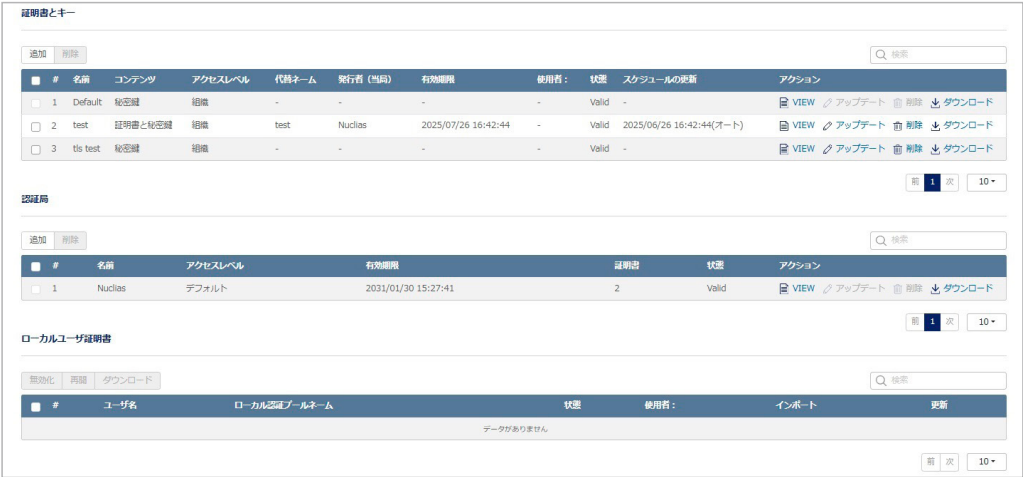


図 10-38 証明書の管理

本画面には以下の項目が表示されます。

項目	説明
証明書とキー	
チェックボックス	チェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックすると証明書とキーを削除できます。デフォルトで設定されている証明書とキーは削除できません。
名前	証明書とキーの名前を表示します。
コンテンツ	証明書とキーのコンテンツを表示します。
アクセスレベル	証明書とキーに設定されたアクセスレベルを表示します。
代替ネーム	証明書とキーの代替ネームを表示します。
発行者（当局）	証明書とキーの発行者を表示します。
有効期限	証明書とキーの有効期限を表示します。
使用者	証明書の使用者について表示します。
状態	証明書とキーの状態を表示します。
スケジュールの更新	証明書とキーの更新スケジュールを表示します。
アクション	「VIEW」：証明書とキーの詳細情報を表示します。 「アップデート」：証明書とキーをアップデートします。デフォルトの証明書とキーはアップデートできません。 「削除」：証明書とキーを削除します。デフォルトの証明書とキーは削除できません。 「ダウンロード」：証明書とキーを PEM 形式のファイルでダウンロードします。
認証局	
チェックボックス	チェックボックスにチェックを入れ、「削除」をクリックすると認証局を削除できます。デフォルトで設定されている認証局は削除できません。
名前	認証局の名前を表示します。
アクセスレベル	認証局に設定されたアクセスレベルを表示します。
有効期限	認証局の有効期限を表示します。
証明書	証明書の数を表示します。
状態	認証局の状態を表示します。
アクション	「VIEW」：認証局の詳細情報が表示されます。 「アップデート」：認証局の設定をアップデートします。デフォルトの認証局はアップデートできません。 「削除」：認証局を削除します。デフォルトの認証局は削除できません。 「ダウンロード」：認証局の情報を PEM 形式のファイルでダウンロードします。
ローカルユーザ証明書	
チェックボックス	チェックボックスにチェックを入れ、「無効化」「再開」「ダウンロード」を実行できます。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。
ローカル認証プールネーム	ローカル認証のプール名を表示します。
状態	ローカルユーザ証明書の状態を表示します。
使用者	証明書の使用者について表示します。
インポート	ローカルユーザ証明書のインポート日時を表示します。
更新	ローカルユーザ証明書の更新日時を表示します。

■ 証明書とキーの追加

1. 管理 > 証明書管理画面の「証明書とキー」エリアで「追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

証明書またはキーの追加

● 証明書署名要求の発行

コモン名

代替ネーム

Signed by

1-64文字

1-64文字

Nuclias (期限日 2031/01/30 15:27:41)

○ CSRのアップロード

○ 証明書のインポート

○ 秘密鍵の生成(DH, TLS)

○ 秘密鍵のインポート(DH, TLS)

アクセス権限

アクセスレベル

組織

閉じる

保存

図 10-39 証明書要求

2. 作成する証明書を以下から選択後、表示される項目を入力、またはファイルをアップロード/インポートします。
- 証明書署名要求の発行：「コモン名」「代替ネーム」を入力し、「Signed by」で認証局を設定します。
 - CSR のアップロード：「Signed by」で認証局を設定し、CSR（certificate signed request）をアップロードします。
 - 証明書のインポート：証明書をインポートします。
 - 秘密鍵の作成 (DH, TLS):「キーネーム」「キータイプ」「キーサイズ」を設定します。キータイプは「DH キー」「TLS キー」から選択できます。
 - 秘密鍵のインポート (DH, TLS)：「キーネーム」を設定し、秘密鍵をインポートします。
3. 「証明書のインポート」「秘密鍵の作成 (DH, TLS)」「秘密鍵のインポート (DH, TLS)」を選択した場合、アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。
4. 「保存」をクリックします。

■ 認証局の追加

1. 管理 > 証明書管理画面の「認証局」エリアで「追加」をクリックします。

認証局の追加

アクセス権限

アクセスレベル

組織

CAのアップロード

認証局（CA）の暗号化されていないPEM形式のRSA秘密鍵をアップロードします*

閲覧

認証局（CA）のPEM形式のX.509証明書をアップロードします*

閲覧

閉じる

保存

図 10-40 認証局の追加

2. アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。
3. 「CA のアップロード」の「閲覧」をクリックし、認証局（CA / Certification Authority）をアップロードします。
4. 「保存」をクリックします。

アドバンスト設定 > SAML 設定

管理 > アドバンスト設定 > SAML 設定を選択し、以下の画面で SAML の設定を行います。

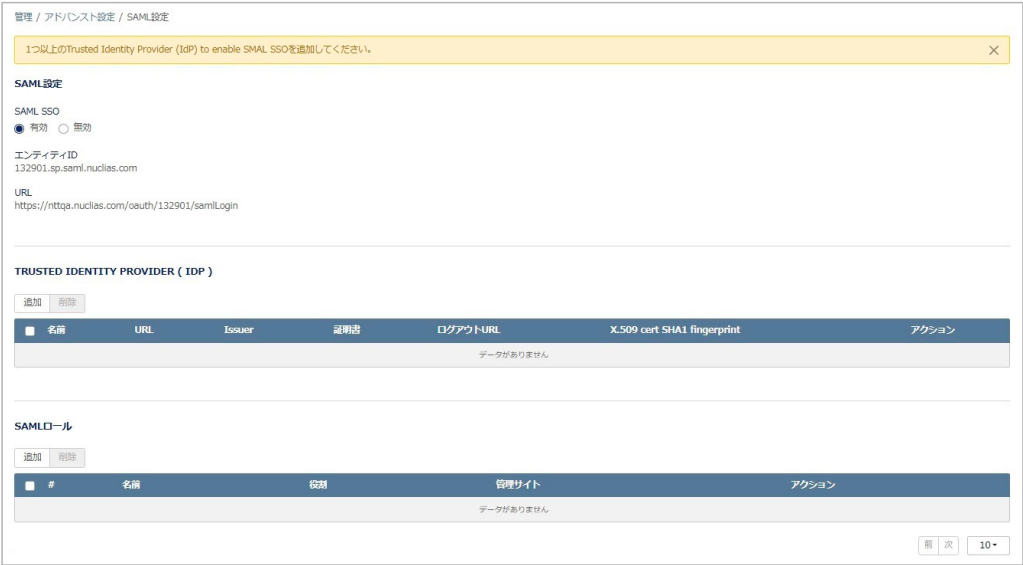


図 10-41 SAML 設定

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
SAML SSO	SAML SSO を有効または無効に設定します。
エンティティ ID	エンティティ ID が表示されます。設定作業には使用しません。
URL	URL が表示されます。IdP サーバに設定する Assertion Consumer URL です。
TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP)	TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP) が表示されます。「追加」をクリックし、SAML IDP を追加することも可能です。
SAML ロール	SAML ロールが表示されます。「追加」をクリックし、SAML ロールを追加することも可能です。

■ TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP) の追加

1. TRUSTED IDENTITY PROVIDER (IDP) の「追加」をクリックし、以下の画面を表示します。



図 10-42 SAML Idp の追加

2. 以下の項目を設定します。
- 「名前」：SAML IDP の名前を入力します。
 - 「IdP の追加」：「URL」「Issuer」「証明書」「ログアウト URL」「X.509 cert SHA1 fingerprint」を入力します。
 - 「IdP メタデータのインポート」：詳細な情報を含んだ metadata XML ファイルをインポートします。
3. 設定後、「保存」をクリックします。

■ SAML ロールの追加

1. SAML ロールの「追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

SAMLルールを追加

名前*

1-64文字

アクセス権限

役割*

管理者

アクセスレベル

組織

Nuclias_Manual

管理サイト*

全てのサイト

全て

閉じる

保存

図 10-43 SAML ロールを追加

2. 以下の項目を設定します。
- ・「名前」：SAML ロールの名前を入力します。
 - ・「役割」：「管理者」「編集者」「モニタ」「モニタ閲覧者」から選択します。
 - ・「アクセスレベル」：アクセスレベルが表示されます。
 - ・「管理サイト」：サイトおよびサイトタグを選択します。
3. 設定後、「保存」をクリックします。

■ IdP サーバからのログイン

IdP サーバから Nuclias にログインを実施する場合は、IdP サーバ側に以下の情報を入力する必要があります。
IdP サーバの設定方法等につきましては、各サーバの説明書等をご確認ください。

項目	説明
Assertion Consumer URL	Nuclias の 管理 > アドバンスト設定 > SAML 設定 画面の「URL」に記載されている URL を入力します。
SAML Attributes	以下のとおり記載します。 ・ userName：任意のユーザ名を入力します。 ・ roleName：Nuclias の管理 > アドバンスト設定 > SAML 設定画面の「SAML ロール」に作成されている「名前」を入力します。 ・ email：任意のメールアドレスを入力します。

アドバンスト設定 > SMS 設定

認証に使用する SMS アカウントの設定を行います。
SMS 認証を行う場合は「Twilio」のアカウントが必要です。別途 Twilio のサービスをご契約ください。

管理 > アドバンスト設定 > SMS 設定を選択し、以下の画面で SMS の設定を行います。



図 10-44 SMS 設定

■ Twilio SMS 設定の追加

1. 「Twilio SMS 設定の追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

Twilio SMS設定の追加

名前*

1-64文字

TwilioアカウントSID*

1-64文字

Twilio認証トークン*

1-128文字

Twilio番号*

+1234567890

再送 (分)* ?

2

最大再送 (回)* ?

3

最大リクエスト (回)* ?

3

拒否時間 (分)* ?

120

ワンタイムパスワード有効期限 (分)* ?

10

許可済電話番号* ?

*

アクセス権限

アクセスレベル

組織

閉じる

保存

図 10-45 Twilio SMS 設定の追加

2. 以下の項目を設定します。

項目	説明
名前	SMS 設定の名前を 1-64 文字で入力します。
Twilio アカウント SID	Twilio アカウント SID を 1-64 文字で入力します。
Twilio 認証トークン	Twilio 認証トークンを 1-128 文字で入力します。
Twilio 番号	Twilio 番号を入力します。
再送 (分)	ワンタイムパスワードが記載された SMS を再送できるようになる時間 (単位: 分) を設定します。 「0」に設定した場合はすぐに再送できます。
最大再送 (回)	ワンタイムパスワードが記載された SMS を再送できる回数を設定します。 「0」に設定した場合は再送できません。
最大リクエスト (回)	ワンタイムパスワードを要求できる最大回数を設定します。 「0」に設定した場合は無制限に要求できます。
拒否時間 (分)	ワンタイムパスワードの再送または要求制限に達した後、再度要求ができるようになるまでにクライアントが待機しなければならない時間 (単位: 分) を設定します。 「0」に設定した場合はすぐに要求できます。
ワンタイムパスワード有効期限 (分)	ワンタイムパスワードが有効な時間 (単位: 分) を設定します。
許可済電話番号	ワンタイムパスワード SMS の要求が許可されている国の通話コードです。コードはカンマで区切る必要があります。 ワイルドカードは、すべてのコードが許可されていることを意味します。
アクセスレベル	アクセスレベルを「組織」「サイト」「サイトタグ」から選択します。

3. 設定後、「保存」をクリックします。

アドバンスト設定 > シスログサーバ設定

シスログサーバの追加、設定、削除を実行できます。

注意 「シスログサーバ設定」は DBS-2000 シリーズではサポートされていません。

管理 > アドバンスト設定 > シスログサーバ設定を選択します。

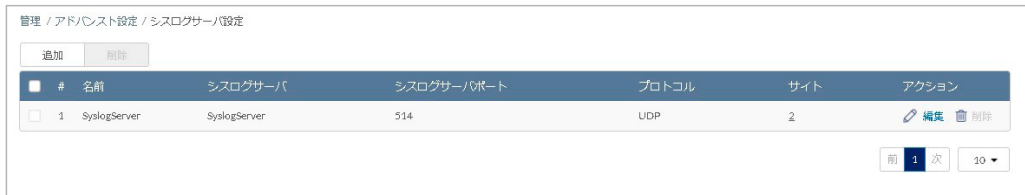


図 10-46 シスログサーバ設定

■ シスログサーバの追加

1. **管理 > アドバンスト設定 > シスログサーバ設定**画面で「追加」をクリックし、以下の画面を表示します。

図 10-47 シスログサーバ設定の追加

2. 以下の項目を設定します。

項目	説明
名前	設定名を 1-64 文字で入力します。
シスログサーバ	シスログサーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
シスログサーバポート	シスログサーバのポートを選択します。
プロトコル	プロトコルを「UDP」「TCP」から選択します。
サイトの選択	シスログサーバを紐づけるサイトを選択します。

3. 「保存」をクリックし、設定を保存します。

■ シスログサーバの編集

1. **管理 > アドバンスト設定 > シスログサーバ設定**画面で、編集するシスログサーバのチェックボックスを選択します。

2. アクション欄の「編集」をクリックします。

3. 編集後、「保存」をクリックします。

■ シスログサーバの削除

1. **管理 > アドバンスト設定 > シスログサーバ設定**画面で、削除するシスログサーバのチェックボックスを選択します。

2. 「削除」をクリックします。

3. 確認画面で「はい」をクリックします。

注意 サイトに紐づけられているシスログサーバは削除できません。
シスログサーバを削除する場合は、「編集」の「サイトの選択」でサイトが選択されていない状態にしてください。

注意 シスログサーバは DBA シリーズ、および DBG シリーズのみ対応しています。

デバイスの追加

デバイスを Nuclias に追加する方法について説明します。

1. 管理 > デバイスの追加をクリックし、以下の画面でデバイスの追加作業を行います。

デバイスの追加

デバイスUID *

Device UID

登録するデバイスのUIDを入力してください
UID フォーマットは XXXX-XXXX-XXXX または XXXXXXXXXXXX です。

デバイス名

1-64文字

サイト ?

プロファイル *

更にライセンスを追加する

キャンセル

保存

図 10-48 デバイスの追加

2. 以下の項目を設定します。

項目	説明
デバイス UID	デバイス UID を入力します。
デバイス名	Nuclias 上で管理するためのデバイス名を入力します。
サイト	デバイスに適用するサイトをプルダウンで選択します。
プロファイル	デバイスに適用するプロファイルをプルダウンで選択します。
ライセンスキー	「更にライセンスを追加する」をクリックし、ライセンスキーを紐づけます。 枠をクリックすると、そのデバイスで使用可能なライセンスキーがプルダウンで表示されますので、選択することができます。使用可能なライセンスキーとは、デバイスに初期状態で紐づけられているライセンスキー、または既に組織に登録されているライセンスキーです。これらとは異なるライセンスキーを使用する場合は、枠に直接入力してください。 選択可能なライセンスキーが複数ある場合の詳細については、巻末の「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」をご確認ください。 ライセンスキー #1 * ライセンスキーを選択してください 1123.1000.1234.1123.1000.1234(363 日) 1123.1000.1123.1000.1234.1123(361 日) 1123.1000.1123.1000.1234.1123(195 日) 注意 デバイスに紐づけられているフリーライセンスは最初にデバイスを登録した組織に保存され、他の組織で使用することはできません。該当デバイスを本組織から削除し、他の組織へ登録し直す場合、別途ライセンスを用意頂く必要があります。

3. 設定後、「保存」をクリックします。

デバイス一括インポート

複数のデバイスを Nuclias に一括で追加する方法について説明します。

一括インポートは xls 形式または xlsx 形式のファイルを使用して行います。

1. **管理** > **デバイス一括インポート** をクリックし、以下の画面を表示します。

管理 / デバイス一括インポート

デバイス一括インポート

xls形式またはxlsx形式のファイルをアップロードして、複数の組織の複数のモデル名のデバイスを登録します。1回の処理で最大1000デバイス登録できます。

UID、サイト、タイムゾーンを入力する必要があります。

プロファイル名が入力されていない場合は、自動的にデフォルトプロファイルが適用します。アクセスレベルが「組織」のプロファイルのみにデバイスを登録できます。

ライセンスが入力されていない場合、自動的にデフォルトライセンスが適用されます。デフォルトライセンスも、使用可能ライセンスもないデバイスは登録に失敗します。

プロセスが完了した後、更新された情報については、このページを更新してください。

クラウド管理APIのサンプルテンプレートファイルをダウンロードできます[こちら](#)。

図 10-49 デバイス一括インポート

2. 「閲覧」をクリックし、xls 形式または xlsx 形式のファイルを選択します。
ファイルのサンプルが必要な場合は、指定のメッセージをクリックします。
3. 「アップロード」をクリックし、ファイルをアップロードします。

第 11 章 ヘルプ

- 「お知らせ」
- 「連絡をする」
- 「リソース」
- 「トラブルシューティング」
- 「チュートリアル」

お知らせ

ヘルプ> お知らせをクリックし、新機能サポートなどのお知らせを表示します。

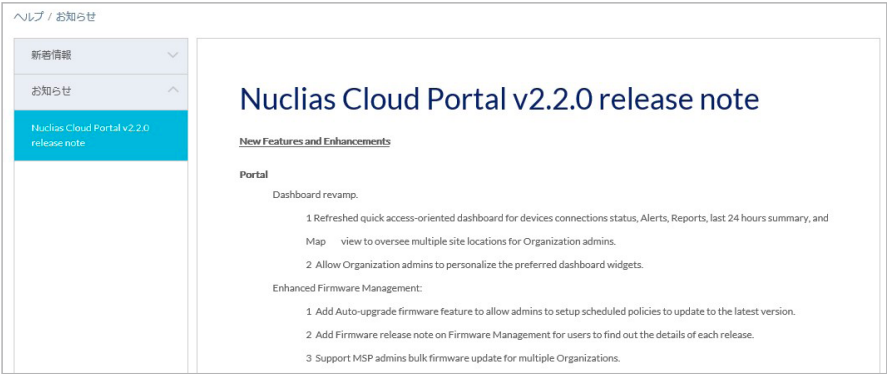


図 11-1 お知らせ

連絡をする

ヘルプ> 連絡をするをクリックし、情報を記入することにより Nuclias に関するお問い合わせができます。

図 11-2 連絡をする

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
名前	自身の名前を入力します。
Eメール	連絡先のメールアドレスを入力します。
電話	必要に応じ、電話番号を入力できます。 ただし、Nuclias は電話による問い合わせや回答は実施していません。
問題種別	問い合わせ内容に最も近いカテゴリをプルダウンから選択します。 プルダウンメニューは「設定」「セットアップ」「デバイスの検出」「ライセンスの問題」「プライバシー関連」です。 「設定」「セットアップ」「デバイスの検出」「ライセンスの問題」を選択した場合、新たに「デバイスタイプ」「問題のあるデバイス」項目が表示されますので、該当するデバイスを選択してください。
内容	発生した事象の詳細を記述してください。
添付	画面キャプチャやシステム構築図など、事象をより詳細に把握できる資料がある場合は添付します。 1つのファイルにつき最大2MBまで対応できます。

入力後、「送信」をクリックします。

リソース

ヘルプ> リソースをクリックすると、Nuclias Cloud について説明する Web サイト（英語版）に移動します。

トラブルシューティング

ヘルプ> **トラブルシューティング**をクリックし、「Nuclias サポートの許可」を有効 / 無効に設定します。

有効にすると PIN コードが画面に表示されますので、その PIN コードをディーリンクサポートにお伝え頂くことにより、ディーリンクサポートはこの組織にアクセスできるようになります。

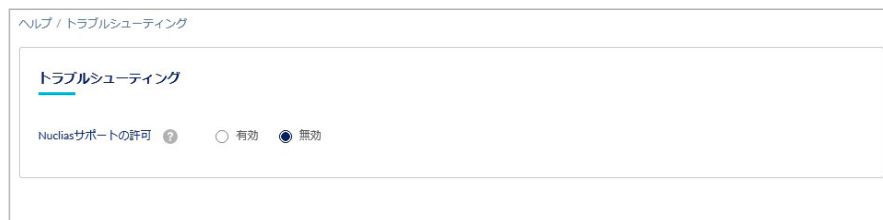


図 11-3 トラブルシューティング

チュートリアル

ヘルプ> チュートリアルをクリックすると、Nuclias の設定についてのチュートリアル（英語版）が表示されます。

第 12 章 Web GUI、CLI の設定

- 「Web GUI (Web ベース設定ユーティリティ) について」
- 「DBS-2000 シリーズの Web GUI 設定」
- 「コマンドラインインタフェース (CLI) の設定」

Web GUI (Web ベース設定ユーティリティ) について

本章では、Nuclias を使用せず、PC からスイッチに直接アクセスし、ブラウザで設定を行う「Web GUI」について説明します。

Web GUI から設定または実行できる主な項目は以下のとおりです。

- IP アドレスの設定
- ポート設定の確認
- ファームウェアアップグレード
- Ping の送信

上記以外の設定項目については、Nuclias クラウドから設定を行ってください。

注意 Nuclias 用スイッチが LAN 内の DHCP サーバから IP アドレスを取得できる場合は、Web GUI からの設定は不要です。

DBS-2000 シリーズの Web GUI 設定

Web GUI 設定画面へのログイン

1. 設定を行う PC で Web ブラウザを開きます。
2. Web ブラウザのアドレス欄に DBS-2000 のホスト名を入力し、「Enter」キーを押下します。
「DBS-2000 のホスト名」は “DBS-2000-YYYY” です。「YYYY」には機器背面に貼付されている MAC アドレスの下 4 ケタの英数字を入力します。

(例) : https://DBS-2000-YYYY

1.20.008 より古いバージョンのファームウェアを使用している場合は、「http://DBS-2000-YYYY」と入力してください。

既にスイッチの IP アドレスが判明している場合は、IP アドレスを直接 URL 欄に入力します。

3. 接続に成功すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

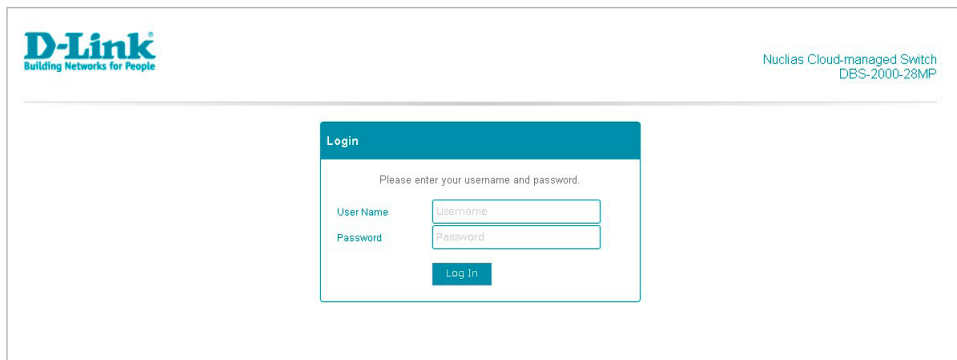


図 12-1 ログイン

4. 「User Name」と「Password」にユーザ名とパスワードを入力し、「Log in」をクリックします。
ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。

DBS-2000 シリーズを Nuclias に登録後は、パスワードが変更されます。

変更済みのパスワードは、Nuclias の画面で確認できます。

- (1) モニタ > スイッチ > デバイス 画面でデバイス名をクリックします。
- (2) 「基本」タブの「ローカル資格情報」を確認します。

Status（ステータス）

ログインすると、下記の通りデバイスのステータス画面が表示されます。
ステータス画面では、FW バージョン、MAC アドレスなど DBS-2000 についてのデバイス情報を参照できます。
他の画面からステータス画面に戻る場合は、上部メニューの **Status > Overview** をクリックしてください。

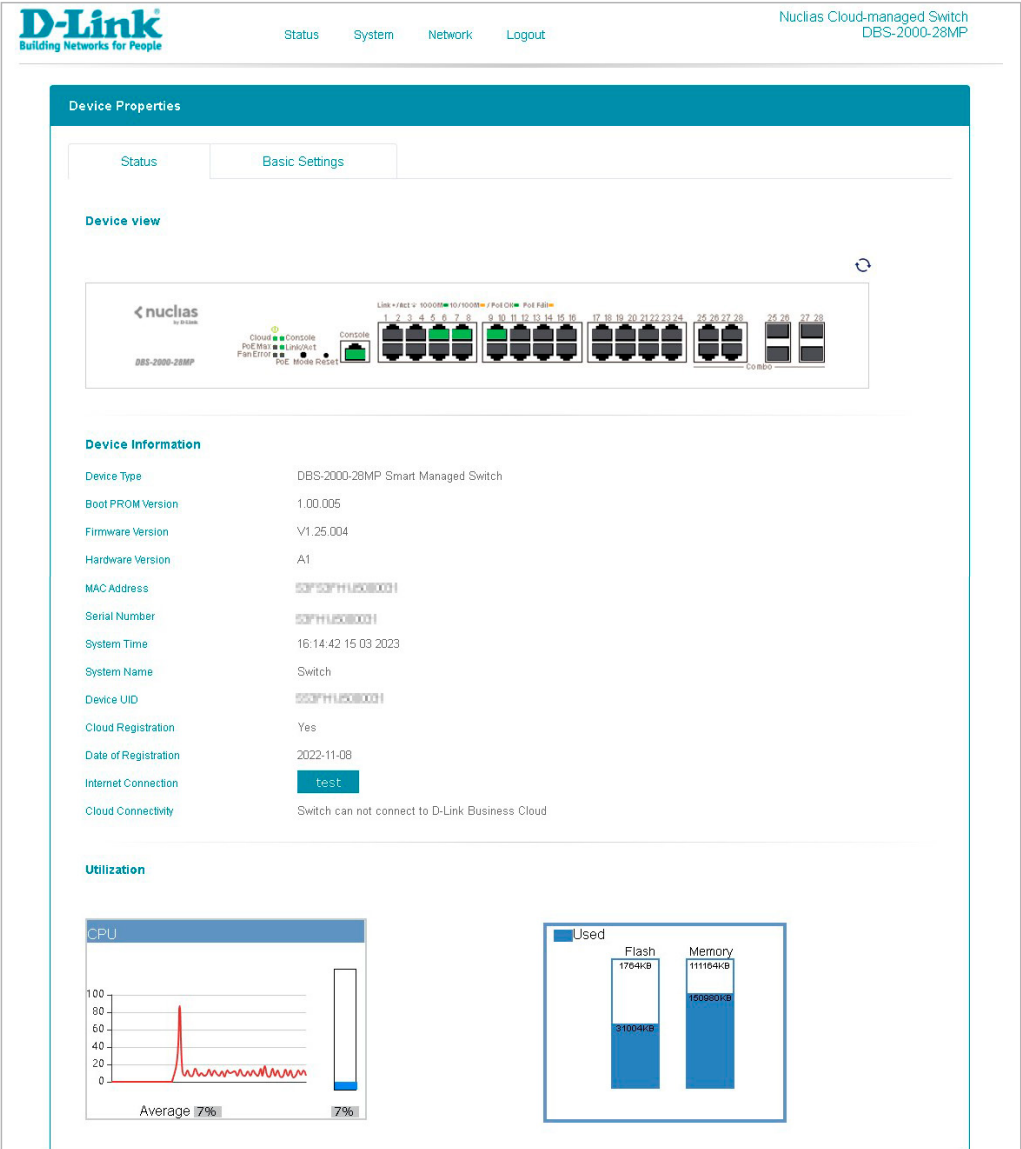


図 12-2 Status（ステータス）画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
Device View	
スイッチの前面パネル上のポートについて、ポート LED の状態を表示します。	
Device Information	
Device Type	デバイスのモデル名を表示します。
Boot PROM Version	Boot PROM バージョンを表示します。
Firmware Version	ファームウェアバージョンを表示します。
Hardware Version	ハードウェアバージョンを表示します。
MAC Address	MAC アドレスを表示します。
Serial Number	製品のシリアル番号を表示します。
System Time	製品のシステムの時刻を表示します。
System Name	製品のシステム名を表示します。
Device UID	本体のデバイス UID を表示します。
Cloud Registration	UID が Nuclias に登録されている場合は「Yes」を表示します。Nuclias へ登録されていない場合は「No」です。
Date of Registration	Nuclias に UID が登録され、デバイスがオンラインになった日を表示します。
Internet Connection	「Test」をクリックすると、インターネットに接続しているかのテストを行い、テスト結果を表示します。
Cloud Connectivity	クラウドサーバ（Nuclias サーバ）に接続されているかを表示します。

項目	説明
Utilization	
CPU	CPU の使用率を表示します。
Flash	Flash の使用率を表示します。
Memory	メモリの使用率を表示します。

Basic Settings（基本設定）

「Basic Settings」タブをクリックすると基本設定画面が表示されます。
基本設定画面では、IP アドレスの設定を行うことができます。

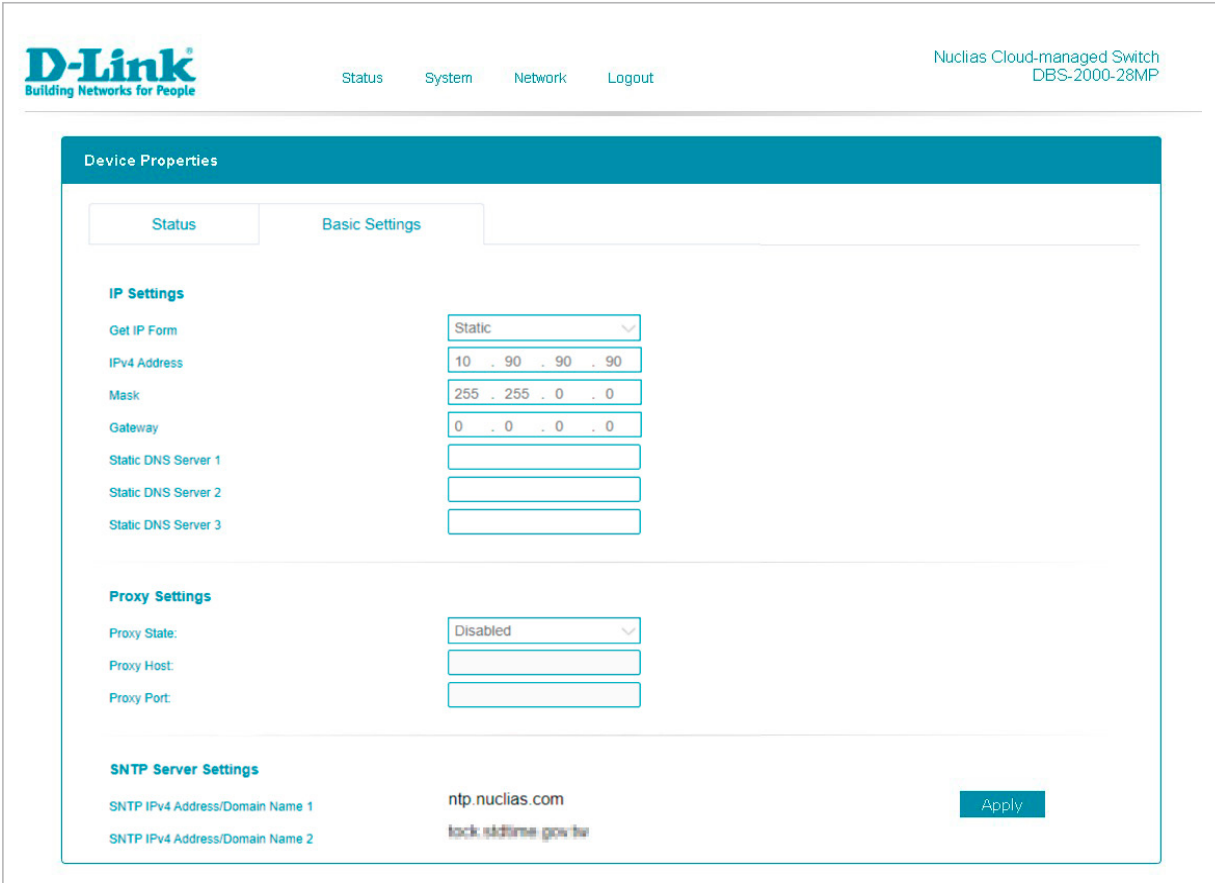


図 12-3 基本設定（Basic Settings）画面

本画面には以下の項目があります。

項目	説明
IP Settings	
Get IP From	IP アドレスの取得方法を以下から選択します。 「DHCP」：DHCP サーバから自動的に IP アドレスを取得します。 「Static」：スタティック IP アドレスを手動で設定します。
IPv4 Address	「Get IP From」で「Static」を選択した場合、IPv4 アドレスを入力します。
Mask	「Get IP From」で「Static」を選択した場合、サブネットマスクを入力します。
Gateway	「Get IP From」で「Static」を選択した場合、ゲートウェイを入力します。
Static DNS Server 1-3	静的 DNS サーバを設定します。 注意 スタティックで DNS を設定する場合、# 1、# 2、# 3 に同じ IP アドレスを設定することはできません。
Dynamic DNS Server	動的 DNS サーバを表示します。「DHCP」選択時に表示されます。
Proxy Settings	
Proxy State	「Get IP From」で「DHCP」を選択した場合、プロキシを有効または無効に設定します。 注意 DBS-2000 で使用するプロキシサーバは WebSocket をサポートしている必要があります。
Proxy Host	「Proxy State」を有効にした場合に、「プロキシホスト」を設定します。
Proxy Port	「Proxy State」を有効にした場合に、「プロキシポート」を設定します。
SNTP Server Settings	
SNTP IPv4 Address/Domain Name 1-3	SNTP サーバの IPv4 アドレス、またはドメイン名を表示します。

項目	説明
Management VLAN Settings	
VID (1-4094)	マネジメント VLAN ID を表示します。

設定後、「Apply」をクリックし設定を保存します。

System > Firmware Upgrade (システム > ファームウェアアップグレード)

ファームウェアのアップグレードを行います。



図 12-4 Firmware Upgrade (ファームウェアアップグレード) 画面

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Source URL	「ファイルを選択」をクリックしてファームウェアを選択後、「Upgrade」をクリックします。

System > Ping (システム > Ping)

「Ping」は指定した IP アドレスに ICMP Echo パケットを送信するプログラムです。宛先の機器はスイッチから送信された "echoes" に応答します。ネットワーク上のスイッチと機器の接続状況を確認するうえで非常に有効です。

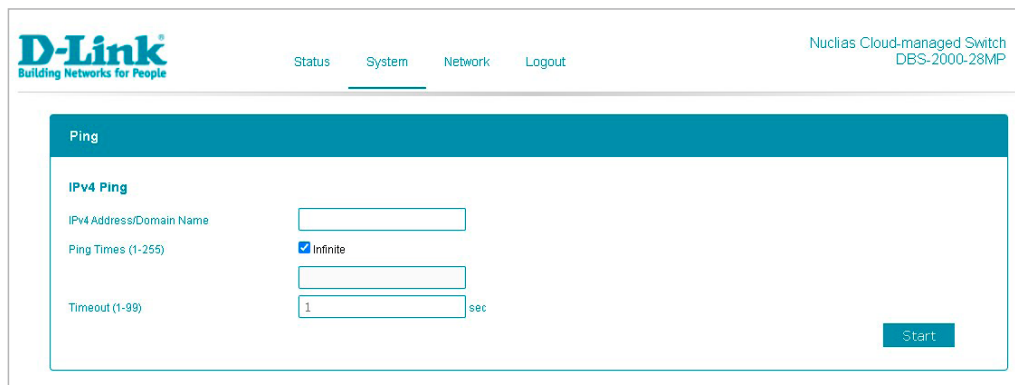


図 12-5 Ping 画面

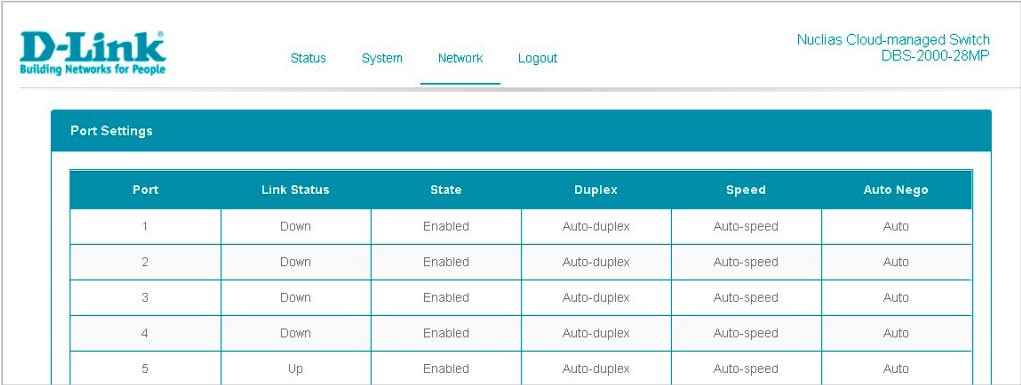
画面には以下の項目があります。

項目	説明
IPv4 Address/Domain Name	Ping する IPv4 アドレス、または検出するシステムのドメイン名を入力します。
Ping Times (1-255)	繰り返し行う Ping の回数を入力します。 設定可能範囲：1-255 「Infinite」にチェックをいれた場合は回数を制限しません。プログラムが停止されるまで「ICMP Echo」パケットを送信します。
Timeout (1-99)	Ping メッセージが到達するまでのタイムアウトの時間を入力します。指定時間内にパケットが IP アドレスを検出できない場合、Ping パケットは破棄されます。 設定可能範囲：1-99 (秒)

「Start」をクリックし Ping を実行します。

Network > Port Settings（ネットワーク > ポート設定）

各ポートの設定を表示します。



Port Settings					
Port	Link Status	State	Duplex	Speed	Auto Nego
1	Down	Enabled	Auto-duplex	Auto-speed	Auto
2	Down	Enabled	Auto-duplex	Auto-speed	Auto
3	Down	Enabled	Auto-duplex	Auto-speed	Auto
4	Down	Enabled	Auto-duplex	Auto-speed	Auto
5	Up	Enabled	Auto-duplex	Auto-speed	Auto

図 12-6 Port Settings（ポート設定）画面

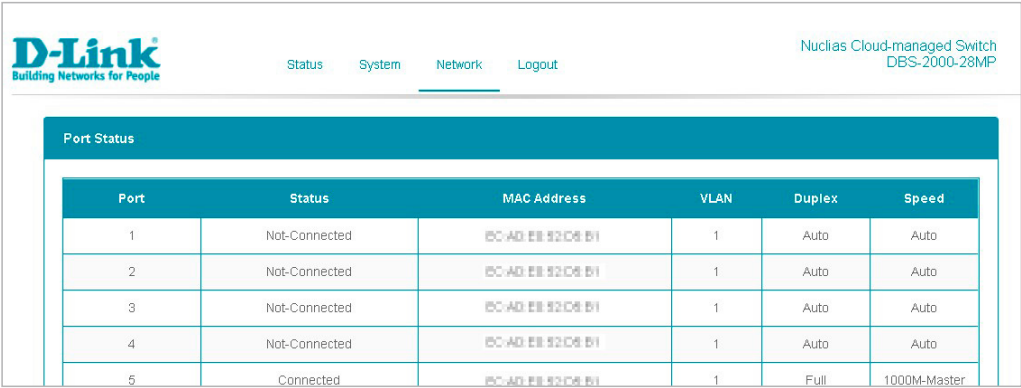
画面には以下の項目があります。

項目	説明
Port	ポート番号を表示します。
Link Status	ポートのリンクステータスを表示します。
State	ポートの有効 / 無効を表示します。
Duplex	デュプレックスモードの設定を表示します。
Speed	ポートの速度を表示します。
Auto Nego	オートネゴシエーションの設定を表示します。

注意 ローカル Web GUI からのポート設定はできません。

Network > Port Status（ネットワーク > ポートステータス）

各ポートのステータスを表示します。



Port Status					
Port	Status	MAC Address	VLAN	Duplex	Speed
1	Not-Connected	BC:AD:EE:52:08:B1	1	Auto	Auto
2	Not-Connected	BC:AD:EE:52:08:B1	1	Auto	Auto
3	Not-Connected	BC:AD:EE:52:08:B1	1	Auto	Auto
4	Not-Connected	BC:AD:EE:52:08:B1	1	Auto	Auto
5	Connected	BC:AD:EE:52:08:B1	1	Full	1000M-Master

図 12-7 Port Status（ポートステータス）画面

画面には以下の項目があります。

項目	説明
Port	ポート番号を表示します。
Status	ポートのリンクステータスを表示します。
MAC Address	ポートの MAC アドレスを表示します。
VLAN	ポートの VLAN を表示します。
Duplex	デュプレックスモードの設定を表示します。
Speed	ポートの速度を表示します。

Network > 802.1Q VLAN（ネットワーク > 802.1Q VLAN）

VLAN の設定を表示します。

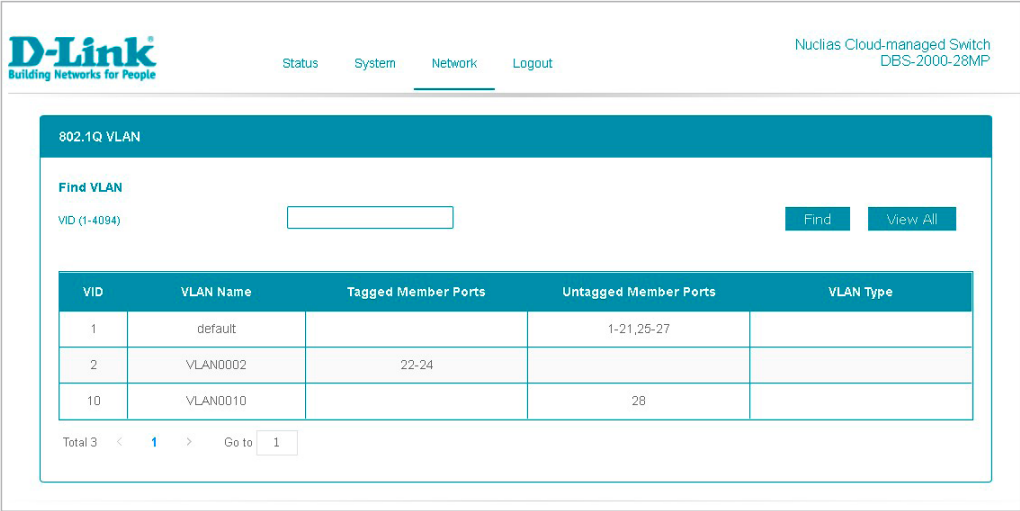


図 12-8 802.1Q VLAN 画面

画面には以下の項目があります。

項目	説明
VID(1-4094)	表示する VLAN ID を入力します。 「Find」をクリックすると VLAN が表示されます。 「View All」をクリックするとすべての VLAN が表示されます。
VID	VLAN ID を表示します。
VLAN Name	VLAN 名を表示します。
Tagged Member Ports	タグ付きメンバポートを表示します。
Untagged Member Ports	タグ無しメンバポートを表示します。
VLAN Type	VLAN タイプを表示します。

Logout（ログアウト）

Web GUI 上部の「Logout」をクリックすると Web GUI からログアウトし、ログイン画面が表示されます。



図 12-9 Logout（ログアウト）

コマンドラインインタフェース (CLI) の設定

Nuclias を使用せずに DBS-2000 へ直接接続し、設定を行うコマンドラインインタフェース (CLI) について説明します。

DBS-2000 の設定と管理は、基本的に「Nuclias」を使用して行いますが、一部の設定は RJ-45 コンソールポートを使用して CLI から行うことができます。

コンソールポートを使用して CLI から設定を行う場合、以下を準備してください。

- ・ターミナルソフトを操作するシリアルポート搭載の端末またはコンピュータ
- ・同梱の RJ-45/RS-232C 変換ケーブル

端末をコンソールポートに接続する

ケーブルの接続

1. RJ-45/RS-232C 変換ケーブルの RS-232C コネクタを、シリアルポート搭載の端末またはコンピュータに接続します。
2. RJ-45/RS-232C 変換ケーブルの RJ-45 コネクタを、本製品のコンソールポートに接続します。

ターミナルソフトの設定

1. VT100 のエミュレーションが可能なターミナルソフトを起動します。
2. 「接続の設定」画面の「接続方法」で、適切なシリアルポート (COM 1 など) を選択します。
3. ターミナルソフトの設定を DBS-2000 のシリアルポートの設定に合わせます。
シリアルポートの設定は以下の通りです。
 - ・スピード: 「115200」
 - ・データ: 「8bit」
 - ・パリティ: 「なし (none)」
 - ・ストップビット: 「1bit」
 - ・フロー制御: 「なし (none)」

ログインとログアウト

1. ターミナルソフトの設定完了後、DBS-2000 とシリアルポート搭載の端末またはコンピュータをケーブルで接続します。
2. DBS-2000 の電源をいれます。
ブートシーケンスが完了すると、ターミナルソフトにログイン画面が表示されます。
3. ユーザ名とパスワードを入力します。
ユーザ名とパスワードの初期値は「admin」です。
4. コマンドを入力して設定を行います。
5. CLI による設定を終了する場合は、「logout」コマンド使用するか、ターミナルソフトを終了します。

CLI コマンド一覧

以下の CLI コマンドを使用し、ネットワークやクラウドの接続状況の確認や、一部の項目の設定などを行うことができます。

コマンド	動作
?	スイッチのコマンドリストを表示します。
logout	接続を終了して、ログアウトします。
reset system	設定を工場出荷時設定にリセットします。
reboot	スイッチを再起動します。
show switch	スイッチのデバイス情報を表示します。デバイス名、ファームウェアバージョン、デバイス UID などを確認できます。
show ipif	スイッチの IP アドレス情報を表示します。
show current connectivity	クラウドへの接続状況を表示します。
ping {<ip_addr>} [size <integer(1-60000)>] [timeout <integer(1-100)>] [repeat<integer(0-255)>]	Ping を実行し、ネットワーク上の他の IP アドレスに到達可能かどうかをチェックします。 • <ip_addr> : Ping を送信する宛先の IP アドレスを指定します。 • size <integer(1-60000)> : Ping するパケットのサイズを指定します。 • timeout <integer(1-100)> : Ping メッセージが到達するまでのタイムアウトの時間 (秒) を指定します。 • repeat<integer(0-255)> : Ping の試行回数を指定します。
config ipif { [ipaddress <ip_addr> <ip_mask>] [gateway <ip_addr>] dhcp }	スwitchの IP アドレスを設定します。 • ipaddress <ip_addr> <ip_mask> : IP アドレスとマスクを指定します。 • gateway <ip_addr> : ゲートウェイを指定します。 • dhcp : DHCP で IP アドレスを取得します。
config dns [primary <ip_addr>] [secondary <ip_addr>] [third <ip_addr>]	スwitchの DNS サーバを設定します。 • primary <ip_addr> : プライマリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。 • secondary <ip_addr> : セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。 • third <ip_addr> : サード DNS サーバの IP アドレスを指定します。
config management vlan VLAN-ID	管理 VLAN ID を設定します。 • VLAN-ID : VLAN ID を指定します。
help	CLI についての Help を表示します。

付録

- 「付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細」
- 「付録B Eメール認証時の画面」
- 「付録C 機器故障の際は」

付録A ライセンスの適用や開始等に関する詳細

注意 ライセンス切れとなった機器の動作については、動作保証外になります。

■ ライセンスを複数適用する場合

1 台のデバイスに複数のライセンスを適用する場合、適用した順に #1、#2、・・・と番号が割り振られ、#1 から順に使用されます。
#2 以降のライセンスは、それより若い番号のライセンスが全て消費されるか手動で解除された後にはじめて使用開始されます。
例えば以下のような場合、ライセンスキー「QST・・・」が先に使用されます。

デバイスの追加

デバイスUID*

123123456789

デバイス名

Device_1

登録するデバイスのUIDを入力してください
UID フォーマットは XXXX-XXXX-XXXX または XXXXXXXXXXXX です。

サイト*

aaaa

プロファイル*

1

ライセンスキー # 1*

QST123456789

ライセンスキー # 2*

UDM123456789

更にライセンスを追加する

キャンセル

保存

図 13-1 デバイス追加画面

また、「以前デバイスに適用して使用開始したが、現在はデバイスに適用されていないライセンス」は、「ライセンスキー #1」にのみ入力できます。
同時に適用できるライセンスの組み合わせ：



同時に適用できないライセンスの組み合わせ：



■ ライセンスの開始日と期限日について

ライセンスキーの「開始日」は、そのライセンスキーを適用させたデバイスが最初に Nuclias に接続され、オンラインになった日です。開始日が決まると自動的に期限日も決まり、この期限日は変更することはできません。
一度オンラインにすると、その後デバイスがオフラインになった場合やデバイスの登録が解除された場合でも、ライセンスは使用中の状態を継続しますのでご注意ください。

■ 機器交換時のライセンスの適用について

デバイスの故障などにより機器交換が必要になった際、Nuclias サイト上のデバイス削除や新デバイスの追加操作は、お客様自身（管理者権限のユーザ）にて実施頂きます。
新デバイスを登録する際は、故障デバイスが使用していたライセンスキーを適用することができます。
これによりデバイスが元々所有しているライセンスキーは未使用の状態になるため、別途有効に使用することができるようになります。

- 故障したデバイスの削除は、**設定 > スイッチ > デバイス** 画面から行うことができます。
デバイスを削除すると、そのデバイスに紐づけられていたライセンスはどのデバイスにも紐づけられていない状態となり、他のデバイスに紐づけられるようになります。
- 新しいデバイスとライセンスの追加方法については、「[デバイスの追加](#)」を参照してください。

付録 B E メール認証時の画面

キャプティブポータルでの E メール認証時に、サーバから入力されたメールアドレスに送付されるメールは以下の通りです。

タイトル	Verify your email to use Wi-Fi
送信元	D-Link Nuclias <verify@nuclias.com>
本文	Dear Wi-Fi guest user, Welcome. Please click the link to continue Wi-Fi use. https://mail.redirect.nuclias.com/email_ccp?tid=1234567890123456&email=XXXXXxxxxxXXXXXxxxxxXXXXXxxxxxXXXXXxxxxx&otp=XXXXXxxxxxXXXXXxxxxxXXXXXxxxxx ようこそ！ Wi-Fiの使用を続けるには、上記のリンクをクリックしてください。 환영합니다! Wi-Fi를 계속 사용하시려면 위의 링크를 클릭해 주십시오. 欢迎!请单击上面的链接继续使用Wi-Fi。 Bienvenue! Veuillez cliquer sur le lien ci-dessus pour continuer à utiliser le Wi-Fi. Benvenuto! Fare clic sul collegamento sopra per continuare a utilizzare il Wi-Fi. ¡Bienvenido! Haga clic en el enlace anterior para continuar con el uso de Wi-Fi. Herzlich willkommen! Bitte klicken Sie auf den obigen Link, um die Wi-Fi-Nutzung fortzusetzen. Powered by Nuclias Cloud

※記載される URL は、送付されるメールによって異なります。

付録 C 機器故障の際は

本製品 はビジネス向けネットワーク製品の長期無償保証サービス リミテッドライフタイム保証の対象製品です。
故障時は当社 WEB サイト「各種お問い合わせ」ページ、故障・修理申請より申請ください。

故障・修理申請

<https://www.dlink-jp.com/contact/>

D-Link ではリミテッドライフタイム保証の他に有償保守サービスを提供しています。
有償保守サービス詳細については、次の URL より保守約款、仕様書をご確認ください。

有償保守サービス詳細

<https://www.dlink-jp.com/support/support-services/support-info/>

注意

製品保証に基づく修理のご依頼、並びに有償保守サービスやその他理由による機器交換を頂く場合、必ず事前にお客様にて Nuclias からデバイス UID 削除をし、元々紐づいていたライセンスキーを交換後のスイッチで利用できる状態にしてください。

もしデバイス UID の削除を実施しておらず、交換後のスイッチにて新しいライセンスを適用することになった場合でも、苦情およびライセンス期間の延長等はお請けできません。

D-Link はお客様の設定画面に接続できないため、ご依頼を頂いてもデバイス UID の削除はできません。そのためデバイス UID 削除を忘れたことによる、苦情およびライセンス期間の延長、代替ライセンスの配布等はお請けできません。